

令和元年度
福島県道徳教育総合支援事業

令和元年度 道徳の礎（いしずえ）

【理論編】 道徳科の授業の充実に向けて

【実践編】 令和元年度道徳教育推進校報告

【Q&A】 道徳科の教育課程Q&A

福島県教育委員会



道徳の礎（いしずえ）の使い方

「道徳の礎（いしずえ）」は、「ふくしまの道徳教育」の実現に向けて必要な理論や実践を集録し、ふくしまの先生方の悩みに寄り添う一冊です。

ふくしまの道徳教育の実現に向けて、

- 【理論編】 道徳科の授業の充実に向けて
- 【実践編】 令和元年度道徳教育推進校実践報告
- 【Q & A】 教育課程 Q & A

以上の3編構成で作成しています。さらに、先生方の悩みに合わせて、すぐに頁を開くことができるよう、色別の5つのインデックスを付けています。御自身の問題意識に合わせて御活用ください。

【インデックス1】 道徳科の授業の充実に向けて

道徳教育や道徳科の理論が分からない……。

⇒ 「道徳のとびら」や「道徳のかけ橋」及び「特別の教科 道徳」の実施に向けた地区別研修会で発信してきた内容をまとめてあります。「道徳科の指導と評価の一体化」等について詳しく解説しています。また、質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例も3つ掲載しています。

1頁
～18頁

【インデックス2】 道徳教育推進校の実施計画書等

道徳教育の学校の基本方針が大切とは言うけれど……。

⇒ 令和元年度道徳教育推進校の道徳教育推進の視点、道徳教育全体計画及び別葉等を掲載しています。学校の道徳教育の方針を明確にしたい時に御活用ください。

19頁
～62頁

【インデックス3】 多様な指導方法に基づいた授業実践

多様な指導方法は大切だけれど、どのように授業を構想すればよいの……。

⇒ 令和元年度道徳教育推進校の実践と考察を掲載しています。授業実践の際の参考にしてください。

63頁
～84頁

【インデックス4】 ふくしま道徳教育資料集を活用した授業実践

ふくしま道徳教育資料集をより効果的に活用したい……。

⇒ 令和元年度道徳教育推進校が活用したふくしま道徳教育資料集の実践と考察を掲載しています。「ふくしまならではの」道徳教育の実現に向けて参考になります。

85頁
～106頁

【インデックス5】 新教育課程Q&A（道徳科編）

道徳科の教育課程で分からないことがあります……。

⇒ 既に学校に周知している新教育課程Q&Aから道徳科の部分を抜粋しました。教育課程の編成に向けて悩んだときに開いて確認してみてください。

107頁
～113頁

令和元年度道德教育推進校及び掲載頁一覧

地 区	学 校 名	内 容	掲載頁
県 北	福島県立安達高等学校	実施計画・全体計画・別葉等	19～24
		質の高い多様な授業実践	81～83
		ふくしま道德教育資料集を活用した実践	103～105
県 中	天栄村立天栄中学校	実施計画・全体計画・別葉等	25～30
		質の高い多様な授業実践	72～74
		ふくしま道德教育資料集を活用した実践	94～96
県 南	泉崎村立泉崎中学校	実施計画・全体計画・別葉等	31～36
		質の高い多様な授業実践	75～77
		ふくしま道德教育資料集を活用した実践	97～99
会 津	猪苗代町立長瀬小学校	実施計画・全体計画・別葉等	37～42
		質の高い多様な授業実践	63～65
		ふくしま道德教育資料集を活用した実践	85～87
南会津	南会津町立田島小学校	実施計画・全体計画・別葉等	43～48
		質の高い多様な授業実践	66～68
		ふくしま道德教育資料集を活用した実践	88～90
相 双	南相馬市立原町第三小学校	実施計画・全体計画・別葉等	49～56
		質の高い多様な授業実践	69～71
		ふくしま道德教育資料集を活用した実践	91～93
いわき	いわき市立湯本第二中学校	実施計画・全体計画・別葉等	57～62
		質の高い多様な授業実践	78～80
		ふくしま道德教育資料集を活用した実践	100～102



「会津田島祇園祭の子供歌舞伎」 の練習風景

南会津町立田島小学校の3年生は、毎年総合的な学習の時間の一環として、「重要無形文化財義太夫節総合認定保持者」に認定されている鶴澤 弥吉様を講師として迎え、子ども歌舞伎に取り組んでいます。写真は、その練習風景です。

【理論編】

道徳科の授業の充実に向けて



【第1部 理論編】道徳科の授業の充実に向けて

「道徳教育の目標」「道徳科の目標」について詳しく教えてください。

道徳教育の目標

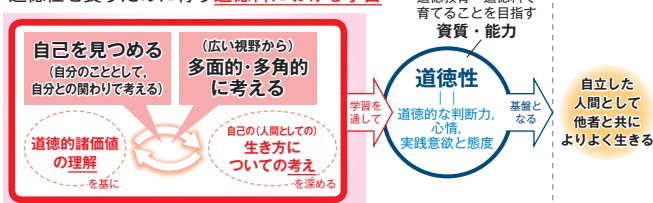
(小(中)学校学習指導要領第1章総則 第1 教育課程編成の基本方針 2 抜粋)
学校における道徳教育は、**特別の教科である道徳(以下「道徳科」という。)**
を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、
各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に
応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、
自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として
他者と共によりよく生きるための**基盤となる道徳性**を養うことを目標とする。

- 学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」の記述・「総則」編に記載
- 「特別の教科 道徳」の記述・「特別の教科 道徳」編に記載
- 「道徳教育」の「要」として「道徳科」の位置付けは従来と変わらない
- 育むものは、内面的資質としての道徳性に統一

道徳科の目標と特質

(小(中)学校学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の「第1 目標」)
第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための
基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、
物事を多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、
道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。**

道徳性を養うために行う**道徳科における学習**



【本時のねらいは…】

〇〇〇を通して、(道徳的な判断力or心情or実践意欲or態度)を育てる。

新学習指導要領において、学校の教育活動全体を通じて行う「道徳教育」については「総則」の章に、授業については「特別の教科 道徳」の章に、別の章立てとなっており記載されています。両方の目標や内容、関係をとらえることが大切です。

特に「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」「特別の教科 道徳」いずれの目標においても、育むものは「道徳性」に統一され、以前の学習指導要領にあった「道徳の実践力」という記述がなくなり、育むものが異なるというねじれが解消されました。授業のねらいも、どんな道徳性の諸様相(道徳的判断力、心情、実践意欲と態度)を育みたいのか、しっかりと精査することが大切です。

朱字で記述された「〇〇学習を通して」の部分が特に大切です。

具体的には、道徳科の特質として、道徳的諸価値の理解を基にしながら、

- 自己を見つめること
 - 物事を多面的・多角的に考えること
- を押さえることがとりわけ大切です。

この特質に根ざして授業を構想・展開し、一人一人の子どもの学習状況や道徳性の成長の様子を見取って、評価することになるのです。



各学年で取り上げる内容項目について、詳しく教えてください。

内容項目の追加	「特別の教科 道徳」の内容の学年段階・学校段階の一覧表参照。 【小・低学年】19項目 「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」追加 【小・中学年】20項目 「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」追加 【小・高学年】22項目 「よりよく生きる喜び」追加 【中学校】22項目
体系的なものへの改善 手掛かりとなる言葉の付記	記述の仕方について、各学年毎の記述を改め、内容項目毎の記載に変更して、系統性と発展性を意識して指導できるように配慮した。また、「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉を付記し、指導のしやすさに配慮した。

小学校低学年は19項目(3項目追加)、中学年は20項目(2項目追加)、高学年・中学校は22項目(高学年は1項目追加)です。学習指導要領では「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げること」とされていますので、年間指導計画作成の際には、全ての内容項目について漏れのないよう留意してください。

なお、それぞれの内容項目に「公正、公平、社会正義」などの手掛かりとなる言葉(キーワード)を付記することで、指導のしやすさに配慮しています。



道徳教育全体計画を作成する際、配慮する点を教えてください。

小（中）学校学習指導要領第1章総則 第6 道徳教育に関する配慮事項 1 抜粋

- 道徳教育の**全体計画**の作成
 - ⇒ **重点目標の設定**
 - ⇒ 各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法の明示

活用しやすい工夫（小（中）学習指導要領解説・総則編131頁）

例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの、道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの、道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものを**別葉**にして加えるなどして、**年間を通して具体的に活用しやすいもの**とすることが考えられる。

小・中
共 通

- **校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。**

道徳教育推進教師の役割（小（中）学習指導要領解説・総則編128頁）

- 道徳教育の指導計画の作成に関すること
- 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること
- 道徳科の充実と指導体制に関すること
- 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- 道徳科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- 道徳教育の研修の充実に関すること
- 道徳教育における評価に関すること など

道徳教育全体計画の作成を含め、学校の教育活動全体で行う道徳教育については、新学習指導要領「総則」に記述されています。全体計画は、校長のリーダーシップの基、道徳教育推進教師が要となり、全教職員で作成することが大切です。なお、全体計画等の具備すべき内容については、総則解説編に記述されていますが、参考までに列記します。

また、「別葉」についても、作成に係るロードマップを作成し、全教員の願いのこもった内容と形式で計画的・組織的に作成したいものです。



【道徳教育全体計画の内容】

1 基本的把握事項について

- 教育関係法規の規定、時代や社会の要請や課題、教育行政の重点施策（本県では、いじめ防止対策推進法の明記を強調）
- 学校や地域社会の実態と課題、教職員や保護者の願い
- 児童生徒の実態と課題

2 具体的計画事項について

- 学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- 道徳科の指導の方針
- 年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の工夫、校長や教頭の参加、他の教師との協力的な指導
- 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針、内容及び時期
- 学級、学校の人間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
- 家庭、地域社会、他の学校や関係機関との連携の方法
- 道徳教育の推進体制
- その他（次年度の計画に生かすための評価の記入欄、研修計画や重点的指導に関する添付資料等）

3 「別葉」について

- 各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
- 道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- 道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

憲法、教育基本法、学校教育法等の諸法規、いじめ防止対策推進法等		天栄中学校 道徳教育全体計画		生徒の実態	
学習指導要領		本校教育目標		教師の願い	
時代や社会の要請		基本目標 豊かな人間性と創造力を持ち、主体的に実践できる生徒		保護者の願い	
各教科における道徳教育の指導の方針		具体目標		特別活動における道徳教育の指導の方針	
国語		1 心身ともに健康な生徒の育成（健康）		A 学級活動	
社会		2 進んで学習する生徒の育成（向上）		B 生徒会活動	
数学		3 くじけず前進する生徒の育成（自立）		C 学校行事	
理科		道徳教育の重点目標		生徒指導における道徳教育の指導の方針	
音楽		人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心構え、実践態度と態度を育てる。		総合的な学習の時間	
美術		重点内容項目 (A-1・4) (B-7) (C-11・12) (D-19・22)		特別活動	
保健体育		学年の重点目標		道徳科の指導の方針	
技術		1年		道徳科の指導の方針	
家庭科		2年		道徳科の指導の方針	
英語		3年		道徳科の指導の方針	
総合		道徳科の指導の方針		道徳科の指導の方針	
特別活動		道徳科の指導の方針		道徳科の指導の方針	
別葉		道徳科の指導の方針		道徳科の指導の方針	
幼小中との連携		道徳科の指導の方針		道徳科の指導の方針	
家庭・地域との連携		道徳科の指導の方針		道徳科の指導の方針	
道徳教育の推進体制と環境整備		道徳科の指導の方針		道徳科の指導の方針	

道徳教育全体計画例「天栄村立天栄中学校」（28頁に記載）

道徳教育全体計画の別葉を作成する際、配慮する点を教えてください。

全体計画の別葉の充実と工夫

【別葉作成上で大切なこと】

- ① 自校の特色や重点を教育活動全体でどのように実践していくか、分かること
 - ② 道徳科の授業以外の指導内容や時期が明確になること
- ※ 今求められている「カリキュラム・マネジメント」の具現化

- A 時系列で、内容項目と教育活動全体との関連を明らかにした別葉
- B 自校の重点を中心に、内容項目の系統性を明確にした別葉
- C 全ての内容項目と学校の教育活動全体の関連を明らかにした別葉
- D 学校オリジナルで使いやすい別葉

(道徳のかけ橋第4号(平成26年12月15日)より抜粋)

道徳のかけ橋第4号では、「別葉」の特集を組み、左のA～Dの形式に大別しています。別葉は、今現在求められているカリキュラム・マネジメントを具現化する有効なツールです。より実効性のある別葉こそが、道徳教育の充実への近道です。是非、全教員が共通認識に立ち、作成してください。A～Dの4つの形式の利点と課題、工夫したい点を列記します。自校の別葉を見直す参考にしてください。

Aの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 時系列で整理しているため、一覧の形で年間の見通しがもてる。
- ▲ 情報が多すぎて使いにくい。重点項目が分からず、共通理解が図りにくい。
- 自校で重点とする内容項目の部分に色をつけ、分かりやすくする。指導後に、記録や改善策を書き加える。

Bの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 重点内容項目を中心に作成しているため、学校全体で重点を意識して教育活動を進めることができる。
- ▲ 時系列になっていないため、年間の見通しが分かりにくい。また、他の内容項目について、どのような場面で取り組んでいくのか分からない。
- 重点項目以外は、実践を通して少しずつ書き込みを加えていく。

Cの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- すべての内容項目の関連が分かる。
- ▲ 必要な情報が多く盛り込まれているため活用に向けた共通理解が必要である。
- 道徳教育推進教師を中心に全職員で作成し、一人一人の意見を生かし少しずつ改善していくことで活用に向けた意識を高める。

Dの別葉の利点(○)と課題(▲)、工夫したい点(□)

- 形式がない別葉だからこそ、自校の先生方が日常的に使いやすいものが最良です。形式にこだわらず、今ある計画を少し工夫・改善しながら、「学校ならではの」別葉を作成したいものです。

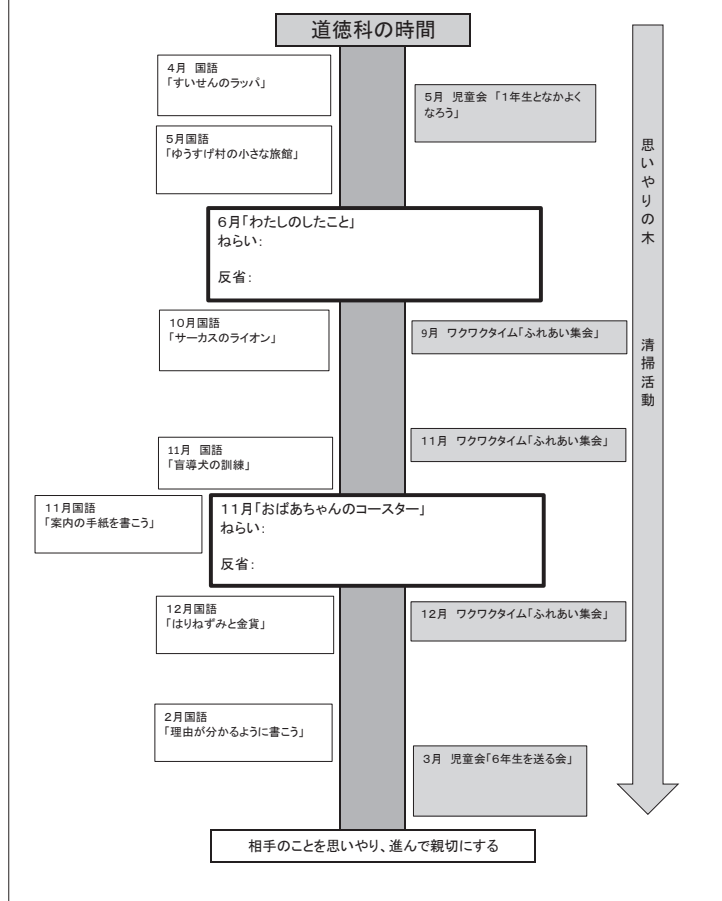
「学校ならではの」別葉(D)について、2つの例を紹介したいと思います。

一つは、左に掲載した福島市立渡利小学校の事例です。この別葉の特徴は、自校が重点的に取り組む内容項目を基に、授業や学校行事等との関連を明示し、「ねらい」と「反省」を記入する形式となっているところです。二つは、61頁に記載したいわき市立湯本第二中学校の事例です。湯本二中では、キャリア教育を重視しており、道徳教育とキャリア教育の関連を明示し、カリキュラム・マネジメントの考えを重視しています。自校の教育課題の解決に向けた取組として示唆に富んでいます。



D「学校オリジナルで使いやすい別葉」例

3年 B 親切、思いやり



Dの別葉例「福島市立渡利小学校より」

教科用図書の教材を使用する法的根拠を教えてください。

検定教科書の導入について

法的根拠

教科書の法的根拠
学校教育法34条（教科用図書・教材）
小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する**教科用図書を使用しなければならない**。（中学校等にも準用）

教科書の定義
教科書の発行に関する臨時措置法2条（定義）
この法律において「教科書」とは、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、**教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材**として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であつて、文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するものをいう。

教科書には「主たる教材」としての使用義務があります。今後は、採択された教科書の教材を中心に、年間指導計画を作成することになります。なお、教材の配列は、今まで通り、各学校の特色や行事、各教科等の関連に応じて配列を工夫することが大切です。



教科用図書以外の教材の年間指導計画の位置付けと活用について教えてください。

ふくしま道德教育資料集等の活用について

（小学校学習指導要領解説第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道德科の教材に求められる内容の観点 1 教材の開発と活用の工夫）

(2) 多様な教材を活用した創意工夫ある指導

道德科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、**道德教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる**。様々な題材について郷土の特色が生かせる教材は、児童にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道德的価値について考えを深めることができるため、**地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい**。

（同 2 道德科に生かす教材）

(3) 多様な見方や考え方でできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること（略）

なお、**教科用図書以外の教材を使用するに当たっては、「学校における補助教材の適正な取扱いについて」（平成27年3月4日 初等中等教育局長通知）**など、関係する法規等の趣旨を十分に理解した上で、適切に使用することが重要である。

○ 「主たる教材」としての教科用図書教材

⇒ 今後は主題、教材の配列としての「年間指導計画」が極めて重要

○ 「副教材」として、ふくしま道德教育資料集をはじめ、市町村発行の道德教育資料集等を積極的に位置付けたい。

⇒ 意図的・計画的・組織的な計画と活用を

「ふくしま道德教育資料集」「市町村発行の道德資料集」等の教材は、地域に根ざした教材として大切にしたいものです。

また、「私たちの道德（WEB版）」や「小（中）学校 道德読み物資料集（文科省）」等の活用も考えられます。教科書以外の教材を年間指導計画に位置付ける場合は、教科書教材との対応が分かるようにしておくことが望ましいと考えます。

なお、教科用図書以外の教材の年間指導計画への位置付けと活用にあたっては、学年や学校としての組織的な対応と校長の判断はもちろん、市町村教育委員会の指導助言の基に行うことになります。

授業の質的転換のポイントを教えてください。

質的転換＝「指導と評価の一体化」 ～主体的・対話的で深い学びの実現～

何を学ぶか

どのように学ぶか

何を学んだか

指導と評価の一体化

道德科の
目標と特質

指導

評価

○ 小低19、小中20、小高22、中22の内容項目に基づいて、道德的判断力、心情、実践意欲と態度を育む

○ 「自己を見つめる」「多面的・多角的に考える」の二つの特質に根ざした活動の設定

○ 「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」をどの場面で、何を使って見取るか。

望ましい道德性の育成、日々の授業の充実と改善

指導の充実なくして、評価の充実はあり得ません。もう少し詳しく言うと、児童生徒一人一人のよさや可能性を受け止めて、認め、励ます評価を具現するためには、児童生徒のよさや可能性を引き出し、存分に発揮させる指導の充実が不可欠なのです。

「授業のねらいー指導ー評価」が、「道德的価値の理解を基に自己理解を深めること（自己を見つめること）」「物事を多面的・多角的に考えること」という、道德科の二つの特質に一貫して基づいていることが大切です。



「特別の教科 道徳」における多様な指導方法について教えてください。

問題解決的な学習など 多様な方法を取り入れた指導について

問題解決的な 学習の工夫	道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見つけ、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の感じ方や考え方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。
道徳的行為に 関する体験的な 学習を取り入れる 工夫	道徳的諸価値を理解したり、自分との関わりで多面的、多角的に考えたりするためには、例えば、実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。さらに、読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。
特別活動等の 多様な実践活動等 を生かす工夫	道徳科において実践活動や体験活動を生かす方法は多様に考えられ、各学校で児童の発達の段階等を考慮して年間指導計画に位置付け、実施できるようにすることが大切である。

小（中）新学習指導要領では、「児童の発達の段階や特性等に考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること」とされました。

「登場人物の心情理解のみの指導」「主題やねらいが不十分な単なる生活経験の話し合い」「読み物教材のあらすじを追うだけの授業」「道徳的価値（内容項目）に基づかない体験的な授業」等が散見されますので、道徳の特質に根ざした授業づくりをこそ心がけることが大切です。

10、11頁に「(H28.7.22) 特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」で示された「質の高い多様な指導方法のイメージ」を掲載します。また、過去に「道徳のかけ橋」で紹介した優れた授業実践（小・中・特別支援学級別の事例）を13～18頁に掲載しますので指導の参考としてください。



「小（中）学習指導要領解説「特別の教科道徳編」第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第3節 指導の配慮事項 5 問題解決的な学習など多様な指導を取り入れた指導」より部分抜粋

「特別の教科 道徳」の評価についての基本的な考え方を教えてください。

- 改訂後の学習指導要領（特別の教科 道徳）
児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。
ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

具体的な方法を、道徳科の評価の在り方に関する専門家会議で検討

(H27.6～H28.7)

【基本的な方向性】

- 数値による評価ではなく、記述式とすること
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価（※）として行うこと
- 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- 調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにする必要



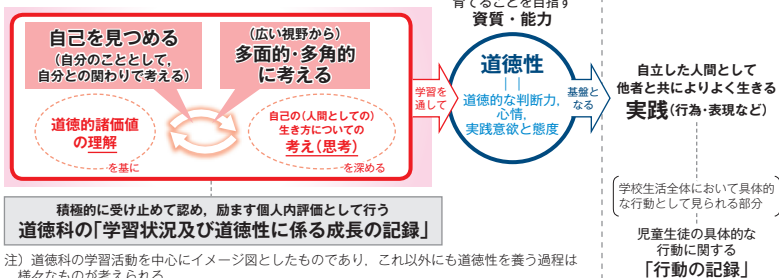
※ 専門家会議報告に基づき、道徳科の学習評価の在り方、指導要録の参考様式について、平成28年7月29日付で都道府県教育委員会等に通知

道徳科の評価はどのように進めたらよいのですか。

道徳科の学習活動と評価のイメージ

- 道徳性が養われたか否かは容易に判断することができるものではなく、観点別に分析的に評価（ABCの段階をつける）ことは妥当ではない。
- 道徳科の授業では、特定の価値観を児童生徒に押しつけたり、指示通りに主体性を持たずに言われるままに行動するよう指導したりするものであってはならない。内容項目を手掛かりに「考え、議論する」ことを通じて、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える学習を行うことによって、道徳性を養うことを目指すものである。
- このため、道徳科の学習の中で、特に「自己を見つめ、自分のこととして考えているか」「物事を多面的・多角的に考えようとしているか」といったことに着目することで、道徳科の学習状況を把握することが必要である。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



注) 道徳科の学習活動を中心にイメージ図としたものであり、これ以外にも道徳性を養う過程は様々なものが考えられる。

- 児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行います。
- 観点別で分析的に評価したり、数値化したりする評価は、道徳科では妥当ではありません。
- 道徳科の特質である「自己を見つめる姿」「多面的・多角的に考える姿」を見取って評価していきます。
- 学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」に記述します。道徳科の評価は、あくまで授業を行った結果としての「学習状況」「道徳性の成長に係る成長の様子」を見るものです。



小学校児童指導要録(参考様式)(イメージ) 別紙3

氏名(姓・名)		学年・学期		学年・学期		学年・学期		学年・学期		学年・学期	
姓	名	年	期	年	期	年	期	年	期	年	期
各教科の学習の記録											
1. 国語											
2. 算数											
3. 社会											
4. 理科											
5. 外国語											
6. 音楽											
7. 体育											
8. 美術											
9. 道徳											
10. 総合的な学習の時間											
11. 特別支援教育											
12. その他											

- 指導要録において、記述式の評価の記載が必要となります。
- 道徳科の評価の実施に伴う指導要録の形式等については、28教義第846号(平成28年8月10日付)で発出しています。なお、指導要録の様式については、各学校の設置者(各学校を所管する市町村教育委員会)が決定します。

「指導要録」と「通知票」の根拠と性質を踏まえ、各学校で行うことを教えてください。

【指導要録の根拠及びその性質】

- ① 校長は、その学校に在学する児童等の指導要録を作成しなければならない。(学校教育法施行規則第24条)
- ② 指導要録は、児童生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立てるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていく上で重要な表簿である。(平成22年5月11日 文部科学省初等中等教育局長通知)

【通知表(票)の根拠と性質】

- ① 法的に規定されている表簿ではない。校長の責任において作成される性質をもつ。
- ② 児童生徒の学習指導の成果、学習生活の状況、健康状況等を保護者に連絡し、保護者が児童生徒の学校生活の状況を知るための連絡簿であり、その呼び方や内容、形式も各学校ごとに創意工夫が見られる。

【各学校で行うこと】

- ① 校長の指導の下、通知表(票)の評価をどのように行うか。
- ② 保護者に道徳科の評価について、どの時期に、どのような内容で周知し、理解を図るか。
- ③ 通知表(票)の記述を、どのように指導要録につなげるか。

評価の質を高めるため、どのような工夫をすればよいか教えてください。

「特別の教科 道徳の指導方法・評価等について（報告）H28.7.22道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」には、「道徳科の評価の工夫に関する例」も具体的に掲載されています。ぜひ参考にしてください。

道徳科の評価の工夫に関する例（本専門家会議における意見より）

- 児童生徒の学習の過程や成果などの記録を計画的にファイル等へ集積して学習状況を把握すること。
- 記録したファイル等を活用して、児童生徒や保護者等に対し、その成長の過程や到達点、今後の課題等を記して伝えること。
- 授業時間に発話される記録や記述などを、児童生徒が道徳性を発達させていく過程での児童生徒自身のエピソード（挿話）として集積し、評価に活用すること。
- 作文やレポート、スピーチやプレゼンテーション、協働での問題解決といった実演の過程を通じて学習状況や成長の様子を把握すること。
- 1回1回の授業の中で全ての児童生徒について評価を意識して、よい変容を見取ろうとすることは困難であるため、年間35単位時間の授業という長い期間の中でそれぞれの児童生徒の変容を見取ることを心掛けるようにすること。
- 児童生徒が1年間書きためた感想文等を見ることを通して、考えの深まりや他人の意見を取り込むことなどにより、内面が変わってきていることを見取ること。
- 教員同士で互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組むことにより、児童生徒の理解が深まり、変容を確実につかむことができるようになること。
- 評価の質を高めるために、評価の視点や方法、評価のために集める資料などについてあらかじめ学年内、学校内で共通認識をもっておくこと。

道徳科の評価を記入する上での留意点を教えてください。

県内7地区で開催された「平成30年度の『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別研修会」では、評価の演習に取り組み、評価文の事例検討や作成に取り組みました。ここでは、研修会を通じて分かったこと、学んだことを列記します。是非、評価を行う際の参考にしてください。

○ 平成30年度「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会の研修から

〈道徳科の評価記入上の留意点〉

学びの事実を基に、飛躍させず、盛り込みすぎず、比較せず、分かりやすく、行動の記録と区別して、文章で記述する

○ 研修会を通じて分かったこと、話題になったこと

キーセンテンス	研修会を通じて分かったこと、話題になったこと
「学びの事実を基に」	なぜそう書いたか、根拠が大切です。「児童生徒の発言」や「学習の様子」「ワークシートやノートへの記述」等を記録・累積しておくことが大切です。
「飛躍せず、盛り込みすぎず」	記録しておいた「発言」や「学習の様子」「ワークシートの記録」といった根拠を曲解して記述したり、数多くの根拠を記述しすぎたりすると誤解を生じ、伝わりにくくなります。
「比較せず」	「誰よりも優れています」といった表現は、一見最大の褒め言葉に感じますが、個人内評価の基本的な考え方からはふさわしくありません。同様に、「以前より理解できるようになった」という表現も誤解を招く恐れがあり、気を付けなければならない表現です。
「分かりやすく」	「道徳的価値の理解」「道徳的判断力の高まり」といった専門用語は、児童生徒や保護者には分かりづらい言葉です。児童生徒や保護者の目線に立って、分かりやすい表現をこころがけたいものです。
「行動の記録と区別して」	あくまでも「道徳科」としての授業の評価です。行動に表れている道徳性の記述は、「行動の記録」に記述しますので、明確に区別してください。

以上の考えを基本としながら文章表現で記述します。各学校において、どのように記述するか教職員で共通理解を図りながら、児童生徒一人一人を受け止めて、認め、励ます評価の具現化に取り組んでください。

○ 研修会参加者が作成した評価文

- 「親切・思いやり」や「自然愛護」について考える授業では、友だちの発言にうなずきながら共感して聞いた、根拠に基づいて自分の意見を発言したりしていました。友だちと考えを交流する中で、友だちの考えをもと

にさらに深く考え、自分の考えを書いてまとめることができました。その考えについては、道徳ノートをご覧ください。ご家庭での話題にしていいただければと思います。

- 「〇〇〇」では、登場人物の役になりきって、くじけず最後まで努力することの大切さを表現しました。最後までがんばるためには、周りの応援も必要であることに気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、友達の発言にうなずきながら、熱心に耳を傾ける姿が見られました。話し合いを通して、きまりを守ることの大切さを理解し、これからの学級生活に生かしていこう、という意欲が高まりました。
- 「〇〇〇」の授業では、親切・思いやりの大切さについて考えました。友だちとの話し合いを通して、本当の思いやりとは、相手の気持ちを大切にしながら、自分にできることを行うことだと気付くことができました。
- 「〇〇〇」の授業では、人間も自然界の一員であることを忘れてはならないという意見を持ち、自然愛護について自分事として考えることができました。友だちの意見を聞いて、自分の考えをさらに深めようとする積極的な姿勢が見られました。
- 道徳の授業では、規則や友情、国際理解など、様々なテーマについて学び、自分の考えを発表できるようになりました。友達の考えをよく聞き、意見を交換する中で、自分のことだけでなく、相手のこともよく考えて問題の解決に臨む姿が見られます。
- 「〇〇〇〇〇」の授業では、自分の考えと友だちの考えを比べたり、自分だったらどうするかを考えたりする活動を通して、最後まであきらめずに取り組むことの難しさを感じていました。

授業における評価の視点及び想定される児童生徒の姿について教えてください。

道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような評価の視点が考えられるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えようとしている。
- ・自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。
- ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行為を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
- ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目している。
- ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動と他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
- ・道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

今後の道徳科の授業では、「道徳的価値を自己との関わりでとらえることができたか」「物事を多面的・多角的に考えることができたか」の2つであることは、繰り返し述べてきました。今後の道徳科の授業案には、これら2つを具現化した評価の視点を明確に位置付けることが大切です。左のような視点を一例に参考にしながら記述し、しっかりと子どもの姿を見取りたいものです。



道徳科の授業における児童生徒の評価について

どのような児童生徒の姿が想定されるか。

一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか。

- ・ねらいとする道徳的価値の様々な面を考えている。
- ・道徳的価値を支える様々な根拠を考えている。
- ・様々な登場人物の立場で考えている。
- ・自分の考えと友だちの考えを比べて考えている。
- ・時間の経過とともに変化する気持ちを考えている。
- ・人間の強さや弱さ等を捉えて考えている。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか。

- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考えている。
- ・教材の問題点等を自分事として受け止めて考えている。
- ・日常生活や学校生活等を想起しながら考えている。
- ・自分の生活を見つめ、振り返りながら考えている。
- ・自分だったらどうするかなど考えている。

この姿は、あくまでも想定であり、一例に過ぎません。このような姿を目安にしながら子ども一人一人の素敵な学びの姿をたくさん見取り、通知表や指導要録に記載したいものです。



のぞましい評価文について検討していますが、もう少し詳しく教えてください。

評価文の長所と短所を比べてみよう

評価文事例【A】の長所と短所は？

「雨のバス停留所で」では、社会の中におけるきまりについて考え、これまでの自分の体験を想起しながら、自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することが大切であることに気付いていました。

評価文事例【B】の長所と短所は？

道徳の教材で学びながら、登場人物に自分を置き換えて生活を振り返ったり、友達の考えを聞いて、一つのことを様々な見方で捉えたりして、今後のよりよい生き方について考えを深められるようになりました。

検討するに当たって、2つの評価文をお示しします。2つの文を比べてみましょう。それぞれ、どのような長所と短所があるでしょうか。

評価文【A】は保護者にとって学習状況がイメージしやすい長所があります。反面、一つの授業の評価であり、成長の様子が感じ取れないという短所があります。

一方、評価文【B】は、継続的な授業の見取りにより、子どもの成長の様子が感じ取れますが、反面、どの子どもにも当てはまり、特徴が見えにくい短所があります。

次の項目で、評価文A、Bそれぞれの長所と短所を踏まえた特徴的な評価文をお示しします。



特徴的な評価文の先行事例があれば教えてください。

これからの評価を考える

評価文事例【C】のよさは？

常に授業では、これまでの自分を振り返り、今後に生かそうとしています。例えば「二人の弟子」の授業では、相反する二人の立場のどちらも自分の心にはあるものとして受け止め、自分自身の弱さに気づき、克服していこうと考えていました。

評価文事例【D】のよさは？

常に自分に厳しい目をもって、授業では自分を振り返り、反省するような考えも観られました。しかし、それは、今の自分はこうあるべきだという自分をしっかり見つめている表れであり、これからの道徳の授業で、どんな自分をつくりあげていくのか、とても楽しみにしています。

先行事例として、特徴的な評価文を2事例（C、D）お示しします。参考にしてください。

Cの評価文は、継続し累積して見取ってきた評価と一つの授業で見取った具体的な評価の2つを合わせた記述となっています。

また、Dの評価文は、教師の的確な見取りを生かした事例です。児童生徒にとって、温かく、勇気づけられる内容となっています。各学校では、先生方の共通理解の基、子ども一人を認め、励ます評価を具現してください。



表現や反応の少ない子ども、学習上の困難さを伴う子どもを十分見取ることができず、不安です。

これから配慮すべきことについて

- 授業中の発言がほとんどない児童生徒
- 文章表現が得意ではない児童生徒
- 表情にも表れにくい児童生徒

- ・ 授業でどのように見取っていくのかを校内で検討しておく必要がある。
- ・ 授業者は、意図的に観察したり、指名したりして、評価できる根拠を集める必要がある。

発言、文章記述、うなずきやつぶやき、動作や仕草等、その子なりの表現を見取り、授業における学習状況や道徳性の成長の様子を累積していくことが大切です。担任ばかりでなく、他の教員との協力的な指導やローテーション実践等を通じて、共通の見取りの視点を複数の目で行っていききたいものです。また、12頁に「(H28.7.22) 特別の教科道徳の指導方法・評価等について(道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議)で示された「発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について(例)」を掲載します。指導の参考としてください。



道徳科における質の高い多様な指導方法について（イメージ）

※ 以下の指導方法は、本専門家会議における事例発表をもとに作成。したがってこれらは多様な指導方法の一例であり、指導方法はこれらに限定されるものではない。道徳科を指導する教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態、児童生徒の姿を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。

※ 以下の指導方法は、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではない。例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
ねらい		教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的諸価値の理解を深める。	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童生徒一人一人が生きて上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体に解決するために必要な資質・能力を養う。	
登場人物の心情理解のみの指導	具体例	学習指導要領においては、道徳科の目標を「道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己をみつめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と定めている。この目標をしっかりと踏まえたものでなければ道徳科の指導とは言えない。 道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。	問題の発見や道徳的価値の想起など ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつめる。 ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本来の意味や意義への問いを持つ（原理・根拠・通用への問い）。	道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など ・教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 ・日常生活で、大切さが分かっているにもかかわらずなかなか実践できない道徳的行為を想起し、問題意識を持つ。	
	導入	登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を自分との関わりで考える。	問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） ・道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え議論を深める。 ・グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 ・道徳的な問題場面に對する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。	道徳的な問題場面の把握や考察など ・道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 ・価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。	
	展開	【教師の主な発問例】 どうして主人公は、○○という行動を取ることができたのだろう（又はできなかったのだろう）。主人公はどのような思いをもって△△という判断をしたのだろう。 自分だったら主人公のように考え、行動することができたらだろうか。	【教師の主な発問例】 ・ここでは、何が問題になっていますか。 ・何と何で迷っていますか。 ・なぜ、△△（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 ・どうすれば△△（道徳的諸価値）が実現できるのでしょうか。 ・同じ場面に会った自分ならどう行動するのでしょうか。 ・なぜ、自分は、そのように行動するのでしょうか。 ・よりよい解決方法にはどのようなものがあるのでしょうか。	問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など ・ベアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 ・実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をするものの難しさなどを理解する。	
	終末	振り返り 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。	探究のまとめ （解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見） ・問題を解決する上で大切にした道徳的価値について、なぜそれを大切にしたのかなどについて話し合い等を通して考えを深める。 ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 ・問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。	道徳的価値の意味の考察など ・役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子をふりしりしたことをもとに、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 ・同様の新たな場面を提示して、取りうる行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体感することを通して実生活における問題の解決に見通しをもたせる。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い

まとめ

- ・教師による説話。
- ・本時で学習したことや今度どのように生かすことができるかを考える。
- ・本時の諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。
- ・道徳的諸価値を身につけたり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

	×	読み物教材の登場人物への 自我関与が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
指導方法の効 果	登場人物の心情理解のみの指導	・子供たちが読み物教材の登場人物に託して自らの考えや気持ちを素直に語る中で、道徳的価値の理解を図る指導方法として効果的。	・出会った道徳的な問題に対処しようとする資質・能力を養う指導方法として有効。 ・他者と対話や協働しつつ問題解決する中で、新たな価値や考えを発見・創造する可能性。 ・問題の解決を求める探究の先に新たな「問い」が生まれるという問題解決的なプロセスに価値。	・心情と行為とをすり合わせることにより、無意識の行為を意識化することができ、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う指導方法として有効。 ・体験的な学習を通して、取り得る行為を考え選択させることで内面も強化していくことが可能。	主題やねらいの設定が不十分な単なる生活経験の話し合い
指導上の 留意点		道徳的諸価値に関わる問題について多様な他者と考え、議論する中で、多面的・多角的な見方へと発展し、道徳的諸価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。	明確なテーマ設定のもと、 ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 ・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・議論し、探求するプロセスが重視されているか。 といった検討や準備がなければ、単なる「話し合い」の時間になりかねない。	明確なテーマのもと ・心情と行為との齟齬や葛藤を意識化させ、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 ・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 といった検討や準備がなければ、主題設定の不十分な生徒・生活指導になりかねない。	
評価		・個人内評価を記述式で行う。 ※児童生徒のよい点を褒めたり、さらなる改善が望まれる点を指摘したりするなど、児童生徒の発達段階に応じ励ましていく評価。 ・道徳科の学習において、その学習活動を踏まえ、観察や会話、作文やノートなどの記述、質問紙などを通して、例えば、 ○他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか といった点に注目する必要がある。 ・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫が必要。 ・妥当性・信頼性の確保のため組織的な取組が必要。			

※ 「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日」（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

発達障害等のある児童生徒に対する道徳科の指導について（例）

発達障害等のある児童生徒	学 習 上 の 困 難 さ	集中することや継続的な行動をコントロールすることの困難さ	他人との社会的関係の形成の困難さ
困難さの状況 考えられる障害	「聞く・話す」はできても、「読む・書く」が苦手なことが多い。 - 文字の認識が困難な場合は、画数の多い漢字の識別や相手の表情を見分けることなどが難しい。など	- 気が散りやすく、注意を集中させ続けることが困難であったり、必要な事柄を忘れやすかったりする。（不注意） - 話を最後まで聞いて答えることや順番を守ることが困難であったり、思いつくままに行動して他者の行動を妨げてしまったりする。（衝動性） - じっとしていることが苦手で、落ち着いて活動や課題に取り組むことが困難な傾向がある。（多動性）など	- 社会性の発達が遅い。相手の心情理解が難しい傾向がある。 - 暗黙のルールが理解できない傾向がある。 - 特定の事物へのこだわり（やめない、変えない、始めない）がある傾向がある。 - 感覚が過敏であることが多い。など
道徳指導上の困難	- 読み書きの習得については、努力が成果に結びつかない経験をしており、「努力してやり遂げる」ことには消極的になりやすい。 - 読書が苦手であり、自主的に本を読む習慣がないため、知らない言葉が多い。同年齢の子供であれば理解できると予想されることを理解していない、あるいは誤解している場合がある。 - 自分の気持ちを文字で表現できない（話し言葉であればむしろ流ちょうに表現できる）ことがあり、文字による言語活動を重視した場合、工夫が必要となる。など	注 意 欠 陥 多 動 性 障 害 （ ADHD ） 等 - 注意持続が短く、態度が変わりやすいため、気まぐれで誠実ではないように見えることがある。 - 多動性、衝動性により、ルールを守る気がない、安全を軽視していると受け止められることがある。 - 相手の気持ちを考えない、結果がどうなるのが考えないで始めた行動やうっかりミスにより問題が起こることがある。 - ものごとを最後まで注意していないために、結果を記憶していない。「自分ではない」と主張し、それが嘘やごまかしと思われることがある。 - 別のことに注意がそれて、期限や待ち合わせなどの約束を守れない傾向がある。	自 閉 症 等 - 相手の気持ちを想像することが苦手で、字義通りの解釈をすることがある。 - 明文化されていないもの、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがある。 - こだわり行動または感覚の過敏により、望ましいと分かっていてもその通りにできないことがある。 - 誤って学習したこと、修正が困難な傾向がある。など
指導上の必要な配慮	- 言葉の意味や正しい名称を知らないことが多いので、言葉の意味などを丁寧に伝える。 - 提示する教材などには、音声による情報を付け加える。 - 自分の考えを文字で表現したり、文字で書かれた他者の意図を読み取ったりすることが苦手なので、言語コミュニケーションの方法を文字言語のみに限定しない（口頭で答えることも可能とする）。 - 漢字の習得のみが困難な場合には振り仮名を振る。など	- 適度な時間で活動が切り替わり、注意が持続できるようにする。 - 成長が認められる行動や発言があった場合は、行動や発言のあった都度、評価する。 「あと五分」、「ここまでやったら」など、短期的で具体的な見通しを示して努力できるようにする。 - 必要なことをメモする、掲示する、付箋で示すなどして、単純なミスをしないで済むようにする。 - チェックリストや備忘録、スケジュール表などを用意し活用する。 - 対話の工夫や幅広い場面での触れ合いをもち、信頼関係を築く。など	- 他者の心情を理解するために、役割を交代して動作化や劇化を行う。 「〇〇ですと言ったのは、△さんが『～だ』と思っていたからです」など主語を明確にして説明する。 - わかりやすく伝えるために、イラストにしたりせりふを書き込んだりすることができるようになる。 - ルールは明文化する。同時に、本人が理解してもこだわり等により変えられない場合もあると理解しておく。 - 最初から正しい知識を伝え、途中で修正する必要のないようにする。また、誤った理解をしていないか適宜確認し、できる限りの修正をする。など

※発達障害等には上記以外の障害もあるが本専門家会議において発表された学習障害、注意欠陥性多動性障害、自閉症を中心に作成した。
 ※「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）平成28年7月22日（道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議）より

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（小学校版） ～大玉村立玉井小学校第3学年の授業実践～

【道徳のかけ橋第19号（平成31年1月10日発行）より抜粋】

主題名 自分をステップアップ【A－（5）希望と勇気、努力と強い意志】

ねらい

主人公達が「かに博士」になるまでの心の動きを自分に置き換えて話し合うことを通して、自分から進んで目標を立て、障がいや困難を乗り越え、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。

教材名とあらすじ

「ぼくらは小さなかにはかせ」（小学道徳「ゆたかな心 3年」光文書院）
なかよし三人組が、校庭の中庭で小さなかを見つめ、そのかについていろいろなことが知りたくなる。そこで、そのかについて調べ、壁新聞にすることにした。勉強は苦手な三人組はなかなかうまく調べることができなかったが、土曜日に町の図書館でどんどん調べ上げ、学級のみんなに喜ばれる壁新聞を作り上げた。



授業改善が図られているポイントはここ！！



A 「何を学ぶのか」を明確にし、絞り込まれた発問によって学習活動を焦点化しています。

B 思考を可視化し、考えの根拠に目を向けさせ、自分との関わりで考えを深めさせています。

C 教師のコーディネートにより児童に自分を振り返らせ、自己の生き方・考え方を見つめさせています。

◆◆◆ 授業の実践 ◆◆◆

□ 逆上がりの練習をしている場面絵を見て話し合う。

T： この子は、一生懸命逆上がりの練習をしているけど、なかなかできません。みんながこの子だったら、どんなことを考えますか。
C： もうちょっとなのに…
C： もっとがんばろう。
C： できないから、イライラしてくる。
T： 今日のお話の中に出てくる三人組は、勉強が苦手なのに「かに博士」になれました。どうして、「かに博士」になったのか、考えながら聞きましょう。



A 導入において、児童にとって日常的な場面を取り上げ、本時で扱う価値に方向付けています。また、教材を読む視点を与え、本時の学びにつながる部分に注目させています。

□ 教材「ぼくらは小さなかにはかせ」をもとに話し合う。

(1) 教材を読んだ感想を発表する。
(2) 本時で考えたいめあてを明確にする。
めあて：きめたことを最後までやりぬくひけつつ、どんなことかな。

T： 三人は、かについての壁新聞を作ることにしたんだね。



A 場面設定や前提条件を確認し、中心発問につなげています。

でも、三人は勉強が苦手なんだよね。
図書館で調べたけど、なかなか分からないんだね。

T： 自分なら、最後までがんばれるかな。ハート図を動かしてみよう。
(がんばれる・・・黄色、がんばれない(あきらめる)・・・ピンク)



れないと思います。

黄色の面積を広く示した児童が多い。
T： 黄色の部分が多い人に聞いてみます。
C： ここであきらめたら、後悔するかも。
C： 今年の目標は「挑」(※)だから、最後までやりたい。
※ 玉井小学校PTA「今年の漢字」
T： ピンクの人の気持ちも知りたいな。
C： できないときは、あきらめてしまおう。
C： 勉強が好きじゃないから、続けら



ハート図を使って自分の考えを可視化し、その根拠を考えることで、自分との関わりで道徳的価値を理解させています。

T： 黄色の部分が多い人、どう？ピンクの部分が多い人の気持ち分かる？
だって、遊びは得意だけど、勉強は苦手なんだものね。
みんなにも、同じような気持ちになった経験があるかな…。



友達の気持ちが分かるかを尋ねたり、少数意見の「あきらめる」という気持ちに寄り添って、「がんばれる」と考えた児童にゆさぶりをかけたりして、多面的・多角的に考えさせています。



C： 私、運動苦手だから、マラソンの練習の時、やっぱりどうしても、「もうがんばれない」って思う時がある。
C： 私、黄色って言ったけど、そういう時って「めんどくさい、遊びたい」って思う。
C： 私も、Cさんの気持ち分かる。やっぱりピンクの気持ちがある。
C： 私も、ピンクの気持ち、あきらめたくなる気持ち分かる。マラソン大会の試走の日が、来てほしくないと思う。
C(複数)： 分かる、分かる…。(口々に言う子、うなずく子)《略》

□ 本時のテーマについて、自分の考えをまとめる。

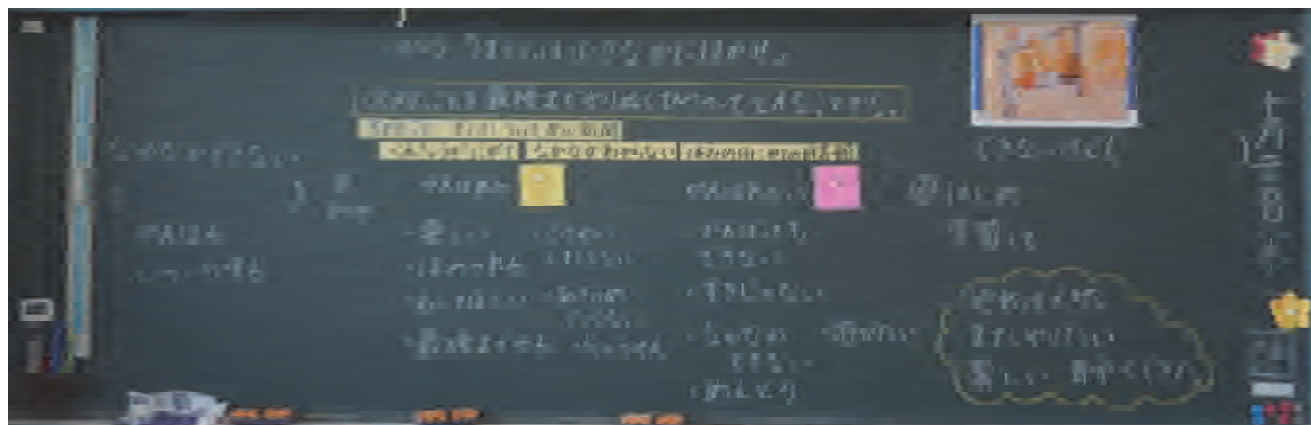
【 児童のノートから 】 -----
はじめはピンクの考えでした。遊んじゃったり、めんどくさかったり、あきらめてしまったり…、これ全部、自分は思っているけど、〇〇さんの「二度も、三度もやれば…」という考えと、□□さんの「やりたいという気持ちがある限り」という考えから、そうできるんだな、と思ってきて、「明日はできる」と考えると、明日が楽しい日になると思います。



授業の基盤が確立されています!

望ましい人間関係
教師の姿勢 学習規律

【本時の板書】



「ハート図」を活用して、「自分ならがんばれる」(黄色)、「がんばれない(あきらめる)」(ピンク色)の迷いや葛藤を生み出し、児童がそのような考えた理由を簡単なキーワードで板書しています。児童一人一人の思考が活性化される板書づくりが、これからの道徳科の授業ではとても大切ですね。

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（中学校版） ～玉川村立泉中学校第3学年の授業実践～

【道徳のかけ橋第21号（令和元年11月1日発行）より抜粋】

主題名 自分の生活を見直して 【A－（2）節度、節制】

ねらい 心情円を使って、自分の考えを可視化し、自分事として深く考える活動を通して、自分の欲望に負けず、正しい行動を行おうとする心情を育てる。

教材名とあらすじ

「スマホに夢中！」（「新しい道徳」 東京書籍）

主人公の奈美恵は、友だちとのメッセージのやりとりを優先し、スマートフォンに夢中になってしまう。弟や母の忠告があったにもかかわらず、自らの欲望を抑えて自己を統制することができずに、駅のホームへ続く階段を踏み外してしまう。この出来事の結末は書かれていないが、このことをきっかけにして、奈美恵は自らの行いを振り返り、安全で調和のとれた生活について考えていくことになる。

授業改善が図られているポイント

A 「何を学ぶのか」を明確にし、絞り込まれた発問によって学習活動を焦点化しています。

B 思考を可視化し、考えの根拠に目を向けさせ、自分との関わりで考えを深めさせています。

C 教師のコーディネートにより生徒に自分を振り返らせ、自己の生き方・考え方を見つめさせています。

授業の実践

◎ スマホやゲーム、タブレットなどの通信機器をもっている人がどれくらいいるのかを確認する。

T： スマホやゲーム、タブレットを持っている人はいますか。

→ 持っていないと答えた生徒は3名。

T： では、自由に使えるスマホを持っている人はいますか。

→ 半分程度の生徒が持っていると答える。

T： 今日は、「スマホ」に関する資料を使って学習します。

A 導入で、自分たちの生活について問いかけることにより、本時の学習を「自分事」として考えられるようにしています。

◎ 資料「スマホに夢中！」をもとにスマホの正しい使い方について考える。

(1) 奈美恵のスマホの使い方について考える。

T： 奈美恵のスマホの使い方、正しくないのはどんなところですか。

C： 歩きスマホをしている。

C： 夜遅くまで使っている。

(2) スマホの正しい使い方について考える。

T： スマホを正しく使うとはどういうことなのだろう。

C： TPOをわきまえて使った方がいい。

C： 周りの人に迷惑をかけないように使う。



◎ 通信機器の正しい使い方がわかっているのに、正しく使えない時があるのはなぜかを考える。

T： スマホなどの通信機器の正しい使い方を、理解している人は手を挙げてください。

→ 全員が手を挙げる。

T: では、みなさんは、通信機器をいつも正しく使っていますか。
心情円で表してみよう。

(正しく使える…赤、正しく使えない…青)

→ 半分程度「青」になっている生徒が多い。「赤」を100%とした生徒はいない。



T: 正しい使い方がわかっているのにどうしてできないんだろう。ワークシートに自分の考えを記入しよう。

C: 自分に厳しくなれないから。

C: 「やりたい」という欲に負けてしまうから。

C: 危険な目に遭ったことがないから、ダメなことに気づいていない。

T: それぞれの考えを持ち寄って、グループで交流しましょう。
話し合いの中で出された意見をホワイトボードに書いて黒板に貼りましょう。

→ ある班の話し合いの様子

C: 自分に甘えてしまうからじゃないかな。

C: 他の人がやってるとついつい、甘えちゃうよね。

C: それって自分の弱い心に負けているってことだね。 《話し合いは続く》

T: いろいろな意見が出ましたね。A班の「自分に甘える」ってどういうことですか。

C: やりたいという欲に負けてしまうということです。

C: なあなあになってしまうことだと思います。

C: そもそも、自分には弱い心があるから、だめだとわかっているけども続けてしまうと思う。 《略》



C 本時のねらいに関わる意見を取り上げ、問い返しをすることによって、「強い意志」をもつことの大切さや難しさを感じ取れるようにしています。

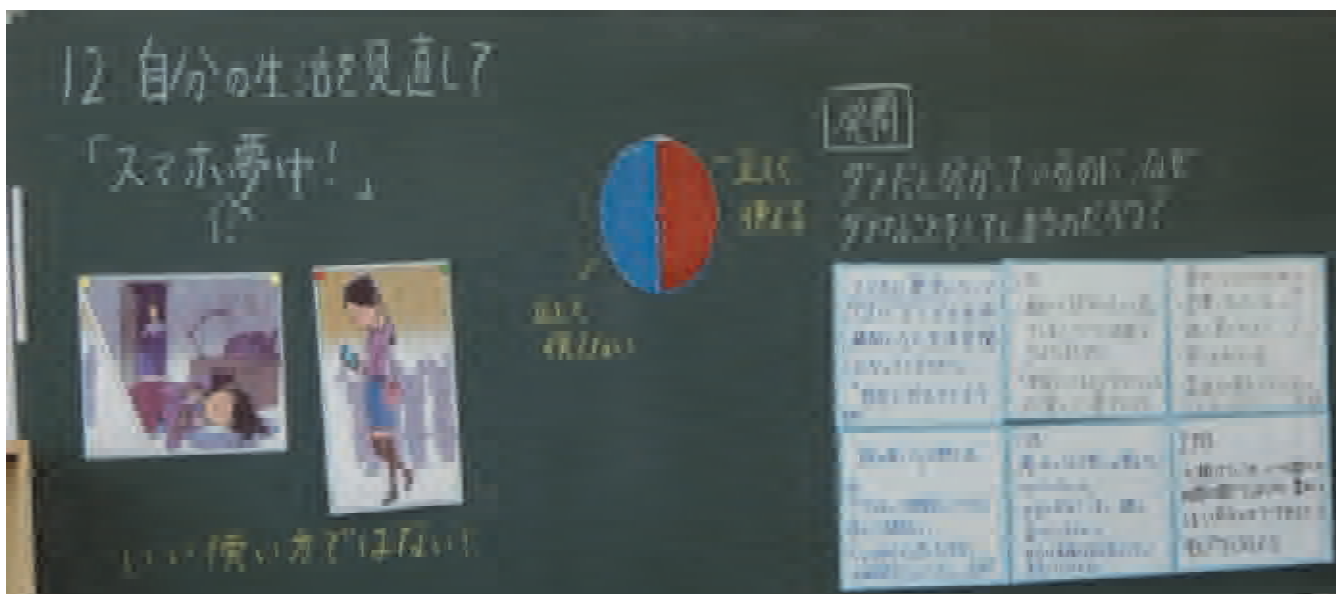


◎ これまでの自分を振り返り、これからの自分はどのようにしていきたいか考える。

T 今までの自分を振り返って、そして、これからの自分はどのようにしていきたいかを書きましょう。
【生徒のワークシートから】

- 今はまだ、スマホは持っていないけれど、これから持つようになったときは今日の学習を生かして、正しく使えるようにしていきたいと思う。
- これからの自分は、今までよりももっと、自分に厳しくなって、弱い気持ちの自分に勝たなくてはならない。

【本時の板書】



場面絵を活用し、資料の内容が一目でわかるようになっていて、中心発問について考える時間や自己を振り返る時間を十分に確保することができました。また、生徒の考えをホワイトボードに書かせて掲示することにより、生徒の考えを全体で比較したり、共有したりすることができるようになっています。

質の高い多様な指導方法を踏まえた実践事例（特別支援学級（知的障がい）版） ～福島市立北沢又小学校の授業実践～

【道徳のかけ橋第22号（令和2年2月20日発行）より抜粋】

主題名 やさしくすると… 【B－（6）親切、思いやり】

ねらい 親切にしたときの気持ちについて体験的に考えることを通して、他者に優しくすると自分も相手も気持ちがよくなることに気づき、身近にいる人に進んで親切にしようとする心情を育てる。

教材 「はしのうえのおおかみ」（「わたしたちの道徳1・2年」文部科学省）
※ 福島県教育委員会オリジナル紙芝居 （画：福島県立福島西高等学校 デザイン科学科3年 小林美歩さん）



こんな子どもたちの姿から授業をつくりました！！

A
集中力を持続させることがむずかしい。

B
気持ちを考えること、言葉で表現することが苦手。

C
一人一人の特性に応じた指導をきめ細やかに行う必要がある。



【学習の概要】

- 他者に優しくできていないオオカミの姿から、本時の学びの視点をもつ。
(1) 橋でウサギを追い返した時のオオカミの気持ちを色で考える。

やさしくすると どんなきもちになるのかな？

- 優しくされたり、優しくしたりするオオカミの姿から考える。
(1) 橋でクマに渡してもらったオオカミの気持ちを考える。
(2) 橋でウサギを抱き上げて渡してあげた時のオオカミの気持ちを色で考え、役割演技で確かめる。
- 自分はオオカミに似ているときがあるか考える。

 **A** 導入から終末まで、教材「はしのうえのおおかみ」とつなげながら発問をし、子どもが考えやすいようにしました。

【板書】



学びのノートとして、わかりやすく示しました。
可視化された全員の考えを掲示し、多面的・多角的に考えたり、考えの変化に気づいたりさせました。

◆◆◆ 授業の実際 ◆◆◆

 **A** 紙芝居を活用することで、効果的な演出を工夫したり、紙芝居を共通の手がかりにして、話の内容や状況を確認したりしました。

◇ 紙芝居による演出 ◇

- ① 話の内容に合わせながら、前の紙面を動かし臨場感をもたせた。
- ② 登場人物の動きに合わせて、紙芝居を動かして、場面のイメージを膨らませた。(クマがオオカミを、オオカミがウサギを抱きかかえて橋を渡る場面など)

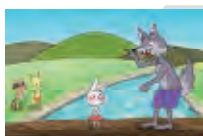
T : (紙芝居を読んでいる途中で) 一本橋って、わかる？
C1 : あの細い丸太でしょ。
T : そうだね。ここの川にかかっている、この木の橋です。

T : このとき、オオカミの顔はどんな顔？
C4 : おこってる。
C2 : いばってる。

場面毎に子どもたちの反応を確かめながら、読み進めました。子どもたちは、紙芝居を指さしたり、紙芝居を見比べたりして考える様子が見られました。



色によって表すことで、言葉による表現が苦手な部分を補ったり、その色にした理由からオオカミの心の変化を考えやすくなりました。

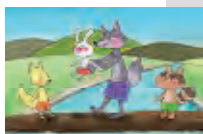


オオカミが渡ってきて、怖い顔で怒鳴りました。「こらこら、もどれもどれ。」

T : このときのオオカミの気持ちはどんなかな？
C2 : (水色のハート型色紙を合わせて…) ちがうな。(群青色を合わせて…) これだな。
C : (5人全員がオオカミの気持ちの色を決める。)
T : C3さんは、どうしてこの色(黒)にしたの？
C3 : ひとりぼっちだと思って…。友達がいない。
C4 : (C4も同じく黒) オオカミは怒っているから黒。
T : どうして怒っているんだろうね？
C4 : 怖いから。ひとりぼっちで、悲しい。



ハート型の色紙を何色も準備しておきました。子どもたちは、ワークシートの上に色紙をおいて自分の考えに合うかどうかを確認しながら考えていました。



オオカミはウサギを抱き上げ、後ろにそっとおろしてあげました。

T : 前のオオカミと違うところはあるかな？
C : (子どもたち5人全員大きくうなずく)(全員、折り紙を使って色を探す。)
T : なんか、みんな色が変わったね。どうしてこの色になったの？
C1 : (ピンク) オオカミは、うれしいから。ウサギと仲良くなれたから。
C5 : (赤) いい気持ちになったから、黒から赤になった。
C2 : (黄緑) 友達になってみんなやさしくなった。オオカミと仲良くなって、オオカミの家に行って、ご飯を食べたかもしれない。
T : オオカミはやさしくなったの？
C : (全員大きくうなずく)
T : やさしい気持ちになると、心はこんなきれいな色になるんだね。
T : このときのオオカミをやってみよう。(役割演技をしたり、見たりする。)

選んだ色を根拠にして、自分の考えを話す姿が見られました。また、全員の考えが黒板に示され、優しいオオカミの心の変化を前のオオカミと比べたり、優しくするときの心の変化の伝え方が、一人一人違うことに気付いたりしていました。



一人一人の特性に応じて、問いかけや働きかけを行いました。

- 気持ちを考えることが比較的得意なC1、C4児
～ はじめに発表させることで、他の子どもの手がかりにさせました。また、C1、C4児に対して問い返しを行って、考えを深めさせました。
- 反応が少ないC3児
～ 名前を呼びながら個人的に問いかけを行うようにしました。
- 描材(クレヨン)で遊んでしまいそうなC6児
～ 始めからハート型色紙を提示するよう計画しました。(当日は、C6児は欠席。授業では、最終的に全員がハート型色紙で考えていた。)



授業後の活動を通して、子どもたちの学びを持続させました。

- 授業後の活動も含めて45分間を計画することで、遊びや自由なやりとりの中で道徳の学びを持続させるよう計画しました。

【想定していた活動】

一本橋のごっこ遊び、紙芝居、動物のお絵かき



授業中から紙芝居に興味津々だったC2が、「ぼくが読むよ。」と読み始めました。それを見る児童は、動物の表情などを改めて確認していました。

授業後に、紙芝居を読んだり聞いたりする児童

この授業の学習指導案・紙芝居は義務教育課ホームページに記載します。ぜひ、ご活用ください。

(URL) <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>



【実践編】

令和元年度道德教育推進校報告



県北地区道徳教育推進校「福島県立安達高等学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	福島県立安達高等学校
所 在 地	二本松市郭内二丁目 3 4 7 番地
校 長 名	中野 隆幸
教 育 目 標	①自ら学び正しい判断力を持つ人間の育成 ②誠実で忍耐強い人間の育成（まゆみの精神） ③心身ともに健全でたくましい人間の育成
学級及び児童生徒数	学級数 1 5（普通科） 生徒数 5 2 2 名

2 研究テーマ

E S D（持続可能な開発のための教育）活動を通して、現代社会の諸課題に対する道徳的な思考を深める。

～課題解決を通して自己発見・自己理解を促す取組～

3 テーマ設定の理由

本校は、平成24年度から県内唯一のユネスコスクールに認定され、E S D活動を通して、国際理解・環境問題・エネルギー問題・食（フード）・ジェンダー等のテーマを掲げて課題解決型学習に取り組んできた。これまでの実践経験をもとに、グループ活動を主とした探究活動の機会を積極的に設け、コミュニケーション能力の向上を目指し、道徳的な見方を身に付けさせるための指導について考えを深めていきたいと考え、このテーマを設定した。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容	備 考
4 月 2 5 日（木）	道徳教育全体会（全職員）	
7 月 5 日（金）	ダートマス大学との交流会（二本松市）	
7 月 9 日（火）	県外推進校視察訪問（茨城県立石岡第二高等学校）	
7月29日（月）～8月8日（木）	オーストラリア海外研修	
8月5日（月）～8日（木）	きらめき未来塾2019	・認定NPO法人
8月19日（月）～21日（水）	北海道・東北ブロック道徳教育指導者養成研修（秋田市）	
8 月 2 9 日（木）	公開E S D発表会（二本松市民会館）	・代表班発表
9月21日（土）～22日（日）	大文化祭（ポスター掲示）	
1 0 月 5 日（土）	高校教員のための道徳教育講座（麗澤大学）	
1 0 月 2 3 日（水）	薬物乱用防止講話	
1 0 月 3 0 日（水）	性に関する講話	
1 1 月 5 日（火）	第1回ユネスコスクール北海道・東北ブロック大会（仙台国際センター）	
1 1 月 8 日（金）	道徳教育地区別推進協議会 （午前）伝達講習、推進校の研究概要説明公開授業（3学級） （午後）講演会、研究協議	講師：渡邊 健 様
11月23日（土）～24日（日）	J I C A グローバルキャンプ	
1 1 月 2 7 日（水）	J I C A 国際協力出前講座	講師：大槻美佳様 岡田卓也様 恩田健人様 中鉢典子様 荒屋敷里子様
1 月 1 5 日（水）	国際理解講演会（男女共生センター）	講師：永遠瑠様・マリールイズ様
3 月上旬	校内研修…1年間の道徳教育の振り返り	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について

〈作成上の工夫点、配慮点〉

- 本校では、E S D教育を柱として道徳教育の全体計画及び別葉を作成し、地域社会や国際社会における諸課題を見つけ、それらに対するより最適な解を見いだす力を育成するために、「各教科」、「総合的な学習（探究）の時間」、「学校行事」などの学校教育全体を通して、道徳教育を実践するようにした。

〈活用上の工夫点、配慮点〉

- 学校の教育活動全体で取り組む道徳活動の一環として、別葉に示したE S D活動に重点を置いた教育活動を推進する。

【視点2】質の高い多様な指導方法への取り組みについて

- ① 生徒自身が興味・関心をもち、主体的に考えるような課題を見つける。
- ② グループ活動を通して、様々な意見や考えを聞き、多角的な見方や考え方を培うようにする。
- ③ 自分の考えと他者の考えを比較し、課題に対するより最適な解について、検討することにより考えを深める。

【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について

- ① 震災から8年経つが、本校が所在する二本松市内にも震災により避難されている方がまだ少なくない。今年度もE S D教育において震災や風評被害を取り入れ、「ふくしま道徳教育資料集」を活用することで考えさせたい。
- ② 人とのつながりの大切さや命の尊さについて、「ふくしま道徳教育資料集」を活用することで考えさせたい。

【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について

- ① グループ活動を多く取り入れ、グループ内でお互いに意見や考えを述べ合うことで、他者の考えを認め、関わりをもとうとする態度が養われているかを評価する。
- ② 自分の価値観に気付かせたり、よりよい生き方への目標をもったりするなど、自分との関わりで考える場を設定する。

【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について

- ① E S D活動について考える際に、生徒の考えを聞くだけでなく、地域社会に関わる方に聞き取りをしたり、アンケート調査をしたりするなど、主体的に行動し、他者との関わりを大切にする姿勢を養う。
- ② 地域・社会との関わりの中で、協働しながら課題を解決していく力を育成するために、地域のボランティア活動への積極的な参加など、人とのコミュニケーションを大切にするすることで、道徳的な判断力や実践力の涵養を図る。

6 「家庭・地域との連携」について

〈活動のねらい〉

本校では、E S D教育を中心とした活動に取り組むことで、地域社会の一員としての自覚の育成を目指している。地域社会に関わる方への聞き取りやアンケート調査の実施、ボランティア活動などに積極的に参加するなど、地域の方との交流や意見を聞く機会を設けることを学校全体として積極的に取り組む。

〈活動の概要〉

- ・公開E S D発表会
- ・各種ボランティア活動

〈成果と課題〉（成果○ 課題●）

- 公開E S D発表会に向けた探究活動においては、地域についての聞き取りやアンケートを実施するグループがあり、地域住民を含む他者の意見も取り入れることで考えを深め、その成果を全校生の前で発表することによって、S D G sに関連する諸問題を共有することができた。また、質疑の際には、積極的に発言する場面も見られ、興味関心をもって臨むことができた。
- ボランティア活動では、二本松駅周辺などの近隣地域の清掃、保育施設や介護施設などへの訪問、街頭での防犯の呼びかけなどの様々な活動を通して、地域の方との関わりをもち、地域の一員としての自覚や郷土愛が深まったと思われる。
- E S D活動については、指示通りにしっかりと取り組むことはできるが、自ら考えて主体的に行動するという点については、まだ不十分なところがあった。自ら疑問をもち、解決に向かって考えていく力を更に育成したい。
- 公開E S D発表会では、保護者の方の参加者が少なかった。より情報を発信して、道徳教育に関する共通理解を図っていきたい。

（公開E S D発表会の様子）



7 成果と課題（成果○ 課題●）

- 高校において、道徳の授業を実施する機会がないため、初めて取り組むことばかりであった。道徳教育先進校である茨城県立石岡第二高等学校での視察や、麗澤大学の「道徳教育講座」への参加を通して得られた成果を道徳の研究授業にも取り入れることで、質の高い道徳教育を心掛けた。教員全体の道徳教育における意識を高める良い機会になった。
- 研究授業は、各学年1名ずつが担当となり、計3クラスの担任がそれぞれ行った。内容は、1年が「郷土を愛する心をもつ」（郷土愛に関連）、2年が「違いを認めるといこと」（公開E S D優勝班のL G B Tに関連）、3年が「未来のために自分ができること」（復興に関連）であった。扱う教材は異なるが、それぞれの生徒の実態に応じた特色のある授業を展開することができた。
- 地区別推進協議会では、他校種の先生方から、道徳教育への取組についての話を聞く機会が得られ、発達段階に応じた道徳教育の重要性を再認識することができた。
- 生徒にとって、道徳の授業は久しぶりであったが、自分の意見を発表したり、他者の意見を聞いたり、話し合いをしたりすることで、協調性を高め、他者理解をより深めることができた。
- 道徳教育は、様々な活動の場面で行われている部分はあっても、高校では教科に位置付けられていないため、道徳の授業を行う難しさを実感した。道徳教育推進校になって取り組んできたことを今後を活かし、道徳教育の在り方を模索し続けていきたい。
- 道徳教育の全体計画については、今後も本校の特色であるE S D教育を関連させて、生徒の実態を踏まえたものとし、協議会や研修等で得られた意見や助言も反映させることで、よりよい計画の立案に努めていきたい。

令和元年度 道徳教育の全体計画

福島県立安達高等学校 全日制の課程普通科

関係法令・教育行政の重点政策

- 道徳教育は、およそ下記の法規の規程に基づき行う。
日本国憲法（前文等）
教育基本法（前文、第1条等）
学校教育法（第51条等）
- 道徳教育は、「第6次福島県総合教育計画」（基本目標1及び基本目標2）などに示された、本県の教育行政の重点政策を反映して行う。

地域の実態、保護者の願い

【地域の実態】

本校は96年の伝統を持つ地域に根差した高校であり、地域住民の中には本校の卒業生も多数いる。そのため、本校に寄せられる地域の期待は大きく、また、比較的感受的な姿勢で本校の諸活動に理解を示している。

【保護者の願い】

昨年度の「安達高校の教育活動等に対する評価（保護者）」を見ると、保護者の本校に対する評価は概ね肯定的であることが分かる。一方で、学校側からの情報提供や服装など校則を遵守する規範意識の向上などを期待していることも数値としてとらえることができる。

学校の教育目標

1. 自ら学び、正しい判断力を持つ人間の育成
2. 誠実で忍耐強い人間の育成（まゆみの精神）
3. 心身ともに健全でたくましい人間の育成

道徳教育の重点目標

- 民主的な社会及び国家を形成する一員としての自覚を深めさせるとともに、国際的視野に立つて自他国の文化を理解する態度などを育成する。
- 主体的に自己を探究し、自己実現に努める態度の涵養を図る。
- 自律的に判断・行動する態度や、自己の行為に誠実に責任を持つ態度など、道徳的な判断力・実践力の涵養を図る。

生徒の実態

- 地域性を反映してか、素直で良識的な行動がとれる生徒が多く、全体として落ち着いた態度で高校生活を送っている。
- 昨年度の「安達高校の教育活動等に対する評価（生徒）」を見ると、概ね学校生活に満足している生徒が多いことが分かる。また、部活動に加入している生徒が80%を超えていることなどからも、多くの生徒が高校生活に充実感を覚えていると推察される。一方で、進路志望を曖昧としたまま生活する生徒が多く、自己実現に向けた取組への意欲に物足りなさを感じさせる面もある。

道徳教育の推進体制

学校における教育活動全体を通じて道徳性の育成が図られるよう、教職員全体の共通理解を基盤として道徳教育を推進する。また、校内の各分掌において、主に以下の点に留意しながら道徳教育の推進を図る。

【各学年】

生徒や保護者との信頼関係を形成し、道徳教育を推進する基盤を築く。

【生徒指導部】

生徒の道徳性を育む活動として、校則遵守の啓蒙や各種講演会の実施、生徒会行事などを企画・運営する。また、警察や市役所など、地域の各種機関との連携を図る。

【進路指導部】

生徒の自己実現に努める態度の伸長を図るため、学習の習慣化の推進や進路情報の収集、提供にあたる。また、進路体験の講演会やインターシップを実施するため、卒業生や地元企業との連携を図る。

【施設厚生部】

健康や安全を重んじる態度を育み、公共物を大切にする精神を培うため、保健行事や「保健だより」の発行、大掃除などの行事を企画・運営する。

【教務部】

道徳教育に関する情報の提供や研修体制の構築、全体計画の立案や具体化、共通理解の形成や道徳教育の改善等を図る。

各教科、科目、総合的な学習(探究)の時間、特別活動における関連

【各教科、科目との関わり】

- [国語科] 国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う能力を高めることにより、道徳教育を進めていくうえでの基盤とする。
- [公民科] 特に「現代社会」において、政治、文化、国際社会などに係る諸問題の学習を充実させ、社会・国家を構成する一員としての自覚を深めさせる。
- [地歴科] 自他国を多角的、多面的に考察する多文化理解教育を充実させ、平和で民主的な国際社会を実現することが重要であることを認識させる。
- [数学科] 様々な事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高めることで、創造性の基礎を培うとともに、数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。
- [理科] 自然の事物・現象を探究する活動を通して、地球環境や生態系のバランスなどの事象などを理解させ、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度の育成に繋げる。
- [保健体育科] 健康や安全についての理解を深めることで、自他の生命を尊重する態度や自律的な活力のある生活を営む態度を育てる。また、運動の実践を通して、ルールやマナーを大切にする態度や集団の中で自己の責任を果たそうとする態度などを育てる。
- [芸術科] 芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことで、道徳性を育む基盤を育成する。
- [英語科] 情報や考えなどを的確に理解し伝えられるコミュニケーション能力を養うことにより、道徳教育を進めていくうえでの基盤とする。また、異なる言語や文化に接することで、国際的視野にたつて様々な事象を考察しようとする態度を育成する。
- [家庭科] 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家庭と社会の関わりなどを理解させることにより、望ましい生活習慣を身に付けさせるとともに、主体的に生活を創造する能力や地域社会の一員としての自覚を持って自分の生き方を考える態度を育む。
- [情報科] 社会の中で情報や情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、情報社会で適正な活動を行うための基盤となる知識を身に付けさせることにより、情報社会に参画する態度を育成する。

【総合的な学習(探究)の時間との関わり】

自己の在り方、生き方や進路について広い視野から考察できるような活動を充実させ、自己探究・自己実現に努める態度を育成する。

【特別活動との関連】

[ホームルーム活動及び生徒会活動] 集団における自己の関わりや役割を自覚し、自己の義務を果たすことや自己の行為の結果に責任を持つ態度など、道徳的な判断力・実践力を育成する。

[学校行事] 修学旅行や芸術鑑賞教室の実施により、文化を理解し尊重する態度を育む。また、「生活安全講話」や「薬物乱用防止講話」などを実施し、自他の生命を尊重する精神や自律的な態度で生活を営む能力を育成する。

体験活動等における指導との関連

【部活動】

自律的な行動力や判断力、また、個性豊かな文化を生み出す創造力などを育む機会とする。

【ボランティア活動】

主体的に社会に貢献する態度や豊かな人間性を育む機会とする。

【インターンシップ】

自己の適性や資質などを考察する機会とすることで自己探究を深めたり、望ましい勤労観や職業観を育んだりする機会とする。

家庭及び関係機関との連携

【家庭との連携】

保護者会や学級懇談、三者面談等を通じて保護者との連携を図り、生徒理解を深めるとともに学校からの情報を的確に伝える機会とすることによって、保護者との信頼関係に基づいた道徳教育の推進を図る。

【関係機関との連携】

警察署や市役所等との連携を密にし、ボランティア活動の推進や生徒の健全な育成を図る方策の一つとして位置付け、道徳教育の推進に資する。

ESD活動を中心とした道徳教育別葉

目標					ESD（持続可能な開発のための教育）活動を通して、現在社会の諸課題に対する道徳的な思考を深める ～ 課題学習を通して自己発見・自己理解を促す取組 ～		
月	特別活動	総合的探究	各教科	その課後	活動内容・単元名	内容概要	道徳項目
4	① ② ③				○自己紹介、クラス委員選出他	○入学、クラス替えにともなう、1年の初めにあたり自己紹介、学級活動等を話し合いにより決める。	[自主、自律、自由と責任] [節度、節制] [相互理解、寛容] [よりよい学校生活、集団生活の充実]
4	③		③		○進路班別研究（ESD活動を生かした）キャリア教育	○進路の目標の設定 ○自己の思考を言語化し表現する活動 ○時事問題をレポートする。	[勤労]
4	②	②	②		○ESD活動班別課題探究活動	○自ら選んだ課題について、探究活動を進める。 SDGsの持続可能な開発目標（17項目）から探究テーマを設定する。	[向上心、個性の伸長] [相互理解、寛容] [我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度] [国際理解、国際貢献] [生命の尊さ] [自然愛護]
4	①	①			○ESD活動オリエンテーション	○ユネスコスクールについて理解する。 課題解決学習の進め方を理解する。	[自主、自律、自由と責任] 学習の進め方を理解する [真理の探究、創造] 学習の動機付け
5			②		○ESD活動パワーポイントの使い方 ○メディアリテラシー	○ESD活動のまとめ方、発表について学習する。 ○情報収集、発信における注意点を学ぶ。	[自主、自律、自由と責任] [遵法精神、公德心] [公正、公平、社会正義]
5				① ② ③	○二本松市リリーバース募集・活動	○ボランティア活動募集登録	[社会参加、公共の精神] [郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度]
6	① ② ③				○生徒総会	○平成30年度活動総括 行事・活動報告 平成30年度会計決算報告 令和元年度活動方針 行事・活動計画 令和元年度会計予算書案	C 主として集団や社会との関わりに関すること
7	① ② ③				○球技大会	○学年を超えた生徒間の親睦と交流を図るとともに、各クラス全員が協力し応援するなど団結力を培う。 バスケットボール、バドミントン、バレーボール、卓球	B 主として人との関わりに関すること [よりよい学校生活、集団生活の充実]
7	① ② ③				○ESD活動ダートマス大学との交流	○日本文化、日本語を学んでいる大学に日本文化を紹介する。 剣道体験：剣道部員 書道体験：文化研究部書道班 Welcome Supporter：参加希望生徒	[国際理解、国際貢献] [相互理解、寛容] [我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度] [礼儀]
7				① ② ③	○職場体験 インターンシップ	○進路実現を図るため、職場体験する。	[社会参画、公共の精神]
7 8				① ② ③	○夏休ボランティア活動	○ちろる夏ボランティアスクール（15カ所） ○二本松市社会福祉協議会 ○二本松市福祉課	[向上心、個性の伸長] [思いやり、感謝] [礼儀] [社会参画、公共の精神] [よりよく生きる喜び]
7 8			① ②	① ②	○ESD活動夏季海外研修 （海外ホームステイ研修支援事業）	○復興を目指す福島県の姿を世界の人々に伝える。また、国際化を担うグローバルな人材を育成する。 ホームステイ（オーストラリア） 福島県の現状のプレゼン（英語） 日本文化の紹介（英語）	[向上心、個性の伸長] [希望と勇氣、克己と強い意志] [思いやり 感謝] [礼儀] [友情、信頼] [郷土の伝統と文化の尊重、国を愛する態度] [国際理解、国際貢献]
8	① ② ③				○ESD活動発表会（文化センター） 全校生、保護者、地域住民、 地域企業、JICA二本松 ○ESDポスターセッション	○2年生の代表10班、ESD夏季海外研修班の発表会 ○選ばれなかった班は、ポスターセッションに掲示参加する。	A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
9	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	○大文化祭準備 ○まゆみ祭（大文化祭） 「咲かせろ青春 綴れ僕らの物語」	○仮装パレード 一般公開 芸術鑑賞	A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
9 10	②	②	②	②	○修学旅行事前学習 ○修学旅行	○平和学習 戦争と平和、原子爆弾について ○日本文化と歴史 京都の文化と寺院	A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
11	① ② ③		① ② ③		道徳教育県北地区推進協議会 実践発表 ブロック研修伝達講習 講演会 「10代の君への手紙」 渡邊 健 氏 鍼灸あんまマッサージ指圧師 筑波技術大学大学院鍼灸学専攻 公開授業 研究協議	○県北地区内の道徳教育推進推進校（小、中、高）と地元の各種学校へ案内し、道徳教育の研究協議会を行う。 講演会は、一般公開として実施する。 公開授業は、全クラス道徳の授業を実施する。 研究協議は、校種別研究協議会を実施する。	A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
11	①	①			○ESD活動「JICA国際理解出前講座」	○JICA二本松職員による講座 異文化体験学習 国際援助 日本との関わり講座	[真理の探究、創造] [国際理解、国際貢献] [社会参画、公共の精神]
1	①	①			○ESD活動「講演会」	○マリールイーズさん講演会 「紛争体験、異国での生活、東日本大震災を被災を通して」	[向上心、個性の伸長] [思いやり、感謝] [郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度] [国際理解、国際貢献] [よりよく生きる喜び]
2	①	①	①		○ESD活動「ESD研究」 ポスターセッション	○班編成、テーマ設定してポスターにまとめる。	[真理の探究、創造] [相互理解、寛容]

【特集】自分らしく生きる よりよく生きる 10代の君への手紙～「心」と「頭」と「体」を鍛えて…素敵な恋をしよう！～ ～県立安達高等学校（県北地区道徳教育推進校）の講演から～

本年度の県北地区道徳教育推進校である県立安達高等学校は、県内唯一のユネスコスクールとして、「持続可能な開発のための教育（ESD）」を中心に据えて教育活動に取り組んでおり、それらの活動と道徳教育の関連を別葉に示して道徳教育を進めています。

昨年11月、同校において、県北地区道徳教育地区別推進協議会が開催され、生徒や保護者、地域の方々、県北地区の小・中・高等学校の教員を対象に、視覚障がいのある地元出身の渡邊健氏による講演会が開催されました。



渡邊 健 氏の講演の内容

私たちが生きていく上で大切なこと。それは、「心、頭、体」です。

「心」とは、希望、夢、願いといったポジティブな思いを意味します。こうなりたい、自分はこれがしたい…。希望、夢、願いは心のエネルギーそのものです。

「頭」は学びを意味します。新しいことを知ったり身につけたりすることは、それを知らずに生きていくことよりもはるかに人生を豊かにしてくれます。

「体」とは健康を意味します。心や頭を鍛えるためには、そもそも丈夫な体なくしては実現しません。

これは車と同じです。丈夫なボディ（体）に空気一杯詰まった右のタイヤ（心）と左のタイヤ（頭）がしっかり付いている車（自分自身）。三つが充実していて初めて車（自分自身）は行きたい方向へとまっすぐ進みます。まっすぐに進んでいくと、その先には必ず出会いがまっています。その出会いは偶然でしょうか？いいえ、そもそも自分が前を向いていなければ出会いは成立しません。そういう意味では、出会いは偶然という名の必然です。そして、その出会いが奇跡を起こすのです。

「心、頭、体」をしっかり鍛えて、前を向いて、進んで行きましょう。あなたの進む先には、奇跡を起こす素敵な出会いが必ずあります。



渡邊 健 氏

福島県内で23年間教職を務めたあと、視覚障がいが増加したため、二本松市立二本松第三中学校を最後に退職。その後、県立盲学校専攻科理療科に入学。その後三つの国家資格を取得。平成27年度全国盲学校弁論大会で最優秀賞に輝く。現在は、筑波技術大学大学院に通いながら、福島県内で講演活動も行っている。

この講演に込めた思いや願いを渡邊氏にうかがいました。

手引きをしてもらって入場し、手を貸してもらいながら講演を行いました。障がいがある私だからではなく、人間はみんな周りに助けられながら生きていく。そうやって生きてきて、年を重ねて、元気で元々大人が知っていることを知ってほしいんです。その「大人」は、君たちにとって信頼できる、心寄せられる存在になりたいと思っているよって、伝えられたら…。そして、「大人って楽しいよ。」だから、安心して、未来に希望をもって進んでほしい、という思いですね。

逆に私は、はつらつと生きていく背中を見せて、「よし、もっとがんばろう。」って、子どもたちから大きなエネルギーをもらっています。安達高校の皆さんとの出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。

講演会の感想

講演会の全ての参加者が、自分のこれまでの生き方や、これからの在り方をそれぞれに見つけることができました。渡邊健氏による講演会という名の「道徳の授業」となりました。



自分にできることを「待つ」のではなく、考えて実行することが大切なのかなと考えました。

今日の講演会で渡邊さんに会えてとても幸せでした。この「縁」に感謝します。 安達高校1年

自分のことを客観的に見て、どんなことが足りないか、何ができていないのかを探してみたいと思いました。自分の将来に希望と夢をもって、強く、元気に生きていきたいと思っています。 安達高校2年

私はもっと自分らしくいいのだと思えました。つらいこと、苦しいこと、目の前を高い壁で立ちふさがれることがあっても、「出会い」のために、自分らしく、しっかりと2本の足で進んでいきたいです。 安達高校3年

年齢を重ねるほど実感してしまう“知っているつもり”。自分自身も心当たりがあったゆえに、新たな出会いのために常に新鮮な気持ちを意識して、前を向いていきたいと思いました。 福島市 小学校教諭

「自分は教員を辞めることになっちゃったが、だからこそ、今日みんなに出会うことができた。」という言葉が心に残りました。私も、これまでに会った子どもたちのことを思い出しました。 伊達市 小学校教諭



県中地区道徳教育推進校「天栄村立天栄中学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	天栄村立天栄中学校
所 在 地	天栄村大字白子字西原 5
校 長 名	馬場 哲明
教 育 目 標	豊かな人間性と想像力を持ち、主体的に実践できる生徒の育成
学級及び児童 生徒数	学級数 8 生徒数 139名

2 研究テーマ

道徳科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
～「主体的・対話的な学び」をつくる学習活動の工夫～

3 研究テーマ設定の理由

今年度から全面実施となる「特別の教科 道徳」（以下道徳科）においても、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を図ることは、「生きる力」の育成につながると考えて、本主題を設定した。

本校では道徳の教科化を受けて「道徳教育全体計画」の見直しを行い、「各学年の重点目標と内容項目の明確化」を図った。また、別葉の作成や、現職教育の研究組織に道徳科を含める等の教育課程や研究推進の方法に改善を加えた。

授業においては、意識調査によって子どもの実態を把握したうえで授業を構想し、子どもたちが自己の問題として積極的に他者と対話できる授業づくりをすることや、子どもの変容を見取る「振り返り場面」を重視する学習過程を構成すること、さらに、多面的・多角的な見方・考え方を促すために思考ツールを活用することなどを研究の柱にしている。

そして各教科同様に、「道徳科の研究計画」を策定して、道徳科においても「主体的・対話的で深い学び」の具現化を目指していく。子どもたちのよさや可能性を引き出すような授業を展開することは、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育むこととなり、「生きる力」の基盤となる「豊かな人間性」を培うと考えた。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容
4 月	現職教育委員会（研究内容の検討等）
5 月 1 3 日（月）	第 1 回アンケート調査（生徒の学習意識調査）の実施と集計、アンケート調査結果分析
5 月 2 1 日（火）	第 1 回現職教育全体会
7 月 5 日（金）	第 1 回校内授業研究会（パイオニア授業）「1 年 1 組」 福島大学 准教授 坂本 篤史 様
7 月 1 9 日（金）	第 2 回現職教育全体会 ・授業改善・「互見週間」の準備
8 月 2 6 日（月）	第 3 回現職教育全体会 ・道徳科指導案検討
1 0 月 7 日（月）	第 2 回校内授業研究会 「1 年 2 組」・「3 年 1 組」
1 0 月 2 5 日（金）	第 4 回現職教育全体会 ・道徳科本公開に向けた学習指導案等の最終点検
1 1 月 1 5 日（金）	道徳教育地区別推進協議会 第 3 回校内授業研究会

1 1 月	「1 年 1 組」・「2 年合同授業」・「3 年 2 組」 國學院大學 教授 澤田 浩一 様
2 月	第 2 回アンケート（生徒の意識調査）の実施と集計、アンケート調査結果分析 第 5 回現職教育全体会 ・まとめと次年度に向けた研究の方向性の確認

5 推進にあたって

【視点 1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について	
〈作成上の工夫点、配慮点〉	
○ 全体計画については、生徒の実態、保護者・教師の願い等から、学校としての重点目標を明確にし、各学年の重点目標と重点内容項目が分かるように作成した。	
○ 別葉については、月別の実施計画とともに、学校行事・特別活動・総合的な学習の時間・各教科との関連性が見える形式のものを作成した。	
〈活用上の工夫点、配慮点〉	
○ これまで各教科のみの研究であった現職教育において、道徳科を取り入れて研究を推進し、組織的に活用していくようにする。	
【視点 2】質の高い多様な指導方法への取組について	
○ 道徳科の研究計画では、目指すべき生徒像、研究仮説、仮説検証の観点・方法等を示した道徳科の研究計画を策定し、それを踏まえて授業者は授業を実践する。	
○ 展開場面を「前段」と「後段」に分ける等、学習過程を工夫して「学び合い活動」に厚みをもたせ、「考え、議論する道徳」の充実を図る。	
○ 多面的・多角的な考察を育むための思考ツールを用いた授業を推進する。	
○ 生徒相互の道徳的心情が交流できる学習形態を工夫するなど、インタラクションの充実を図るために「ジャンプの発問」を設定する。	
○ 密度の濃い学びとなるように、リフレクションの時間を確保し、その内容を充実させる。	
【視点 3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について	
○ 前年度の教育課程・別葉作成の時期に、「ふくしま道徳資料集」の活用について、教職員で共通理解を図った。本校は、資料集から必ず一つの資料を用いて授業を行うようにしており、今年度は「塩むすび」を用いた授業を全学年で実施する計画を立てている（実施時期は学年によって異なる）。1 1 月の授業公開では、2 学年において「塩むすび」を用いた授業を提供し、多くの人々の善意や支えにより日々の生活や自分があることに感謝し、それに応えようとする態度を育てるようにする。	
【視点 4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について	
○ 充実した学習過程にしていくためにも、活動時間の確保は欠かせない。教科書に付属するワークシートのデータを有効に活用し、授業設計に基づく合理的なワークシートを作成して授業に臨み、振り返りや評価に生かせるようにする。	
○ 生徒がワークシートに書いた心情等に対して、授業者が朱書きでコメントし価値付けを図るようにする。また、道徳科に関する掲示場所をつくり、個々の生徒のよさや可能性を認め合えるようにする。	
【視点 5】家庭・地域との連携を生かした取組について	
○ 村教委と連携した地域学校協働活動の中で、地域と連携しながら地域の人材を有効に活用した道徳教育を学校教育活動の全体を通して行う。特に、過去に「モラル・エッセイ」コンテストに入賞した本村在住の方との連携を図ることができるようにする。	
○ 例年どおり、人権擁護委員の方をゲストティーチャーに招いての道徳科の授業を実施し、人権意識の高揚を図る。	
○ 昨年度同様に、生徒が主体的に地域に出向くボランティア活動を行う。	

6 「家庭・地域との連携」について

(1) 活動のねらい

家庭や地域との連携を強め、道徳教育全体計画や年間指導計画等に改善を加え、家庭や地域において、「何ができるようになるか」という実践意欲と態度を育む。

特に、道徳科の授業や諸行事を行う際には、地域の事業所や人材等を活用する教育課程を編成し、学校教育全体を通じた道徳教育の充実を図る。

(2) 活動の概要

- ・ 家族愛を育むための、村の施設での乳幼児とのふれあい体験や高齢者福祉施設でのボランティア活動
- ・ 公共の精神と実践力を高めるための、部活動による地域での清掃や除雪などのボランティア活動
- ・ 勤労意欲や態度を育むための職場体験活動
- ・ 国際理解を深めるための、村内の英語研修施設を活用した異文化体験学習
- ・ 公正・公平な判断や社会正義への理解を深めるための人権擁護委員との連携を図った道徳科の授業展開
- ・ 教育課程の改善を図るための道徳教育に関するアンケートの実施



赤ちゃんふれあい体験

(3) 成果と課題

- 道徳科を要としながらも、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を行うことができており、年間の指導計画作成においては、生徒の発達段階を考慮した教育課程を編成することができた。
- 指導にあたる教員だけでなく、生徒も「家庭や地域の中において、自分たちは何ができるようになるか。」という意識が高まり、実践場面も増えている。
- 家庭との連携という点では、双方向に連携を深める方法について、さらに研究を進める必要がある。
- 家庭や地域の方々が参画できる道徳科の授業実践をさらに積み重ねていくことにより、本校のスタンダードな取組として、さらに定着させていきたい。

7 成果と課題

(1) 成果

- 道徳科の研究計画を策定し、組織として取り組むべき方向性を明確にして、校内研修を推進した。パイオニア授業を含め3回の検証授業を進めていく過程において、道徳科の授業改善をしていくことが、教科指導の授業改善にも結び付いていくことの共通理解を図ることができた。具体的には、生徒が道徳科で身に付けた学び合いのスキルや良好な人間関係を、各教科での学び合いに生かしていくなど、継続的な取組によって得られた成果は、本研究の副産物と言える。
- 道徳科においても、各教科同様に「学習課題」を設定して学習過程を作成した。また、展開場면을前段と後段に分け、展開後段で「ジャンプの発問」を設定し、意図的に価値観を交流する場面を設定した。それにより、密度の濃い学びが実現するとともに、「考え、議論する道徳」の具現化に近づくことが実感できた。例えば、生徒のアンケートでは、「友達との対話を通して、それまでとは違う見方、考え方に気付くことがありますか。」という質問に対して、5月と11月の比較では、「あてはまる」と答えた生徒が、40.6%から52.1%へと増加し、「どちらかと言えばあてはまる」を含めると、90.9%が肯定的な回答をした。
- 振り返りの時間を、15分間程度確保する学習過程を計画し、「振り返りの場面」の量と質の充実を図ったことで、「自分の学び」を確かなものにする「熟考」の場面が確保され、生徒のよさや可能性を見取ることができた。

(2) 課題

- 今年度の本校の研究では、「評価」に関する研究について不十分な部分があった。研究推進の計画段階での課題なので、今後の研究の柱の一つにしていきたい。
- 別葉が授業づくりに機能していない部分があったので、授業者が有効に活用していくことのできる別葉を作りあげていくようにしたい。

憲法、教育基本法、学校教育法等の諸法規、いじめ防止対策推進法など
学習指導要領
時代や社会の要請
いじめの根絶、国際化、情報化、高齢化等の社会変化と道徳の教科化への対応

各教科における道徳教育の指導の方針	
国語	読書に親しみ、人間・社会・自然について考えさせ豊かな心情を育てる。
社会	国際社会の中での日本人としての自覚と広い視野に立つて物事を正しく判断できる心情を培う。
数学	真理を追究し、いろいろな考え方を学び、それぞれの個性や立場を尊重する態度を養う。
理科	生きとし生けるものの生命の尊厳に気づかせ、生きていくことに感謝の念をもつ態度を養う。
音楽	さまざまな音楽的な活動を通して、豊かな情操を養う。
美術	自然や造形作品としての美や、人間の行為の美しさや心の美しさに感謝する心を育てる。
保健体育	心と体を一体としてとらえ、心身ともに健康なライフスタイルを確立できるようにする。運動を通して、公正な態度や進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなどの態度を育てる。
技術家庭	仕事の楽しさや完成の喜びを体得させ、実践的な態度を養う。
英語	広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに国際協調の精神を養う。

総合	奉仕活動、施設訪問活動などの多様な体験活動を通して豊かな人間性を育成する。
特別活動	※右表のとおり ・学級活動 ・生徒会活動 ・学校行事

別 葉

幼小中との連携

天栄村つなぐ教育やサマースクール in てんえい等における、村内の学校交流をとおして、豊かな人間性を育むようにする。
--

天栄中学校 道徳教育全体計画

本 校 教 育 目 標
基本目標 豊かな人間性と創造力を持ち、主体的に実践できる生徒
具体目標 1 心身ともに健康な生徒の育成（健康） 2 進んで学習する生徒の育成（向上） 3 くじけず前進する生徒の育成（自立）

道 徳 教 育 の 重 点 目 標
人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ・自分自身の理想や目標をかかげ、それに向かってくじけずにやり抜く強い意志を育む。 ・多面的多角的な考察をもとに、自立的に判断したことを誠実に実行し、その結果について責任をとることができる態度を養う。 ・時、場所、場面に応じた礼儀や言動ができる実践意欲と態度を育てる。 ・自他の生命と人権を大切にすることができ、いじめがない学校をつくる。
重点内容項目 (A－1・4) (B－7) (C－11・12) (D－19・22)

学 年 の 重 点 目 標			
1 年	2 年	3 年	
・より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げる態度を育てる。 ・礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとることのできる態度を育てる。 ・生命の尊さについて、その連続性や有用性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を育てる。	・自立の精神を重んじ、自立的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つ態度を育てる。 ・正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会を実現しようとする態度を育てる。 ・生命の尊さについて、その連続性や有用性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を育てる。	・社会参画の意義と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会を実現しようとする態度を育てる。 ・生命の尊さについて、その連続性や有用性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する態度を育てる。 ・人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間としてよりよく生きる態度を育てる。	
重点内容項目	重点内容項目	重点内容項目	
A－4 B－7 D－19	A－1 C－11 D－19	C－12 D－19 D－22	

道 徳 科 の 指 導 の 方 針
・道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の質的改善・量的確保を徹底する。 ・「生きる力」を根本的に支える、人としてよりよく生きようとする人格的特性である「道徳性」を育むこと。 ・道徳科における「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図る。 ・言語活動の充実を図り、「考え、議論する道徳」の具現を目指す。 ・問題解決的学習や道徳的行為に関する体験的な学習を計画的に取り入れる。 ・道徳科の評価は、学習状況や道徳性に係る変容の様子を継続的に把握する。 ・ふくしま道徳資料集や地域教材は、系統性を明確にして取り扱う。

家庭・地域との連携

家庭や地域社会から情報収集し、つながりの深まる活動を展開する。 ○ゲストティーチャーの協力 ○授業参観・フリー授業参観 ○PTA活動 ○登校時の交通指導 ○学校行事への招待 ○学校・学年・学級・保健便りや学校ホームページによる情報発信
--

道徳教育の推進体制と環境整備

現職教育委員会を柱に、各学年を単位とする部会において、道徳科の指導方針をもとに、教科の目標が達成できるように研究を推進する。 道徳の学習内容に関連する資料や学級の係活動の活動状況に関する資料を掲示するなど、学習環境の整備を工夫する。

生徒の実態
・純粋で素直である。 ・自然体験が豊富で、周囲への優しさがある。 ・嫌なことや苦手なことから逃避しがち。

教師の願い
・目標に向かって粘り強く努力できる子ども ・TPOに応じた立ち居振る舞いができる子ども

保護者の願い
・思いやりのある子ども ・責任感のある子ども ・いじめをしない子ども

特別活動における道徳教育の指導の方針
A 学級活動
学級集団を通して、自分自身を厳しく見つめることができるようにし、同時に他人をよく理解し、思いやりの心をもってよりよい集団のあり方を身に付ける。
B 生徒会活動
生徒会活動を通して、個人が役割や責任を果たすことの大切さを理解し、勇気をもって積極的に取り組む態度を育てる。
C 学校行事
創意と工夫を重ね、生徒の積極的な取り組み・参加を図り、よりよい生活を築いていくこうとする態度を育てる。

生徒指導における道徳教育の指導の方針
・価値観を正しくとらえて適切な行動ができる道徳的実践力を育てる。 ・思いやりのある優しい心と美しいものに感動する心を育てる。 ・積極的な生徒指導を推進し、共感的な人間関係を育成する。 ・いじめのない学校づくりのための人権教育を充実させる。

体験的活動等における道徳教育の指導方針

・ボランティア活動を学級・学年・部活動単位で実施し、自己の公徳心を育むきっかけをつくる。 ・募金活動、清掃活動など、集団・社会の中での役割や達成感を味わう体験となるように留意する。

※各教科の○内は配当時間案

2 道徳教育推進校の実施計画書等

One for All

天栄村立天栄中学校

文責：1年1組担任 柳橋 綾子

道德科の授業では、様々な話題に触れ、子どもたちが「自分の中にも、複雑な迷いや不安が渦巻く」ということを実感しながらも、そのような「迷い」や「不安」に直面したときに、人として、または自分自身としてはどんな考えを持って生きていくことが大切なのか、ということをもみんなで深く考え、議論できるよう努めてきました。

保護者の皆様にも、授業内容をお知らせいたしますので、共通の話題としてご家庭でもお話する機会にいただければ幸いです。なお、ご意見やご感想などありましたら是非お知らせください。

◎「今学期の道德科授業」の紹介

教材名 13「決断！ 骨髄バンク移植第一号」 (11月15日実施)

ねらい： 悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、他の「いのち」と一緒に生きていくことの意義について考える活動を通して、自他の「いのち」を尊重する心情や意欲を養う。

■ 教材の内容について

テレビ番組「プロジェクトX」を教材化したものです。骨髄移植によって白血病患者の命を救うために、日本でも骨髄バンクの組織を作り出そうとボランティアの会員たちが奮闘する中、一人のドナー登録者が、血液の適合を告げられます。手術が近づくにつれ恐怖と使命感の間で心は揺れましたが、主人公は恐怖を乗り越え、骨髄の提供を決断します。日本初の骨髄バンク登録者による移植手術が成功します。1991年、ついに日本骨髄バンクが誕生し、その数年後、全国集会で出会った患者とドナーは固い握手をして抱き合います。主人公の揺れる心に迫ることで、自他の「いのち」を大切にすることへの率直な意見や価値観を出し合うことができる教材です。

■ 生徒の実態について

生活環境の変化により、中学生は、身近な人の死に接したり、人間の「いのち」の有限性やかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験が少なくなっています。生命の尊厳に気付き、命あるものは互いに支え合って生き、また生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが必要です。自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他者の生命も尊重する態度を身に付けることが大切です。

■ ご家庭へ

自他の生命を尊ぶためには、まず自己の生命の尊さを深く考えることが大切です。生命尊重の認識が浅い場合、生命軽視の軽はずみな言動につながり、いじめなどの社会問題となることもあります。生きていることの有り難さに深く思いを寄せることができれば、自己以外の生命も同様に大切にすることができると考えます。ご家庭においても、自他の生命を大切にしていくなめには何が必要なのか、ご家族で素直な意見や価値観を出し合って、考えを深めていただければと思います。

《授業を受けた子どもたちの感想》

- これからは、命を軽く見ずに、もう少し重く見てみようと思う。自分以外の命も大切にしていきたい。
- 今の自分たちにはできないことの方が多いかもしれないけど、「自分」ができることを見つけて少しでも多くの人たちを救いたい。
- 最初は骨髄を提供するのはとてもこわくて、他人のためにはできないと思っていた。でも、「自分から行動する」という温かい気持ちをもっている人が世の中にいる事を知り、提供したいという気持ちが自分の中で増えてよかった。

《お便りを読んだ保護者からの感想》

- 日々、当たり前前に学校へ行き、勉強・部活動をしています。現実には、病気で行けなくなるなど、世の中にはたくさんつらい生活をしている人がいます。「いのち」が生かされていることに、感謝。困っている人には優しい言葉や態度が必要です。学校で、「いのち」の勉強を引き続き行っていいただければありがたいです。

県南地区道徳教育推進校「泉崎村立泉崎中学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	泉崎村立泉崎中学校
所 在 地	泉崎村大字泉崎字上陣場 1 4
校 長 名	桑原 透
教 育 目 標	○自ら学びとる生徒 ○思いやりがあり、共に成長しようとする生徒 ○健康で、積極的な生徒
学級及び児童生徒数	学級数 8 生徒数 1 6 8 名

2 研究テーマ

「自ら他に学び、主体的に道徳的価値を追究する子どもの育成」

ー考え議論する道徳科の授業を目指してー

3 研究テーマ設定の理由

県南地方のほぼ中心に位置する本校は、緑豊かな自然に恵まれ、農業が盛んな地域にある。祖父母は農業に従事し、親世代は広大な立地を生かした工業施設に勤務するなど、二世帯での生活を基盤とする家庭が多い。一つの幼稚園から二つの小学校に分かれ、再び一つの中学校で共に学ぶ環境にあり、生徒同士は幼い頃からの安心感に支えられ、和やかで仲の良い雰囲気の中で学校生活を送っている。

一人一人は概ね素直であり、集団として基本的な生活習慣・学習習慣が身に付いているが、人間関係で悩みを抱えたり、他者を思いやる余裕がなくトラブルになったりするなど、様々な問題が見られる。そのため、今後、自己を取り巻く社会の実情や自然の尊さ、生命尊重の精神に一層心を向けさせていく必要がある。

「特別の教科 道徳」の全面実施に伴い、週 1 時間の積み重ねで生徒にどのような気付きや変容をもたらせるかという視点の下、他者と交流することで、他の考えに耳を傾けて気付き、「考え議論する」ことを通して、「道徳的価値を追究する子どもの育成」につなげることができるのではないかと、いう仮説から、本研究のテーマを設定した。

4 研究計画

月日（曜日）	主な研究内容	備 考
4 月 1 7 日（水）	校内研修 現職全体協議会（研究内容の検討）	
5 月 2 9 日（水）	校内研修（研究テーマ・重点実践事項・実践方策設定）	
6 月 2 5 日（火）	校外研修 福島大学附属中学校研究公開参加（2 名）	場所：福島大学附属中学校
6 月 2 6 日（水）	〃	
7 月 1 0 日（水）	校外研修 湯本第二中学校研究授業参観（1 名） （宇都宮大学准教授 和井内 良樹 先生による授業）	場所：いわき市立湯本第二中学校
7 月 1 1 日（木）	校外研修 第 1 回村共同授業研究（泉崎第二小学校道徳科）	
7 月 1 9 日（金）	第 1 回道徳科授業に関するアンケート実施	
8 月 6 日（火）	校外研修 モラロジー道徳教育研究白河大会参加（2 名）	場所：東京第一ホテル新白河（西郷村）
9 月 6 日（金）	校内研修 授業研究会：3 学年 2 組授業実践 （宇都宮大学准教授 和井内 良樹 先生によるご指導）	
9 月 2 0 日（金）	校外研修 第 2 回村共同授業研究（本校 1 学年道徳科）	
1 0 月 3 0 日（水）	校外研修 千葉県立轟町小学校研究公開参加（2 名）	場所：千葉県千葉市立轟町小学校
1 1 月 2 0 日（水）	公開授業 道徳教育地区別推進協議会授業実践 （和井内 良樹 先生他によるご指導）	実施学年 2 学年 1 組 3 学年 1 組
1 1 月 2 6 日（火）	校外研修 第 3 回村共同授業研究（泉崎第一小学校道徳）	

1 2月20日(金)	第2回道徳科授業に関するアンケート実施	場所：神奈川県大井町立湘光中学校
2月 3日(月)	校外研修 大井町立湘光中学校授業参観(2名)	
2月	現職全体協議会(研究のまとめ)	
2月	現職教育全体会(反省・次年度研究の方向性について)	

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について
〈作成上の工夫点、配慮点〉 ○ 道徳教育重点目標に「自然や生命を尊重し、自他を認め合う豊かな心と、社会生活へのよりよい適応能力の育成」を掲げ、全体計画と別葉を作成した。 - 各教科、特別活動、総合的な学習、地域社会に関わる行事などの教育活動全体との関連を時系列で明らかにし、より実効性のある内容となるよう配慮した。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 本校は教育活動全体で「自他共栄」の理念を重視し、生徒や職員に伝えている。重点事項の冒頭に「自然や生命の尊重」を掲げる意義を踏まえ、ふるさと泉崎を愛し自他の生命と心身を大切にする生徒像を目指している。長い歴史に支えられた自然豊かな土地に誇りを持ち、自分も他者も尊重できる態度の育成に向けて、郷土学習(森林学習)などとも関連付け、活用できるよう工夫した。
【視点2】質の高い多様な指導方法への取組について
○ 言語活動の充実を通して、「考え議論する」活動につながる学習過程の工夫 ① 生活場面・問題場面の焦点化による課題設定の工夫 ② 課題意識を高める学習過程の工夫 ○ 「自己を見つめ、多面的・多角的に考える力」につなげるための見取りと個に応じた支援の工夫 ① 解決の見通し(1時間で目指す変容)立案の工夫 ② 評価累積の工夫(教師による評価、相互評価、自己評価など)
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について
○ 学級に常備し、自由に資料に親しめる環境を整える。 ① 地域に根ざした教材「ふくしま道徳教育資料集」の、身近で親しみやすいという特徴を生かし、郷土愛の伸長と共に、関連する道徳的価値の追究にはかる。 ○ 年間指導計画における教材との関連を踏まえ、積極的に活用する。 ① 震災からの復興に関するものを中心に、価値の深まりに有効な資料を取り上げる。
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について
○ 1時間内での変容と、長期的な変容の見取りの蓄積 ① 活動を通して多面的・多角的な見方へと発展したかどうか、また道徳的価値の理解が自分自身との関わりで深まったか、主に道徳ノートへの記述をもとに累積し、ワークシートなども効果的に活用する。 ○ 他に学び、励まし合うことができる環境の整備 ① 授業内で共有しきれなかった互いの考えを教室に掲示することで、より多くの考えにふれ、一人一人が認められているという満足感を持てるようにする。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について
○ 学校通信や学年通信などで、道徳科の授業実践における生徒の様子や考えの深まりなどを紹介する。 ○ 地域で活躍し、貢献している経験の豊かな人材をゲストティーチャーとして招き、「他に学ぶ」授業の展開を図る。 ○ 全学級で授業参観日に道徳科授業を年1回以上実施し、保護者の理解を図りつつ、学校の共通実践(道徳的価値を追究する子どもの育成)を行う。 ○ 「モラル・エッセイ」コンテストへの生徒、保護者、地域住民の参加について、国語科と連携し、学校だよりなどを活用して応募作品を紹介する。

6 「家庭・地域との連携」について

【学校通信・ホームページの活用】

学校通信「白樺」やホームページを活用し、道徳科のねらいや授業実践について、家庭や地域に伝えている。また、生徒対象のアンケートを学期ごとに実施し、一人一人の考えの変容や深まりについて学年別に分析・検証し、その結果を保護者に伝えていくことで道徳科の授業について家庭で話をしたり、道徳性を養うことの大切さについて理解してもらったりする機会としている。

【地域人材を活用したゲストティーチャーによる授業】

○主な授業内容

- ・助産師による思春期講座
- ・携帯電話会社による情報モラル講座
- ・地域の「森の案内人」による森林学習（第1学年 総合的な学習の時間）
- ・地元活性化のために活躍するご当地キャラ「ダルライザー」による講話

それぞれ地域で活躍する方々の熱意ある話を聞くことで、生命尊重や自主性を養うことの大切さ、郷土を愛する心、将来の生き方について考える良い機会となった。

【カリキュラム・マネジメントに基づいた道徳性の育成】

本校の道徳教育重点目標の1つに挙げられている「自然や生命の尊重」を達成するために、総合的な学習の時間において「森林学習」を実施した。同時期に理科の授業で「植物の分類」について、また、美術科では「情景を水彩で描く」について学んでおり、教科横断的な学習を行ったことで、自然に対する興味・関心を高めると同時に、地域の自然環境を大切にしたいという心情を効果的に育成することができた。



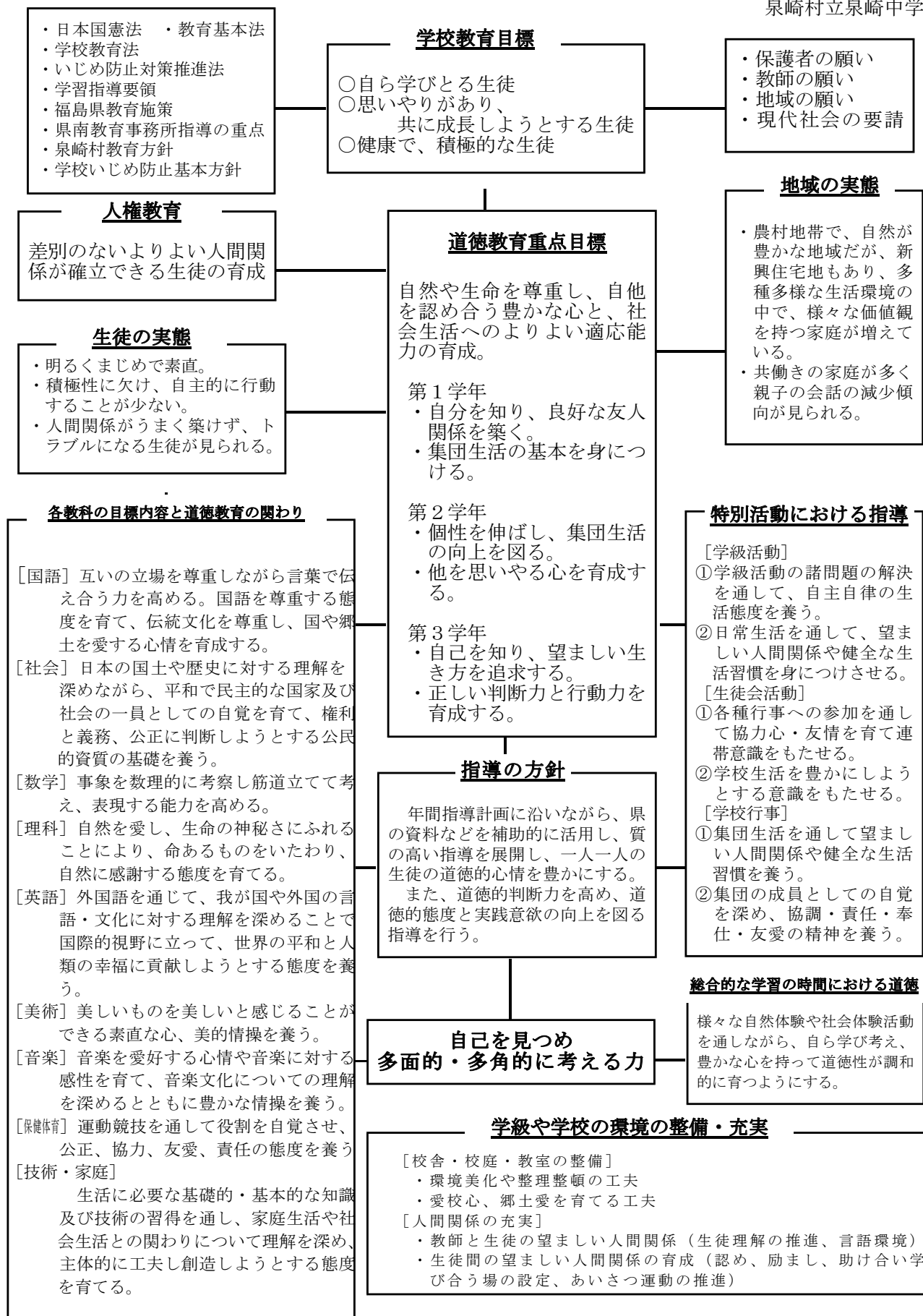
7 成果と課題 （ 成果○ 課題● ）

- 各教科、総合的な学習の時間、特別活動、学校行事及びPTA活動と関連させた別葉を作成し、適宜見直しを加えながら自校化することができた。
- 1学年の総合的な学習の時間に「ふるさとや自然を大切にする心」の育成を目指した「森林学習」と本校の教育理念である「自他共栄」を関連付けながら、環境保全や郷土を愛する心情を深める道徳科の授業実践ができた。
- 価値の追究へと導く発問を練り上げたことで、子どもと教師、子ども同士の対話が活発になり、言語活動の充実が図られた。
- 宇都宮大学准教授 和井内良樹先生よりご提案いただいた3人で議論を進める「トリオ学習」の形態を活用し、互いの意見を伝え合う活動を通して多面的・多角的に考えさせることができた。話し合いの際、教師が机間支援しながら生徒の意見を見取り、意図的指名をすることで全体で意見を共有し、考えを深めることができた。
- 「心のものさし」を使って個の考えを可視化することで、自分の考えを客観的に見たり、話し合う手立てとしたりすることができた。
- 「ふくしま道徳教育資料集」から、自分ごととして捉えやすいものや学年の重点指導内容のものを選択して活用したことで、郷土愛や震災復興への関心を高めることができた。
- 教科書付属のノートに加え、生徒の実態に合わせたワークシートを活用した。また、授業内で自分の考えを書く場を設定し、認め、励ますように心がけた。また、ワークシートを教室に掲示することで、互いの考えを理解したり、称賛したりすることにつながり、「自ら他に学び、主体的に道徳的価値を追究する」意欲の向上に結びつけることができた。
- 学期末実施のアンケートで「他の意見に触れられた」「他の意見に触れ、共感し理解した」の項目では、1学期から2学期にかけて上昇が見られた一方、「話し合い活動で自分に変化があった」「道徳科の授業はためになった」の項目では変化が見られなかった。授業やそれ以外の活動の中での小さな変化や行動を見取り、励ましながら生徒の道徳性を育てていきたい。
- 生徒会主体で始動した「いじめ撲滅徹底チーム」の活動を、道徳科の授業実践と効果的に関わらせながら進めていく。



平成31年（令和元年）度 道徳教育全体計画

泉崎村立泉崎中学校



会津地区道徳教育推進校「猪苗代町立長瀬小学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	猪苗代町立長瀬小学校
所 在 地	猪苗代町大字八幡字山神374-2
校 長 名	吉田 英俊
教 育 目 標	豊かな心とたくましく生きる力を身に付けた子どもの育成 ○自ら学ぶ子ども ○たくましい子ども ○思いやりのある子ども
学級及び児童生徒数	学級数 7 児童数 66名

2 研究テーマ

自他のよさに気づき、自己の考えを深め、よりよく行動しようとする児童の育成
～自ら考え、伝え合い、深め合う授業づくりを通して～

3 研究テーマ設定の理由

本校は、1学級15人未満の小規模校である。児童は、明るく素直で課題に対して真面目に取り組むことができる。また、全校児童が仲良く生活を送っており、大きなトラブルもほとんどない。ただ、やや積極性と自己表現を苦手としている実態がある。

以上の実態を踏まえ、本研究は、主体的に自他との対話を通して、自分の気づきを深めたり広げたりすることで物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深め、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を身に付け、それらを生かしてよりよく行動しようとする児童の育成を目指すものである。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容
4月22日（月）	・研究主題、研究内容、意識調査等の検討
5月13日（月）	・研究計画、指導案形式等の検討
5月31日（金）	・「研究の視点」と環境整備についての検討
6月 3日（月）	・第1回授業（2年）実践・事後研
6月15日（土）	・先進校視察 筑波大学附属小学校
6月24日（月）	・第2回授業（6年）実践・事後研 ・指導助言並びに道徳に関する講話 講師 毛内嘉威 先生
6月29日（土）	・先進校視察 千葉大学教育学部附属小学校
10月 7日（月）	・第3回授業（1・3・4・5年）実践 ・指導助言 講師 毛内嘉威 先生
11月 7日（木）	・ゲストティーチャー 会津教育事務所 佐藤容子 先生
11月18日（月）	・道徳教育地区別推進協議会（授業…1・3・5年）・指導助言 講師 毛内嘉威 先生
11月25日（月）	・道徳教育地区別推進協議会時の授業の事後研
12月 6日（金）	・第4回授業（3年）実践・事後研
12月 9日（月）	・研究のまとめ

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について 〈作成上の工夫点、配慮点〉 ① 道徳教育全体計画は、学校として重点内容を4つに絞り、児童の発達段階を考慮して作成した。 ② 別葉は、各月の指導内容との関連で学校行事や各教科等の内容と関わらせて作成した。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ① 重点内容の児童の道徳性について、年2回の道徳アンケート、学校評価アンケート等を生かして客観的に評価して改善していく。 ② 別葉の活用にあたっては、週案にとじて反省や気づいた点等を記録して、次年度への改善資料となるようにする。
【視点2】質の高い多様な指導方法への取組について ① 児童に興味・関心をもたせるために、導入時に写真やアンケートの活用、資料の分割等、教材提示を工夫する。 ② 物事を多面的・多角的に考えさせたり、自己を深く見つめさせたりするために、発問の吟味とコーディネート工夫をする。 ③ 自他の変容を捉え、自己の考えの広がりや深まりを実感させるために板書構造やノートを工夫する。
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について ① 本校の児童の実態に合った資料を選定し、どの時期にどのような授業を実践するかについて検討する。各学年で、年間1回は活用する計画を立てる。 ② 教科書の教材と併用して、授業の導入時・展開時・終末時のどのタイミングで使用するのかを検討し、柔軟に活用していく。 ③ 福島県だからこそその資料を活用して、郷土愛や地域への関心を深めることで道徳性を高める。
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について ① 物事を多面的・多角的に考えることができたか、自己の生き方についての考えを深めることができたか、等の視点を明確にして、授業のどの場面でどんな方法で評価するのか明らかにしていく。 ② ノートやワークシート等、児童の実態に応じたよりよい形式を考えるとともに教師からの認め励ますコメントを入れ、児童一人一人の変容を捉える。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について ① 7月の授業参観では全学年で道徳科の学習を公開して道徳教育への関心を高める。 ② 道徳教育の学習の様子を「学校だより」の発行とホームページへの掲載等で家庭や地域に伝え、道徳教育への理解を得る。 ③ 小中連携や小小連携の一環として、校内の道徳科の授業研究会を公開して、町内の小・中学校の教職員の参加を呼びかけ、研修を深める。 ④ ゲストティーチャーや地域人材の活用を図り、家庭や地域との連携を深める。 ⑤ 道徳科の教科書やノート、ワークシートのファイルを家庭に持ち帰り活用することで、家庭との連携を図る。

6 「家庭・地域との連携」について

(1) 授業における保護者との連携の工夫

7月の授業参観で、全学年が道徳科の授業を公開した。授業において保護者の参加を得て、児童と保護者が一体となった学習を展開することができた。

3学年では、「1まいの銀貨」（家族愛）の学習を行った。授業前に、家庭で教材を読んでおいてもらい、中心発問の場面で、親子4組でグループを作り、親子で話し合った。その際、児童が考える主人公の母親の気持ちを、保護者がよく聞いてあげていた。そして、保護者から「子どもが悲しいと、ママも悲しくなってしまう。」などの言葉を聞き、児童は、より自分のこととして家族について考えることができた。



(2) 学校だよりとホームページによる道徳教育への理解の推進

学校だよりやホームページに、道徳教育に関わる記事を投稿することを通して、保護者や地域の方々に、道徳教育についての理解をしていただいた。

記事の内容は、道徳科の授業で学んだことや全校道徳での児童の様子などについてである。その際、「どんな内容項目・価値について考えたのか」や「どんな方法で学んだのか」など、授業の様子をできるだけ分かりやすく伝えることにより、道徳教育への関心を高めると共に、家庭での児童への道徳教育の一助となるように考えた。

児童が一生懸命に考える姿や学んだことなどについて理解をいただいたことで、家庭や地域との連携を深めることができた。



7 成果と課題

- 各月の指導内容と学校行事や各教科等の内容と関わらせて、長瀬小独自の別葉を作成した。各担任が、別葉を週案に綴じておき、教材配当の変更や実践した内容等を記録しながら活用することにより、次年度への改善資料とすることができた。
- 授業の導入において、写真やアンケートの活用、資料の分割等、教材提示を工夫したことにより、児童に興味・関心をもたせることができた。
- 授業の展開において、動作化や役割演技などを取り入れて、自己の考えをもたせて表現させたり、自他のよさをつなげる発問を吟味してコーディネートをしたりしたことにより、多面的・多角的な見方への発展につながった。また、自他のよさを広げ、自己の考えを深めさせることができた。
- 授業の終末において、授業を振り返り、ノートやワークシートに自己評価や感想を記述させることにより、自己の考えの広がりや深まりを実感させるとともに、児童一人一人の変容を捉えることができた。
- 心情スケールや心情図、心情曲線や名前磁石などを活用して、児童の考えを可視化した構造的な板書を工夫したことにより、考え議論する道徳へと導いたり、学びを深化させたりすることができた。
- 発問によって、児童の反応が鈍かったり、意図した話し合いにならなかったりすることがあった。児童の多様な考えを引き出してつなぐことができるよう、さらに発問の吟味とコーディネートの工夫をしていきたい。
- 今年度は、児童の実態に応じて、ノートやワークシートを活用した。今後は、児童の発達段階に合わせたノート指導の充実を図っていきたい。

道 徳 教 育 全 体 計 画

1 目 標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

2 指導の重点

- 今年度は、道徳アンケートや日頃の行動等から、特に「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ」を重点内容項目として指導する。
- 各教科・外国語活動・総合的な学習の時間及び特別活動との密接な関連を図りながら、自己の生き方についての考えを深め、道徳性を育むようにする。

3 指導方針

- (1) 道徳科の授業を公開し、保護者や地域との共通理解を深め、相互の連携を図る。
- (2) 重点内容項目を扱う授業は、年間を通して複数回行うこととする。

4 全体構想

日 本 国 憲 法	教 育 目 標	児 童 の 実 態
教 育 基 本 法	1 自ら学ぶ子ども	○ 明るく素直であり、友だちに対して親切である。
学 校 教 育 法	2 たくましい子ども	○ きまりを意識し、守ろうとする意欲が弱い。
学 習 指 導 要 領	3 思いやりのある子ども	○ まじめに努力するが、自分で考え、主体的に行動する力に欠ける。
いじめ防止対策推進法	学 年 の 重 点 目 標	

低 学 年	中 学 年	高 学 年
1 気持ちのよいあいさつなど基本的な生活習慣を身につけようとする態度を養う。 2 友だちと仲良くし、助け合おうとする態度を養う。 3 生きるものすべてに生命があることに気づき、生命を大切にしようとする心情を育てる。 4 みんなで使うものを大切に、約束やきまりを守ろうとする態度を養う。	1 自分でできることは自分でやり、節度ある生活をしようとする態度を養う。 2 友だちを思いやり互いに信頼して助け合おうとする態度を養う。 3 生命の尊さを知り、命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 4 約束や社会のきまり、規則や公德を守り、社会のためになることをしようとする態度を養う。	1 節度節制を心がけ自律的で責任のある態度を養う。 2 互いに信頼し、学びあって友情を深め、相手の立場を理解し支え合う態度を養う。 3 生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。 4 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たそうとする態度を養う。
〈重点内容項目〉 A◎善悪の判断、自律、自由と責任 B◎親切、思いやり C◎規則の尊重 D◎生命の尊さ		

各 教 科	外 国 語 活 動	総 合 的 な 学 習 の 時 間	特 別 活 動
○ 豊かな人間形成を図るために、各教科の目標や内容に含まれている道徳性を育てる面を明確にしなが指導にあたる。 ○ 各教科において、豊かな体験を充実させることにより、道徳性の育成を図る。	○ 異なる文化を持つ人々との交流を通し、言語、生活、習慣、文化の違いに気づき、体験的に理解を深めることができる。 ○ 児童にとって身近なコミュニケーションの場面を設定し、外国語を用いたコミュニケーションの楽しさを体験的に実感できるようにする。	○ 道徳教育で培われた道徳性を基盤とし、体験的な学習を通して「生きる力」を育てるようにする。 ○ 自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合うことの意義に気づかせることにより、自分なりの価値観を育てていくことができるようにする。	○ 特別活動に主体的に参加させることによって、心身の調和のとれた発達を図り、好ましい人間関係を築くことができるようにする。 ・ 学級活動 ・ 児童会活動 ・ クラブ活動 ・ 学校行事

令和元年度 道徳全体計画別業 道徳と教科等との関連 第1学年

猪苗代町立長瀬小学校

教科他／月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
道徳		「あかるいあいさつ」	3「かばちゃん」	6「きんのおのぎんのおの」	10「げんきだね、あけはくん」	12「ほくこときみのこと」	13「だれも見えていない」	17「みらいにむかって」	21「じしんがおきて」	24「はしの上のおおかみ」	27「ともくんの字」	30「ないちゃった」	33「ハムスターの赤ちゃん」
	価値	①礼儀	A-(3)節度、節制	A-(2)正直、誠実	D-(18)自然愛護	A-(4)個性の伸長	A-(1)尊重の精神、自律、自由と責任	A-(5)希望と夢、努力と強い意志	A-(3)節度、節制	B-(6)親切、思いやり	A-(5)希望と夢、努力と強い意志	B-(6)親切、思いやり	D-(17)生命の尊重
	主題	あいさつのきもちをよさ	わがまをおさえて	しうじきに	みんなないきてい(県資料)	じぶんのこと	それをしてほしいのかな	一つずつやってみよう	ものやお金をいせつに	しんはつにするときと気もちがい	いっしょうけんめい	あいての気持ち	小さいけれどたいせつないのち
	価値	2「はりきりいちねんせい」	4「ほけ、きゅうぶとうばん」	7「めだかのめく」	11「おかしくないかな」	14「げんきなてくんと」	18「はなりのジェニーちゃん」	22「くりのみ」	25「みっちゅんのやくそく」	28「大すきだから」	31「大あわてのダンブ」	34「ワハハの子ども」	O-(13)家庭、家庭生活の充実
	主題	よいことをする	(生活・知見) 遠足、異学	たのしいがっこう	みんながつかうものやばし	みんないっしょに	ことばがつかうなくても	19「大すき、わたしたちの町」	23「ぼつかほか」	26「七つぼし」	29「うんどうくつ」	32「二わのこり」	かぞくのために(県資料)
	価値		5「はやとどのゴール」	8「じゃんけんぼん」	C-(11)公正、公平、社会正義		19「空いろのたまご」	23「ぼつかほか」	B-(8)礼儀	D-(19)感動、畏敬の念	A-(1)尊重の精神、自律、自由と責任	B-(9)友情、信頼	
	主題		あたたかいうち	みんなとたのしく			生きものによさく	わたしの町のすてき	こころをつないで	さわやかな気持ち	よいこととわるいこと	ともだちだから	
	価値		9「おいちやんのたんざく」	D-(17)生命の尊重			16「はちゃんのバッジ」	20「ノンノン、だいじょうぶ」					
	主題						ありがとうの気持ち	あたりまえがすてき					
主な学校行事			□運動訓練(生命の尊重) □遠足(節度、節制、礼儀) □友情、信頼	□生活・知見(生命の尊重) □プール開き(節度、節制) □規則の尊重	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第2学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)
特別活動			□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)
生活			□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)
各教科			□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)
			□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)
備考			□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)
			□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)	□生活・知見(生命の尊重) □水泳記録会(希望と夢、努力と強い意志) □第1学期終業式(よりよい学校生活、集団生活の充実)

【資料】

[illegible]

道德全体計画別葉 3 学年



1 階廊下掲示 「道徳コーナー」



各教室背面掲示 「心の木を育てよう」



全校道徳 2 学年教材「メイとケンプ」
児童と教師による役割演技



ゲストティーチャー
会津教育事務所 佐藤 容子 先生
4 学年教材「ジョン万次郎のぼうけん」

南会津地区道徳教育推進校「南会津町立田島小学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	南会津町立田島小学校
所 在 地	南会津町田島字会下甲 3 3 1 6
校 長 名	高橋 弘之
教 育 目 標	心身ともに健康で、確かな学力を持ち、人間性豊かな児童の育成
学級及び児童 生徒数	学級数 1 4 児童数 2 4 8 名

2 研究テーマ

「ふるさとを愛し、共によりよい生き方を追求する子どもの育成」
～家庭・地域との連携を中心として～

3 研究テーマ設定の理由

本校では2年前から「特別の教科 道徳」に視点を当て、「親切・思いやり」「郷土愛」を重点内容項目として研究を進めてきた。1年目は、「考え、議論する道徳の授業の創造」、2年目は、「各教科、他領域との関わり」を軸に研究を進めてきた。昨年度の成果として、様々な教育活動において道徳教育全体計画別葉を意識しながら各教科と道徳教育の関わりをもたせる指導を行ってきたことで、児童の道徳性が育まれ、実践意欲の高まりが見られたことをあげることができる。

そこで3年目の今年度は、家庭と地域との連携を図りながら自分自身の課題として問題を捉え、自己の生き方について考えを深め、自己を見つめ直すことができるようにさせたいと考えた。そのためには、「特別の教科 道徳」における、家庭と地域との連携が必要であると考え、今年度の研究テーマを設定した。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容
4 月 8 日（月）	研究推進委員会
4 月 1 2 日（金）	第1回現職全体協議会
6 月 1 8 日（火）	第1回Q－Uテストの実施と分析
7 月 2 日（火）	第1回ブロック研究授業・第2回現職全体協議会（4年1組） ・講師：宇都宮大学准教授 和井内良樹先生
8 月 2 0 日（火）	先進校視察：東京学芸大学附属小学校
8 月 2 3 日（金）	先進校視察：筑波大学附属小学校
9 月 6 日（金）	第3回現職全体協議会（2年 事前研究会）
9 月 1 3 日（金）	第2回ブロック研究授業・第4回現職全体協議会（2年） ・講師：宇都宮大学准教授 和井内良樹先生
1 0 月 2 9 日（火）	第1回研究授業（5年2組）
1 0 月 3 1 日（木）	第2回研究授業（1年2組）
1 1 月 1 日（金）	第5回現職全体協議会（5年1組 事前研究会）
1 1 月 1 1 日（月）	第3回ブロック研究授業（5年1組）※道徳教育地区別推進協議会 ・講師：宇都宮大学准教授 和井内良樹先生
1 1 月 1 5 日（金）	第6回現職全体協議会（5年1組）
1 1 月下旬	道徳アンケートの実施
1 2 月上旬	第2回Q－Uテストの実施と分析
1 2 月 1 3 日（金）	第7回現職全体協議会（研究のまとめについて）
2 月中旬	研究推進委員会・第8回現職全体協議会（反省・見通し）

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について ＜作成上の工夫、配慮点＞ ① 道徳教育全体計画では、学校教育目標を受け、道徳教育で児童の「生命尊重」「思いやり」「善悪の判断」「規範意識」を育むことを重点とした。その上で各教科との関連や地域や家庭との連携について明記し、担任が意識して指導できるようにした。 ② 別葉は、各学年の重点内容項目を決め、それに関連する学習内容について月別に表にすることで、一年間の見通しをもって指導できるようにした。 ＜活用上の工夫点、配慮点＞ ○ 各学年の別葉を職員室に掲示することで、担任が気付いたことを書き込んで次年度に生かせるようにしたり、他学年の指導の様子も把握できるようにし、縦のつながりを意識して指導したりできるようにする。
【視点2】質の高い多様な指導方法への取り組みについて ① お互いによさを認め合い、相手の立場に立って相手を理解することができる子どもの育成に向けて ○ 互いの考えを明確にすることができるようなネームプレートの活用と、互いの考えを知ることができるような学習形態の工夫 ○ 友達の考えのよさを認め合う振り返りの工夫 ② 課題を自分事と捉え、自分の考えをもつことができる子どもの育成に向けて ○ 自分の考えを可視化する学習カードの工夫 ○ 普段の生活と関連させた導入や終末の工夫 ③ 地域のよさを知り、相手を思いやることができる子どもの育成に向けて ○ 地域の自然や地域で活躍している人等を題材とした地域教材の開発 ○ 「道徳コーナー」を多くの児童の目に触れる場所に設け、地域教材について考えた授業の様子等を掲示することで、全校的に地域のよさに触れることができるような働きかけ
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について ① 各学年で共通したより効果的な指導に向けた「ふくしま道徳教育資料集」の資料活用についての話し合いと教材研究 ② 児童が日頃から「ふくしま道徳教育資料集」に触れ、ふるさとについて考える機会を多くするための、各学級文庫への「ふくしま道徳教育資料集」の配置と児童への働きかけ
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について ① 「児童がより多面的・多角的な見方に発展しているか」の評価について ○ 話し合いにおいて「心情メーター」等の活用により児童の考えの変化を「見える化」する工夫 ○ 振り返りの時間の十分な確保 ② 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか」の評価について ○ 「自分ならどうするか」等、自分事として考えさせる発問の工夫
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について ① 家庭との連携を生かした取組 ○ 授業参観での道徳科の授業公開 ○ 保護者向け道徳アンケートの実施やそれを活用した授業の実施 ○ 道徳教育への関心を高めるため、保護者を対象とした「モラル・エッセイ」コンテストへの応募の呼びかけ ② 地域との連携を生かした取組 ○ ゲストティーチャーの活用 ○ 地域行事等への参加を生かした道徳科の授業の実施

6 「家庭・地域との連携」について

【授業参観での道徳科の授業の実施】

保護者の道徳教育への理解と協力を得ることをねらいとして、年間4回の授業参観のうちの1回は道徳科を行うこととした。その際、保護者や地域の方にゲストティーチャーとして参加していただくなどして連携を図ることとした。

全学級が道徳の授業を公開したことにより、保護者の道徳教育への興味・関心が高まり、学校と家庭との連携につながった。また、保護者や地域の方にゲストティーチャーとして参加していただくことで、保護者や地域の方が、自分たちを支えてくれているということを児童に実感させることができた。今後は、授業のねらいを達成するためのゲストティーチャーとの事前の十分な打合せを強化する等の配慮を行ってきたい。

【道徳教育に関する保護者アンケートの実施】

道徳教育についての保護者の理解や関心を把握し、学校教育に生かすとともに、保護者の意識の変容を捉え、取組の改善へ生かす事をねらいとして保護者アンケートを実施した。道徳の重点目標を中心とした学校アンケートの項目を設定し、結果を分析し変容を捉えた。一年次の研究から同じ内容でのアンケート項目としたことで、保護者の意識や変容を見取ることができた。今後も継続して変容を把握していきたい。

【地域の特色を生かした学習とのつながりを意識した道徳教育の実施】

歌舞伎や見学学習等、各教科での地域における体験活動を意識した道徳教育を実施し児童の心に働きかけるようにした。そのため、各教科での体験活動に関連した道徳的価値となるよう年間指導計画を作成した。

3学年の総合的な学習の時間では、年間を通じて歌舞伎に取り組んだ。地元に伝わる伝統芸能を実際に体験することで、伝統を引き継ぐことや協力することの大切さを感じることができた。

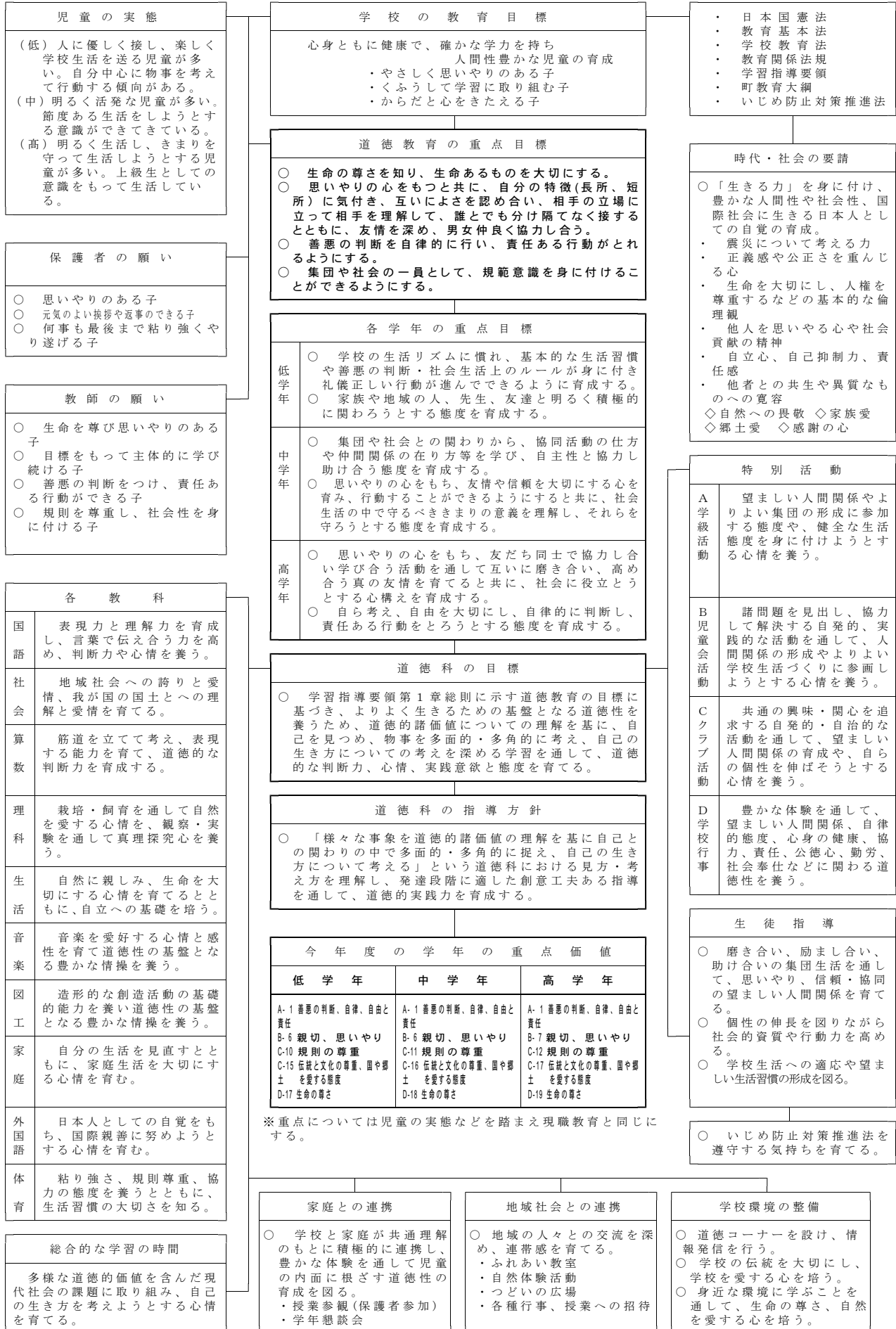


7 成果と課題

- 昨年度までの研究実践（「考え・議論する授業」「他教科・他領域との関連」）を基に、今年度は「家庭・地域との連携」を軸に研究を進めた。家庭や地域の協力により各教科等の授業や学校行事等との相互の関連を図った具体的な手立てを全教員で検証し、理解を深めることで指導の効果を高めることができた。
- 「視点1～5」に基づいた学年ブロックごとの授業研究（全教員による互見授業）を計画的に進めることで、確実な授業実践と学習指導の多様な展開について理解を深めることができた。
- ワークシートに自分の考えを書く時間を十分に確保すること、ネームプレート等により考えを可視化して話し合うことなどの言語活動に継続して取り組んだことで、児童が自分の考えを発信し、他者との交流を通して考えを深めるなど、主体的な学びの実践につながった。
- 保護者の授業参観や授業への協力（アンケートや手紙等）、地域での体験を生かした授業づくり（歌舞伎等）によって、郷土の伝統と文化を大切にしようとする態度を育むとともに、道徳教育に対する保護者や地域住民の関心の高まりが見られた。
- 階段の踊り場に学年ごとの「道徳コーナー」を設けるなど、校内環境を整備してきたことにより、学習内容に対する興味・関心や道徳的実践意欲を高めることができた。
- 保護者との連携に比べると、地域との連携についてはさらに充実させる必要がある。3学年の総合的な学習の時間における実践（歌舞伎）や職場体験学習、見学学習等での地元企業や各施設との連携等の実践を基に、計画的、発展的な指導ができるよう工夫したい。
- 別葉をさらに活用し、教育活動全体で道徳的価値を意識させた活動ができるように、様式や活用方法等について改善を図る必要がある。

道 徳 教 育 全 体 計 画

南会津町立田島小学校



5 学 年 思いやりの心をもち、友だち同士で協力し合い学び合う活動を通して互いに磨き合い、高め合う真の友情を育てると共に社会に役立とうとする心構えを育成する。

2 道徳教育推進校の実施計画書等

日常的な指導を通した実践より

<児童玄関に掲示されている道徳教育目標>



<踊り場に設置されている、ブロックごとの道徳コーナー>

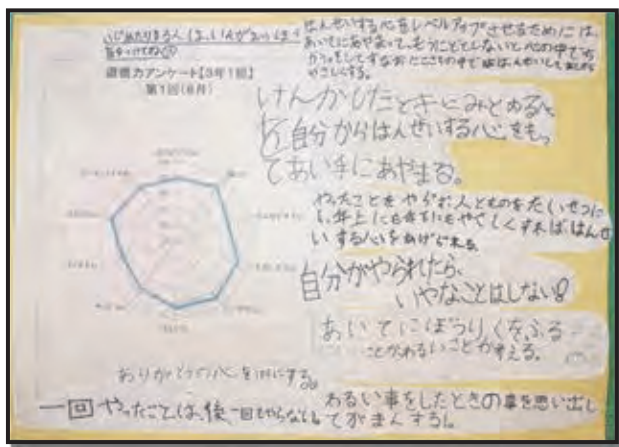
学年を越えた学び合いの場①

授業で使用したワークシートのコピーを活用した共有



学年を越えた学び合いの場②

道徳力アンケートを活用した児童による学級目標の提案



学年を越えた学び合いの場③

授業で使用した掲示物を活用した振り返り



相双地区道徳教育推進校「南相馬市立原町第三小学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	南相馬市立原町第三小学校
所 在 地	福島県南相馬市原町区上町一丁目13
校 長 名	村田 権一
教 育 目 標	すすんで学ぶ子ども よりよく生きる子ども 心と体をきたえる子ども
学級及び児童 生徒数	学級数 14 児童数 321名

2 研究テーマ

道徳科における児童の主体的な学びと深い学びを実現するための、対話的な学びに関する研究

3 研究テーマ設定の理由

本校は、「すすんで学ぶ子ども よりよく生きる子ども 心と体をきたえる子ども」を教育目標として掲げており、平成31年度（令和元年度）は「よく聞き よく考えよう」を重点目標として設定している。児童の望ましい自尊感情や人間関係を築く力を育成するために、自ら感じ、考え、対話し協働しながら自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性の育成を目指している。

本校の児童の実態は、「明るく元気」「チャレンジ精神が旺盛」などといった面をもちながら、「人間関係が希薄化」している面もある。児童が自分の考えをもち、自分の考えを表出しながら、他者と対話することにより、多面的・多角的な見方・考え方に気付き、児童自身の生き方を見つめることができると思う。児童の「考えたい」「話し合いたい」という思いを重視した対話的な学びを展開することにより、児童の主体的な学びと深い学びを実現することができると考え、本研究の主題を設定した。

4 研究計画

月 日（曜日）	主な研究内容
4月26日（金）	現職教育全体会：研究計画の確認
5月31日（金）	現職教育全体会
6月 7日（金）	先進校研究公開参加：福島大学附属小学校
7月 5日（金）	授業参観日：道徳科授業の実施（全学級）
7月12日（金）	第1回授業研究会（第3学年） 指導助言者：福島県教育庁義務教育課 藤原 謙 指導主事
8月 9日（金）	先進校視察等：「道徳授業パワーアップセミナー」 東京学芸大学
8月19日（月）	先進校視察等：「道徳科授業セミナー」 東京学芸大学附属大泉小学校
9月13日（金）	第2回授業研究会（第5学年） 指導助言者：相双教育事務所 二上 明子 指導主事
10月18日（金）	第3回授業研究会（第2学年） 指導助言者：福島県教育庁義務教育課 藤原 謙 指導主事
11月13日（水）	道徳地区別推進協議会 指導助言者：福島県教育庁義務教育課 藤原 謙 指導主事 講師：星槎大学特任講師 矢野 博明 様
12月 7日（土）	先進校視察等：「道徳授業スキルアップセミナー」 東京学芸大学 研究のまとめ

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について 〈作成上の工夫点、配慮点〉 ① 道徳教育全体計画に基づき、学校教育活動全体を通して道徳性を育成する。 ② 「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「規則の尊重」「生命の尊さ」「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」「よりよく生きる喜び」を重視し、豊かな体験活動による児童の内面に根差した道徳性の育成を図る。 ③ 学校・家庭・地域社会の連携を図り、共通理解をもって指導に当たるとともに教育環境の整備に努め、豊かな情操を育む。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 道徳教育の「要」としての役割を踏まえ、「特別の教科 道徳」における多様な指導方法や指導体制等を工夫するとともに、各教科等、家庭や地域との積極的な関連を図る。
【視点2】質の高い多様な指導方法への取組について ① 道徳的価値への方向付け、問題意識を持たせるための課題提示の工夫 ○ 教材提示の工夫（ペープサート、実物や写真の提示、視聴覚機器の活用等） ○ 児童への事前アンケートの活用 ② 登場人物への自我関与や道徳的な問題を多面的・多角的に考えるための発問、板書の工夫 ○ 登場人物の判断や心情を推測するための発問の工夫 ○ 道徳的価値を自分との関わりで考えるための発問の工夫 ○ 道徳的価値について多面的・多角的に考えたり、論議したりすることを促すための発問の工夫 ○ 児童が自らの考えを深めたり、友だちの考えを聞いて自分の考えを整理したりするための思考ツールや板書の工夫 ③ 問題場面の把握や登場人物の心情をとらえるための体験活動の工夫 ○ 動作化、役割演技などの表現活動の工夫
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について ① 年間指導計画の中に、関連教材として「ふくしま道徳教育資料集」を効果的に位置付け、積極的な活用を図る。 ② 身近な地域についての話題に関心を持ち、その地域での出来事や造詣の深い方から学ぶことを通して、自分事として考えられるような指導を工夫する。 ③ 東日本大震災当時、幼かった児童に、震災に関連した資料を使って道徳的価値を考えさせることにより、福島県民として郷土を愛する心や絆の大切さ、たくましく生きていく心を育むことができるよう、計画的に活用する。
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について ① 学習中のつぶやき、話し合いなどの児童の様子を教師が見取り、受容的な態度や言葉で認めていくことで、児童の心に寄り添った授業を目指す。 ② 道徳ノート・ワークシートの記入等から、児童が自分の思考を広げたり深めたりしているかを見取り、適宜教師からのコメントで価値付けをする。 ③ 発言が多くはない児童や考えたことを文章に表現することが得意ではない児童に対し、発言や記述ではない形で表出する姿にも着目する。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について ① 7月の授業参観で、全学級が道徳科の授業を公開した。 ② 学年通信等で道徳についての話題に触れたり、参観した授業の感想を寄せていただき、「道徳だより」として配布したりすることにより、保護者の道徳教育への関心を高めていく。 ③ ゲストティーチャー等の地域人材の活用や地域社会への参画等の体験活動を通して、地域と連携して児童の道徳性を養うための環境の整備・充実に努める。

6 「家庭・地域との連携」について

＜道徳教育への関心を高めるために、授業参観において全学級で道徳科の授業を実施＞

(1) 活動のねらい

保護者に道徳科の学習の様子を参観してもらい、道徳教育についての保護者の興味・関心を高めるとともに、道徳科の授業についての保護者の反応や感想等から、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実に生かす。

(2) 活動の概要

7月の授業参観において、全学級で道徳科の授業を実施し、感想を寄せてもらった。その一部を「道徳だより」に掲載し、家庭に配布した。

(3) 成果と課題

- 「道徳だより」で他の保護者の思いや考えを知ってもらうことで、保護者全体の道徳教育に対する意識が高まった。
- 授業について家庭で話し合う機会を設けたことで、今後、授業への参加や協力を呼びかけるための基盤づくりになった。
- 年1回の実施だったが、毎年継続していきたい。保護者だけでなく、地域の人々が参観しやすいような工夫をしていきたい。

＜地域の人材を生かした授業への取組＞

(1) 活動のねらい

地域の人材を生かし、ゲストティーチャーとして活用することにより、多様な指導方法が可能となり、児童が生き方や郷土について深く考える一助とする。

(2) 活動の概要

運動会の種目の「郷土芸能」の講師を地域の方に務めていただいた。また、6学年の道徳科の授業にもゲストティーチャーとして招き、協力を得た。

(3) 成果と課題

- 年間を通してお世話になっている方の話だったため、児童は緊張することなく、身近な大人の生き方や考え方に触れるよい機会となった。
- 授業者とゲストティーチャーが事前に打合せを行い、インタビュー形式で進行的ことで、授業者のねらいのもと、児童の体験や他教科等での学びとの関連を意識した展開が可能となった。
- 本授業では、ゲストティーチャーを授業の中心的な場面で活用したが、どの過程で、どのように活用するかについては、改善の余地がある。



7 成果と課題

- 今年度、学校全体で研究に取り組み、授業研究を柱に意見交換することで、組織的・計画的に研究を進めることができた。また、指導助言者を迎えて事後研究会を行うことで、道徳科の理解を一層深めることができた。
- 道徳科の授業改善を通して得られた授業づくりの手法が、他の教科でも生かされ、児童理解を一層深めることにつながった。
- 児童が友達と自然に相談したり、話し合ったりするようになり、安心感のある雰囲気の中で意欲的に授業に取り組むようになってきた。
- 児童が考える必然性や切実感があり、心が揺さぶられるような発問や、授業のねらいに深く関わる発問等の吟味が甘く、話し合いが深まらなかったり、多面的・多角的に考えるまでに至らなかったりすることもあった。中心発問を軸にして、その前後の発問を考えるなど、教材の持ち味を生かした発問構成が課題である。
- 「ふくしま道徳教育資料集」の活用を行ったが、内容が難しいものもあり、児童の実態やねらいに合わせた活用についてさらに検討していきたい。
- 児童にとって思考を深める手がかりとなるような構造的な板書に努めたが、まだまだ多くの可能性が考えられる。教師の意図が反映され、教師と児童が共に作っていく創造的な板書となるよう、研究を継続したい。

平成31年度 道徳教育 全体計画

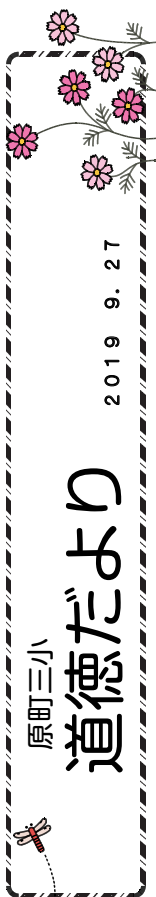


道徳教育全体計画（第6学年）

※太字は、各ブロック学年の重点を示す

学期	月	回	道徳年間計画			他の教科・外国語・諸活動との関連			
			(主題名)資料名・内容項目	ねらい	関連資料 ふくしま道徳 教育資料集	教科、総合的な学習、外国語活動 と関連の内容項目	特別活動と関連の内容 項目	生徒指導の生活目標	学校行事、連携
一 学 期	4	1	(礼儀は心のあらわれ) 心を形に B-(9) 礼儀	礼儀は心の様子をあらわす ことを知り、心のこもった礼儀 を大切にして、時と場に応じ 礼儀になつた生活をしよう とする心情を育てる。		家庭 「時間使い方を工夫しよう」 C 勤労、公共の精神	学活 「最上級生として」 (善悪の判断、自律、自 由と責任)	生徒指導 「生活のきまりを 守ろう」	入学式、始業式 身体測定 方部児童会 交通教室 授業参観 1年生を迎える会
		2	(自分らしさを生かす) あこがれのパティシエ A-(4) 個性の伸長	自分の個性や長所を知り、そ れを積極的に伸ばして将来 に生かしていこうとする心情 を育てる。			児童会 「一年生を迎える会」 (愛校心)		
		3	(みんなに奉仕する心) うちら「ネコの手」ボランティア C-(14) 勤労、公共の精神	誰に対しても思いやりの心 を持ち、いま自分のできる精 いっぱいのことをしようとする 心情を育てる。					
	5	4	(家族の一員として) おばあちゃんのさかしもの C-(15) 家族愛、家庭生活の充実	祖父母や父母を敬愛し、思 いやりを持って行動しようと する態度を育てる。		理科 「動物のからだのはたらき」 D 自然愛護	学活 「運動会に向けて」 (善悪の判断、自律、自 由と責任)	生徒指導 「進んで体を きたえよう」	避難訓練 運動会練習 運動会
		5	(郷土を愛する) 白神山地 C-(17) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	郷土の文化や伝統を育てた 先人の努力を知り、郷土のよ さを大切にして、郷土を愛す る心情を育てる。					
		6	(地球を救う) 愛華さんからのメッセージ D-(20) 自然愛護	自然と人間生活の関わりを 理解し、自然を大切にしよう とする態度を養う。					
	6	7	(人への思いやり) 車いすでの経験から B-(17) 親切、思いやり	誰に対しても思いやりの心 を持ち、いま自分のできる精 いっぱいのことをしようとする 心情を育てる。			学活 「礼儀正しく」 (礼儀)	生徒指導 「身の回りを 清潔にしよう」	家庭訪問 防犯避難訓練 体力テスト
		8	(平和と国際親善のために) 白旗の少女 C-(18) 国際理解、国際親善	世界の人々と共存しているこ とを理解し、国際親善に積極 的に努めようとする心情を育 てる。					
		9	(尊敬感謝の心) 土石流の中で救われた命 B-(8) 感謝	日々の生活が、家族や過去 からの多くの人々の支え合い や助け合いで成り立っている ことに感謝し、それに応えよ うとする心情を育てる。			学活 「放射線から身を守る」 (生命尊重)		
		10	(友達と理解し合う) ばかちゃん！ B-(10) 友情、信頼	互いに信頼し、学び合って、 真の友情を築いていこうとす る態度を育てる。					
	7	11	(権利と義務) ピアノの音が C-(12) 規則の尊重	権利と義務の関連を考え、相 手の権利を尊重するとともに自 分の権利を正しく主張し、併せ て、自分に課せられた義務を果 たそうとする態度を養う。				生徒指導 「規則正しい 生活を送ろう」	授業参観 環境美化活動 第1学期終業式
		12	(生命の尊重) 命の重さはみな同じ D-(19) 命の尊さ	「甲斐さん」の気持ちや活動に ついて考えることを通して、命は かけがえないものであることを 知り、動物の命を大切にしよう とする心情を育てる。			学活 「夏休みの計画」 (節度ある生活態度)		
二 学 期	8	13	(世界の人々のために) エンザロ村のかまど C-(18) 国際理解、国際親善	日本人としての自覚や誇り をもち、進んで他国の人々と つながり、国際親善に進んで 努めようとする態度を養う。			学活 「今日から2学期」 (節度ある生活態度)	生徒指導 「けじめのある 生活しよう」	第2学期始業式 身体測定 水泳記録会 三小祭り 交通教室
		14	(自律的な生活) 修学旅行の夜 A-(1) 善悪の判断、自律、自由と 責任	自由の大切さを理解し、自他 の自由を尊重するとともに、 責任ある行動について自律 的に判断する力を育てる。			学活 「性の被害」 (友情、信頼)		
	9	15	(公徳を守る心) 空きさんのゆくえ C-(12) 規則の尊重	社会の一員としての自覚を 持って公徳を守り、進んでよ りよい社会を作ろうとする意 欲を高める。	資料集IP14 外国からの メッセージ				
		16	(自分がめざすところまで) 心をつなぐ音色 A-(5) 希望と勇気、努力と強い意 志	目標を立て、希望や夢に向 かって、あきらめずに努力し ようとする心情を育てる。					
	10	17	(自分のことをしっかりと) お母さん、お願いね A-(3) 節度、節制	生活習慣の大切さを知り、自 分の生活を見直し、節度を守 り、節制に心がける態度を養 う。			学活 「発表会をしよう」 (友情、信頼)	生徒指導 「ねばり強く最後まで がんばろう」	鑑賞教室 区音楽祭壮行会 区音楽祭 マラソン大会 見学学習 修学旅行
		18	(男女の友情と協力) 言葉のおくりもの B-(10) 友情、信頼	異性について理解し、互いに 信頼し学び合って友情を深 め、よりよい人間関係を築い ていこうとする態度を育て る。					
		19	(生きることのすばらしさ) お母さんへの手紙 D-(19) 生命の尊さ	生命のかけがえなさを自覚する とともに、人間の誕生の喜びや死の重さ について知り、よりよく生きようとする心 情を育てる。					
		20	(明るく生きる) 手品師 A-(2) 正直、誠実	どのような状況にあっても、 常に誠実に行動し、明るい生 活をしようとする心情を育て る。			学活 「園みがき教室」		

	11	21	(社会正義の心) 田中正造 C-(13) 公正、公平、社会正義	自分の損得にとらわれることなく、誰に対しても公正公平な態度で、社会正義の実現に努めようとする心情を育てる。		学活 「地域に伝わる料理」 (郷土愛) 学活 「冬休みの計画」 (節度ある生活態度)	生徒指導 「進んで本を読み落ち 着いて勉強しよう」	まなびっ子発表会 美化活動 竹馬大会 教育相談
		22	(よりよい校風) せんばいの心を受けついで C-(16) よりよい学校生活、集団生活の充実	最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着を持ち、進んで立派な学校をつくろうとする態度を養う。	資料集Ⅱ P14 ぼくたちの学校			
		23	(世界に平和のために) 義足の聖火ランナー D-(22) よりよく生きる喜び	人間には弱さと、それを乗り越えようとする強さや気高さがあることを理解し、人間として生きる喜びを感じ、よりよく生きようとする心情を育てる。				
	12	24	(日本人として) 新しい日本に C-(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	国や郷土の発展に尽くした先人の努力を知り、日本人としての自覚を持って伝統と文化を大切にし、受け継いでいこうとする態度を育てる。	国語 「日本で使う文字」 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度 「天地の文」 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度		生徒指導 「寒い日の健康安全に 気をつけよう」	避難訓練 個別懇談 環境美化活動 第2学期終業式
		25	(私たちを包み込む大いなるもの) 夜空—光の旅 D-(21) 感動、畏敬の念	人間の力を超えた大いなるものに気づき、感動する心情を育てる。	音楽 「滝廉太郎の歌曲」 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度			
		26	(過ちを許す) 銀のしょく台 B-(11) 相互理解、寛容	謙虚な心を持ち、広い心で人の気持ちや立場を重んじ、相手の立場に立って考えようとする心情を育てる。	家庭 「まかせてね今日の食事」 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度			
三 学 期	1	27	(自然への関心) タマゾン川 D-(20) 自然愛護	自然環境に関わる課題について理解し、人と動植物との望ましい関わり方を考え、自ら自然環境を大切にしていこうとする心情を育てる。		学活 「新年を迎えて」 (勤勉努力) 学活 「思い出づくりの計画」 (信頼友情・ 男女の協力) 学活 「思い出づくりをしよう」 (信頼友情・ 男女の協力)	生徒指導 「今年の目標を立て、 礼儀正しい生活をしよう」	第3学期始業式 市学力テスト 内部被ばく検診
		28	(親切の温かさ) 心に通じた「どうぞ」のひとつ B-(7) 親切、思いやり	相手の立場に立って思いやりの心を持ち、親切にしようとする心情を育てる。				
		29	(率直な反省) 「すんまへん」でいい A-(3) 節度、節制	日常生活をふり振り返り、自ら節度を守り節制に心がけようとする態度を養う。				
	2	30	(生命の尊重) 東京大空襲の中で D-(19) 生命の尊さ	生きとし生けるものを慈しみ、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を高める。	国語 「海の命」 A 希望と勇氣、努力と強い意志 D 命の尊さ D 感動、畏敬の念		生徒指導 「寒さに負けず 元気に過ごそう」	大なわ大会 なわとび記録会 入学説明会 思春期講座 授業参観
		31	(努力の尊さ) 夢 A-(5) 希望と勇氣、努力と強い意志	より高い目標に向かって、くじけないで努力しようとする態度を養う。				
		32	(気高い心) 青の洞門 D-(21) 感動、畏敬の念	崇高なものに感動する心や、人間の力を超えた出来事に対する畏敬の念を持つ心を育てる。				
		33	(人々のために尽くす) 小さな連絡船「ひまわり」 C-(16) よりよい学校生活、集団生活の充実	身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たそうとする心情を育てる。				
	3	34	(世のためになる仕事) 桜守の話 C-(14) 勤労、公共の精神	働くことの意義を理解し、社会のために役立とうとする態度を養う	資料集Ⅰ P30 「までい」の牛		生徒指導 「1年間のまとめを しっかりしよう」	6年生を送る会 修・卒業式練習 修・卒業式
		35	(新しいものを生み出す) まんがに命を A-(6) 真理の探究	自己をより創造的に発展させ、進んで新しいものを生み出そうとする考えや意欲を育てる。	家庭 「あなたは家庭や地域の宝物」 C 勤労、公共の精神			



原町三小

道徳だより

2019 9. 27

1 学期末の授業参観では、全校級「道徳」の授業を参観いただきました。保護者の皆様から、感想を多数よせていただき、ありがとうございます。以下、感想の一部をご紹介します。



普段は何気なく通り過ぎていたことを自分に置き換えてみたり、お友達のことを聞いたり、言葉で伝え合ったりすることの大切さを参観させて頂いて改めて感じました。色々な場面や、お話に出会った時には、家でも考えや思いを交換しあいたいと思います。

1 年保護者

1 年生らしく、とても元気があって、積極的に授業に取り組む姿がとても良かったと思います。何より子ども達が楽しそうで、見ている私も楽しい授業でした。

1 年保護者

今回の題材は共感できる部分があり、普段の生活でも、場面は違っても"わざとじゃないけどこの後どうするの?" ということは、多々あるので、子ども達にとって考えるよい機会だったと思います。今後、このような場面になったとき、相手のことを考え、行動ができるようになるといいなと思います。授業は、自分の意見をみんなに伝えることも大事ですが、まわりのお友達の意見も聞いて、いろいろな考えがあることを知って、考えを広めていってもらえたらいいと思います。

2 年保護者

わがままな大男のお話は、以前読み聞かせたことがあり、そのときに色々と親子で話し合ったり先生と話し合うことで、物語をより理解しているように見えました。道徳は生きていくうえでとても大切だと思っていますので、これからも今回のように学ぶ機会がたくさんあったらいいと思います。

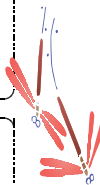
2 年保護者

人を思いやる気持ちや、道徳は、とても大切な授業だと思いました。人のために、今自分が何ができるのかを自ら考え行動することの大切さ、相手を気遣うことの大切さなど、自分の考えを発表したり、お友達の考えを聞いてまた改めて考えることのできた授業だったのではないかと思います。

3 年保護者

授業を通して、それぞれのお子さんが他人に優しくする、手助けするにはどんなことをすればよいか考え、それを自分の言葉で発表できていて、とても良かったと思います。また、皆答えがかわっていても、手を挙げ発言しようとする姿勢がとてもすばらしいと思いました。

3 年保護者



家族の助け合い（お母さんの請求書）という話の内容を、娘が大変興味深く聞いている様子でした。家でもその請求書についての感想を、積極的に話してくれ、請求書を作った母の心情とそれを見た子どもの涙について、自分の考えと私たち両親の考えをまとめていました。何より人の気持ちが理解できるようになってくれたらいいと思います、今回の授業は大変良かったと思いました。

4 年保護者

自分の考えや意見をはっきりと言える子供もいれば、ちゃんと考えがあっても、みんなの前で言葉にして表すことが難しい子供もいます。考えを用紙に書き、まとめることはみんなできていたようで、先生はそういう子供にも目を向けてくださり、意見を吸い上げてくれました。クラスみんなで考えて、人の心を大切に思う。とてもよい授業でした。今までも、これからますます必要な授業だと思いました。

5 年保護者

子ども達同士で意見、考えを発表し、次に発表する生徒を指名する進め方が新鮮でした。父兄が見守るなかで、恥ずかしさや緊張もあったとは思いますが、今後生徒同士で自由に意見交換したり、互いに異なる意見や考えにも興味を持って質問したり、そこから理解を深められるような時間を設けてほしいなと思います。

6 年保護者

人それぞれ不得意なものはある。その不得意が友人のおかげで克服できたり達成できたりする。家で今回の道徳を振り返った。周りの人のおかげでできるようなった喜びと同じ時に、今度は自分が相手のためにチカラになりたいと、改めて相手を想う気持ちの大切さを学べた一時間だったと思います。

4 年保護者

道徳の物語が日常生活で良くありがちな事だったため、子ども達の心に響いているように見えました。また、クラスの友達を当てるゲームの時は、皆が見違えるようにキラキラした表情になり、自ら手を挙げ発表していても良い授業だったと思います。自分の努力しているところや友達の努力しているところを知り、5、6年の大切な時期の絆につなぐれたらと思います。

5 年保護者

「約束を守るべきか」「約束を破って自分のチャンスを優先するべきか」子ども達の意見にどれもなるほどと思うながら聞いていました。『異なる意見があっても当然のこと。他の意見にも耳が傾けられる。自分の考えをきちんと伝える。もしまちがえた選択をしても、反省や後悔しながら学び成長する。』このようないきさつが少なくないまま大人になっている人が多くなっているような気がします。今回のような授業をとりいれてほしいです。

6 年保護者



☆ 道徳は心の教育。算数のように一つの答えはありません。友達や考えにふれ、いろいろな考え方に気づくことも大切なことです。また、授業を通して、ご家庭でも話題にしたいですし、ありがとうございます。今後とも職員一同、よりよい道徳教育について研修を深めていきたいと思っています。

いわき地区道徳教育推進校「いわき市立湯本第二中学校」実施報告書

1 学校紹介



学 校 名	いわき市立湯本第二中学校
所 在 地	いわき市常磐湯本町上浅貝 103番地の2
校 長 名	矢吹 教幸
教 育 目 標	人を愛し、夢に向かって 努力する生徒
学級及び児童 生徒数	学級数 5 生徒数 124名

2 研究テーマ

自分らしい生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成
～人間としての生き方について、多面的・多角的に考えるための指導方法の工夫～

3 研究テーマ設定の理由

本校の学校教育目標は「人を愛し、夢に向かって努力する生徒」であり、これまでもキャリア教育を学校経営の柱とし、夢や目標を持ち、その実現のために努力できる生徒の育成に努めてきた。今年度、いわき市教育委員会より「いわき・わくわくしごと塾事業」の指定を受け、さまざまな職業人と接することで、自分の役割や適性を考える機会を得た。そこで、キャリア教育を基盤とした道徳教育を充実させることで、自分らしい生き方を考え、集団や社会との関わりの中で、他者と共によりよく生きようとする生徒を育成したいと考え、研究テーマを設定した。

また、「考え、議論する道徳」を実践するため、自己を見つめ自分自身の問題として考える場面と、対話を通してものごとを多面的・多角的に考える場面を設定した指導方法を工夫する。

4 研究計画

月日（曜日）	主 な 研 究 内 容
4月 1日（月）	○職員会議（道徳教育推進校としての今後の方向性について）
4月 19日（金）	○打合せ（校長の指導方針の提示）
5月 20日（月）	○職員会議（研究組織、研究の進め方の確認）
5月下旬	○研究テーマの設定
6月 3日（月）	○校内研修（いわき教育事務所 甲高指導主事）
6月 5日（水）	○県道徳教育推進協議会（校長）
6月下旬	○市中教研主題研修会（授業公開時の題材決定）
6月 26日（水）	○事前アンケートの実施と分析、実施計画書の作成
6月 27日（木）	○福島大学附属中学校2年授業公開（佐々木、菊池）
7月 10日（水）	○福島大学附属中学校1年授業公開（面川）
7月 25日（木）	○提案授業参観（宇都宮大学 和井内良樹先生）
9月 2日（月）	○地区教育研究協議会（いわき教育事務所 甲高指導主事）
9月 27日（金）	○事前授業研究会（2年1組 佐々木、宇都宮大学 和井内先生）
10月 7日（月）	○事前授業研究会（3年2組 面川、宇都宮大学 和井内先生）
10月 9日（水）	○事前授業研究会（3年1組 菊池、宇都宮大学 和井内先生）
11月 11日（月）	○中教研県中・県南大会（玉川村立泉中 面川）
11月下旬	○授業公開（1年1組 面川、2年2組 佐々木、3年2組 菊池）
12月中旬	○教育講演会（聖徳大学 吉本恒幸先生）
	○事後アンケートの実施と分析
	○実施報告書の作成

5 研究推進にあたって

【視点1】道徳教育全体計画及び別葉の作成上及び活用上の工夫点、配慮点について 〈作成上の工夫点、配慮点〉 ○ 生徒の実態、教職員や保護者の願い、学校教育目標との関連を基に、道徳科を中心に学校教育全体を通して道徳性を養うことができるよう作成した。 ○ 内容項目の「C 主として集団や社会との関わりに関すること」を主な重点事項とし、キャリア教育を基盤とした道徳教育を進めるように作成した。 ○ 別葉については、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等との関連の他に、キャリア教育との関連の項目を設定した。 〈活用上の工夫点、配慮点〉 ○ 別葉を職員室に掲示し、実施した項目をマーカーでチェックし、年間35時間の授業と22の内容項目の確実な実施を図る。また、実施しての成果や課題を赤ペンで書き込み、次年度へ生かせるようにする。
【視点2】質の高い多様な指導方法への取組について ○ 研究テーマにせまるために、次の3つの項目について重点的に取り組む。 ① 異なる視点や立場に立って考えさせるための中心発問の工夫 ② 自分の考えを整理し、自己を見つめるための書く活動の工夫 ③ 多面的・多角的に考えさせるための話し合いの工夫 ○ 答えが一つでない道徳的な課題に対して、生徒の様々な意見を引き出せる発問を工夫し、生徒が自分自身の問題として考えるためのワークシートを毎時間活用して記録を累積する。また、多面的・多角的に考えさせ、話し合わせるために、心情メーター等の可視化するツールを活用する。
【視点3】「ふくしま道徳教育資料集」の活用について ○ 震災から8年が経過し、当時幼かった生徒達の記憶も薄れつつあるが、2020年に行われる東京オリンピックが復興五輪と位置づけられ、聖火リレーのルートが決まるなど、震災に思いを寄せる機会が増えている。また、本校には双葉地区から区域外就学で在籍している生徒も数名いる。 ○ 震災を体験した福島県民・いわき市民として、今後、自分に何ができるか、どう生かしていくかを、「ふくしま道徳教育資料集」を活用して考えさせる。特に、郷土愛、絆、感謝の心について考えを深めさせる。 ○ 年間指導計画に2時間程度位置づけると共に、「いわき・わくわくしごと塾」を活用した外部講師の話から、地元企業の震災時の苦労や挑戦を理解させる。
【視点4】一人一人を受け止めて認め、励ます評価について ○ 「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうか」「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうか」の評価の視点について、授業での話し合いの状況、ワークシートから読み取れる判断や心情の変化、毎日提出する生活ノート等から見取り、励ましのコメントを記載する。 ○ ワークシートは道徳ファイルに綴じておき、自分自身の振り返りに活用する。 ○ 毎時間のワークシート、話し合い、発言、6月と11月に実施するアンケート等から生徒一人一人の変容をとらえ、学年末に通知票に記載する。
【視点5】家庭・地域との連携を生かした取組について ○ 道徳科の授業の様子や学校の取組を、ホームページや学年・学校だよりで発信することで、家庭でも話題にしてもらうようにする。 ○ 道徳科の事前授業研究会や授業公開を、保護者や地域住民、同地区の小中学校、市中教研道徳部理事等に周知し、参観してもらうようにする。 ○ 「いわき・わくわくしごと塾」を活用し、地元の様々な職業の方々を招いてお話を聞く機会を設けるとともに、全学年が地域企業や福祉施設に出向いて体験する機会を設ける。 ○ 常磐公民館と連携して、キャリア教育を基盤とした道徳教育を推進する。また、弁護士を招いての「いじめ防止出前授業」を実施する。

6 「家庭・地域との連携」について

(1) 道徳科への関心を高める工夫

①土曜授業における全校一斉道徳科授業参観の実施

6月、9月土曜授業日の3校時目に道徳科を位置づけ、保護者に授業を公開した。

②ホームページや学年・学校だよりで発信

道徳科の授業の様子や、生徒が学んだことについて発信した。

③保護者アンケートの実施

7月と11月に実施し、結果を分析し変容を捉えた。

(2) 道徳科の事前授業研究会の公開

保護者や地域住民、同地区の小中学校、市中教研道徳部理事等に周知し、参観してもらった。事後研究会では、道徳科の授業について様々な意見や感想等が出された。

(3) 「いわき・わくわくしごと塾」の実施

常磐公民館と連携し、キャリア教育を基盤とした道徳教育を行った。

地域の方から仕事について学ぶ機会を設け、一人の講師から90分の講義形式を3回、複数の講師から話を聞くワークショップ形式を1回行った。学区内にある小学校6年生も2回参加した。一方的に話を聞くだけでなく、感想の交流、質疑応答の時間も設けた。生徒からは地域の活性化や自分の生き方について考えたことなどが発表された。この他にも企業訪問、地域学習、高齢者体験、手話講座等も行った。



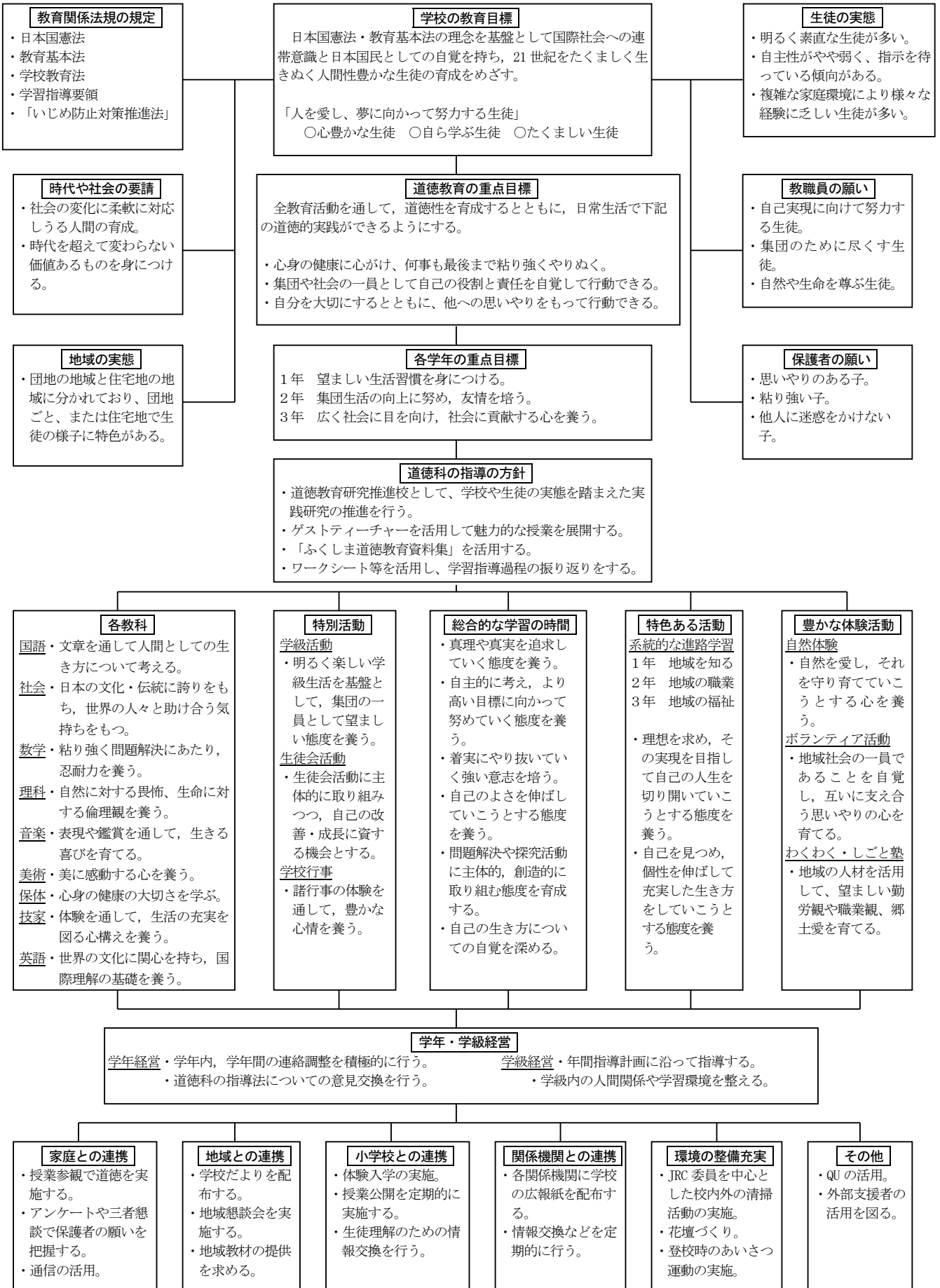
(4) 「いじめ防止出前講座」の実施

いわき市の弁護士を5名招き、各クラス一人の弁護士がいじめ防止の講義を行った。弁護士の視点からの話により、今まで考えていなかったところに考えが及び、本校の道徳教育推進校研究テーマ「自分らしい生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする」について深く考えていた様子がうかがえた。

7 成果と課題（○成果 ●課題）

- 本校の教育目標「人を愛し、夢に向かって努力する生徒」の育成をめざして道徳教育の推進を行ってきた。人は一人では生きてはいけず、他者との共存の上に社会が成り立っていることや、仕事にやりがいを見いだしていくことを様々な職業講話、職業体験で学ぶことができた。主に総合的な学習の時間や道徳科の授業で行ってきたが、各教科の授業でも、仕事に責任を持つことや周りとの協力すること、社会に貢献していくことの大切さについて生徒からの発言が見られた。
- 常磐公民館との連携により、地域の人材を十分に活用できた。真摯に仕事に向き合う姿や仕事に対する情熱を目の当たりにした生徒たちは、自分の生き方について深く考えることができた。
- 研究テーマの「人間としての生き方について、多面的・多角的に考えるための指導方法の工夫」を道徳科の授業を中心に組み組めた。トリオ学習という学習形態を用いて、一人一人が発言し、多面的・多角的に考えることができた。
- アンケートを通して、家庭と学校での生徒の捉え方に違いがあることがわかった。めざす生徒の姿を家庭と学校で共有していかなければならない。
- 意図的でより効果的な道徳教育を実現するために、道徳教育全体計画の別業において、行事や関連する授業内容との関わりを吟味し活用する必要がある。

令和元年度 道徳教育全体計画



道徳教育別葉（道徳科と教科等との関連）

いわき市立湯本第二中学校 第3学年

月	主題	内容項目	教科	特別活動	総合・キャリア教育	学校行事	時 数
4	責任を全うする 友情の尊さ 自制する心	A 自主、自律、自由と責任 B 友情、信頼 A 節度、節制	社会「二度の世界大戦と日本」C-11, 17, 18 美術「ゲルニカは語る」C-18 家庭「家族・家庭と地域」C-14 英語「Countries around the World」C-18	対面式 生徒会総会 学活「明るい学級づくり」C-15		入学式 始業式 避難訓練 授業参観 各種検診	3
5	平和と共存 法やきまりの意義 かけがいのない命	C 国際理解、国際貢献 C 遵法精神、公德心 D 生命の尊さ	社会「二度の世界大戦と日本」C-11, 17, 18 英語「日本文化紹介」C-17, 18		しごと塾 職業講話 2 回	修学旅行 遠足 家庭訪問 各種検診 市陸上大会	3
6	互いの個性や立場の尊重 地域社会の一員として 真理を求め続ける	B 相互理解、寛容 C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 A 真理の探究、創造	社会「現代の日本と世界」C-17, 18 英語「Fair Trade Event」C-10, 11, 18	選手社行会 専門委員会 学活「学級生活を見直そう」C-15	しごと塾 職業講話 しごと塾 手話講座	市中体連 防犯教室 交通教室 親子奉仕作業 期末テスト	3
7	地球と共に生きる よりよい社会の実現	D 自然愛護 C 社会参画、公共の精神	社会「現代社会と私たちの生活」C-11, 12, 14 英語「修学旅行」C-15, 17		いじめ防止出前講座 しごと塾 高齢者体験	授業参観 薬物乱用防止教室	2
8	命のつながり	D 生命の尊さ				始業式 二者面談	1
9	互いのよさをみとめあう 日本人のよさ いじめを許さない心 自然との共存	B 友情、信頼 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 C 公正、公平、社会正義 D 自然愛護	社会「現代社会と私たちの生活」C-11, 12, 14	専門委員会 生徒会役員選挙	福祉体験学習	市駅伝 中間テスト 情報モラル講座	4
10	思いやりの心 自分らしく生きる よりよい社会と法	B 思いやり、感謝 A 向上心、個性の伸長 C 遵法精神、公德心	音楽「合唱コンクール」C-15 国語「いにしえの心と語らう」C-17 社会「個人の尊重と日本国憲法」C-10, 12	学活「文化祭を盛り上げよう」C-15		文化祭 スポーツ大会 親子奉仕作業	3
11	偏見や差別をなくす 気高い生き方 勤労を通して社会に奉仕する 世界平和と人類の発展	C 公正、公平、社会正義 D よりよく生きる喜び C 勤労 C 国際理解、国際貢献	社会「現代の民主政治と社会」C-10, 11, 12	専門委員会	しごと塾 ワークショップ	期末テスト	4
12	目標に向かう強い意志 家族の絆 自他の生命の尊重	A 希望と勇気、克己と強い意志 C 家族愛、家庭生活の充実 D 生命の尊さ	国語「先人の文字に学ぶ」C-16, 17 社会「私たちの暮らしと経済」C-10, 12			避難訓練 三者面談 思春期講座 終業式	3
1	社会連帯の精神 人間としての誇り 集団の一員として	C 社会参画、公共の精神 D よりよく生きる喜び C よりよい学校生活、集団生活の充実	社会「私たちの暮らしと経済」C-10, 12			始業式	3
2	自然と自己との関わり 礼儀の意義 社会に貢献する 郷土の先人への尊敬と感謝	D 感動、畏敬の念 B 礼儀 C 社会参画、公共の精神 C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	音楽「能羽衣」「文楽」C-13 社会「地球社会と私たち」C-10, 11, 18	生徒会役員選挙 専門委員会	マナー講座	学年末テスト	4
3	日本の伝統・文化の継承 自然への畏敬	C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 D 感動、畏敬の念				卒業式 修了式	2
合 計							35

C主として集団や社会との関わりに関する関連教材名

- C-1 0 遵法精神・公德心
- C-1 1 公正・公平・社会正義
- C-1 2 社会参画・公共の精神
- C-1 3 勤労
- C-1 4 家族愛・家庭生活の充実
- C-1 5 よりよい学校生活・集団生活の充実
- C-1 6 郷土の伝統と文化の尊重・郷土を愛する態度
- C-1 7 我が国の伝統と文化の尊重・国を愛する態度
- C-1 8 国際理解・国際貢献

2

道徳教育推進校の
実施計画書等

道徳教育研究推進のあしあと

いわき市立湯本第二中学校

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成



本校では、キャリア教育を基盤とした道徳教育の推進に取り組んできた。生徒は、道徳科を要としながら各教科や特別活動、総合的な学習の時間、そして、いわき市教育委員会より指定を受けた「いわき・わくわくしごと塾事業」の活動を通して道徳性を養ってきた。

「いわき・わくわくしごと塾事業」の活動により、生徒は様々な職業の方々と対話をしたり、その仕事を体験したりする機会を得た。これは、生徒が体験的な学習を通して道徳的諸価値に対する他者の見方や考え方に会い、物事をより多面的・多角的に考えることができるようになるという効果をもたらした。

また、トリオ学習を取り入れた「考え、議論する道徳科の授業」を計画的・継続的に実施することにより、生徒は学びを深め、さらに物事を多面的・多角的に考えることができるようになった。

この度の研究推進により、キャリア教育と道徳教育には補完的な関係があり、両教育を関連づけて実施していくことがそれぞれの教育の充実につながるということが経験則として明らかになった。

長瀬小学校第1学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月18日（月） 第5校時
授業者：猪苗代町立長瀬小学校 教諭 大桃美紀

授業テーマ	主人公の心の揺れについて共感的に話し合うことを通して、約束やきまりを守ることの大切さを自分ごととして考えることができる授業
-------	---

1 主題名 たいせつなやくそく C-(12) 規則の尊重

2 教材名 「みっちんの やくそく」（出典：「みんなのどうとく 1ねん」学研）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関するものである。社会の法やきまりのもつ意義について考えることを通して、法やきまりは個人や集団が安全にかつ安心して生活できるようにするためであることを理解し、それを進んで守り、自他の権利を尊重することとともに義務を果たすという精神をしっかりと身につけていく必要がある。また、本校の指導の重点内容項目になっている。

（2）児童の実態について（子ども観）

本学級は、11名の少人数の学級である。明るく、元気に生活することができるが、周囲への配慮を欠いて自分勝手な行動をとることも少なくない。約束やきまりは何のためにあるのかを考え、行動する意識も十分ではない。また、スマートフォンやゲーム機などの情報機器が身近にあるものの、約束の意義を理解しないまま使用している実態も見られる。具体的な場面を通して、約束やきまりを守ることがなぜ大切なのかをじっくり考えさせ、日常生活においても、しっかり守ろうとする意欲や心情を育てる指導が必要である。

（3）教材及び指導について（教材観および指導観）

本教材は、上手に電話に出たことを褒められた主人公が、お母さんとの約束を思い出しながらも使いたいという欲求に負けそうになり、目の前にあるスマートフォンに手を伸ばすという内容である。約束を守ろうとする意識と使いたいという欲求の間で葛藤する主人公の姿は、児童も経験したであろう場面であり、主人公の心情を共感的にとらえられるものと考えられる。心の弱さで揺れ動く心情を浮き彫りにすることで、児童が自己を見つめることにつながり、さらに自分ごととして約束やきまりを守ろうと意識していくことにつながるものと考えられる。この学習をきっかけに、日常生活の中で情報機器を扱う際にも、約束やきまりを守ろうとする心情を育てていきたい。

4 本時のねらい

情報機器を使うときに大切にしたいことを考えることを通して、約束やきまりをしっかり守ろうとする心情を育てる。

5 実際の板書



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1 学習課題を確認する。 (1) アンケートの結果を示す。 □おうちの方のスマートフォンを使うことがある。 □スマートフォンを使うときの約束がある。 (2) 本時の話し合いの視点を示す。 ○「みっちゃん」はどこか気になる行動がありますよ。みっちゃんにどうすればよかったかお話ししてあげましょう。 みっちゃんは、どうすればよかったかな。	10	○ 事前にとった情報機器の使用についてのアンケート結果を示すことで、本時の価値へ意識を向けさせる。また、終末での自己の課題を考えることにつなげる。 ○ 問題意識をもちながら教材文を読むことができるように、「気になる行動」という言葉で読みの視点を示しておく。
展開	2 教材文を読み、話し合う。 (1) 主人公の行動の問題点を明らかにする。 ○ 気になったことは何ですか。 ・ スマートフォンを触ろうとしたこと。 ・ お母さんとの約束を破ろうとしたこと。 (2) 主人公の気持ちの揺れについて考える。 ○ 「どうしよう」とまよっているみっちゃんは、何を考えているのかな。 やっぱりさわっちゃだめかな。 ・ お母さんとの約束は守らなくちゃ。 ・ 勝手に触ると怒られるかもしれない。 ・ 困ったことになるかも。 ちょっとだけならいいかな。 ・ 少しくらいいいかな。 ・ 楽しそう。 ・ 使いたい。 ・ 上手に電話でお話できるもん。 ○ 「どきっとしてうごけなくなった」のはどうして。 ・ 約束を破ろうとしていたから。 3 道徳的価値にせまる。 ◎みっちゃんは、どうすればよかったのかな。みんなは、みっちゃんにどんなことを言ってあげますか。 ・ お母さんと一緒に使わないといけないよ。 ・ 約束を守って使ったほうがいいよ。 ・ 弱い心に負けちゃだめだよ。	25	○ 主人公の行動で何が気になったのかを全体で確認し、話し合いの道筋をつけられるようにする。 ○ スマートフォンに手を伸ばす場面で、主人公の心の言葉に合わせて動作化させ、その時の思いを引き出す。 ○ 二つの心を対比するように板書し、心の揺れが可視化できるようにする。 ○ 約束を破ろうとしているという自覚があったことを押さえるとともに、どきっとして動けなくなった主人公の心の弱さに思いを巡らすことができるよう、話し合いをコーディネートする。 ※ 動作化を通して、主人公が手を伸ばすか約束を守るか迷っている心の揺れを、共感的に理解できたか。(行動・発言) ○ 主人公に言ってあげたい言葉をワークシートに書くことで自分の考えを整理させた後、それぞれの考えを共有することができるよう板書していき、より深い価値の理解につなげられるようにする。
終末	4 学習の振り返りをする。 ○ 今日の学習をして、みなさんはどんなことに気を付けたいと思いましたか。 ・ 約束を守って使った方がいい。 ・ 使いたくても、我慢して約束を守りたい。 ○ 今日の学習で心に残ったことをワークシートに書きましょう。	10	○ アンケート結果を再び提示することで、児童自身が約束やきまりの意味の捉え直しができるようにする。 ○ ワークシートで自己評価をさせるとともに、授業の感想を書かせ、道徳的価値の深まりを見取ることができるようにする。 ※ 主人公との関わりを通して、約束を守る大切さを自分ごととしてとらえることができるか。(発言・記述)

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

(1)「教材提示の工夫」について

- アンケートをとり、本時の学習内容「情報機器を扱う際の約束」と重なる2つの質問項目の結果を導入時に児童に示した。本時の限定された場面と児童の実態を結び付けたことで、学習への興味関心を高めることができた。また、1年生の児童でもアンケートの結果を理解できるよう、数値をシールの数で示し、視覚的に容易にとらえられるようにした。約束がある人が少ないことを実感するとともに、問題意識をもって学習に臨むことができた。
- 導入で示した結果を終末で再度提示したことで、児童は「おうちの人と約束を決めたい。」「約束を守って使いたい。」といった、自分ごととして価値の捉え直しをすることができた。
- アンケートの結果は、授業後の児童の変容を見るなどの評価につながる活用も図っていききたい。

(2)「発問・コーディネート」の工夫について

- スマートフォンに手を伸ばす場面で、「みっちゃんになあれ。」という言葉かけで動作化のきっかけを与え、主人公になりきって心情を考えさせた。疑似体験的な活動（動作化）を取り入れたことで、自分自身の経験も想起しながら共感的に主人公の思いを考え、活発な話し合いにつなげることができた。
- 「みっちゃんにどんなことを言ってあげますか。」という発問で、児童は主人公の葛藤を理解した上での言葉かけを考えていくことができた。約束を守ることにについて、多面的・多角的に考えていくことができた。
- 話し合いでは、なかなか発言できない児童も見られた。ペアなどの学習形態の工夫を取り入れていきたい。



(3)「板書構造やノートの工夫」について

- 主人公の「どうしよう。」という心の言葉を軸に、「やっぱりさわっちゃだめかな。」「ちょっとだけならいいかな。」という2つの心に対比させながら板書した。児童から引き出した主人公の気持ちを加えながら、触りたいけれど約束を守ろうとしている主人公の心の揺れを可視化していくことで、板書を中心に話し合いを進めることができた。
- 中心発問の「みっちゃんにどんなことを言ってあげますか。」について、ワークシートを用いた書く活動を取り入れて考えさせた。書くことで、自分と向き合いながらじっくりと考えを深めていくことができた。また、振り返りの欄を設けたことで、児童が授業を通しての学びを実感することができた。
- ワークシートは書くことが限定されてしまうため、自由度の高い「道徳ノート」などの活用も図っていききたい。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

本時では、「物事を多面的・多角的に考えることができたか」、「自己の生き方についての考えを深めることができたか」の2つの評価の視点と関連付け、2つの手立てを講じた。

1つ目の手立てでは、主人公と自分、欲求と我慢という2つの物事を多面的・多角的に考えるため、児童の反応を見ながら動作化を繰り返させたり、補助発問を投げかけたりした。その結果、主人公に共感した話し合いにつなげることができた。また、全員が安心して発言・発表することでねらいにせまることができた。

2つ目の手立てでは、アンケート結果を2回示し、授業前の自分と授業後の自分の考えの変容を捉えられるようにしたところ、今後の自己の生き方につながる考えをもたせることができた。また、事後研究会では、アンケートの結果を今後の変容の見取りや評価など、授業後のPDCAにも活用することのできる可能性を示唆していただいた。

毎時間の評価としては、ワークシートに共通した振り返りの項目を設け、児童が自己評価を行っている。教師による授業内での励ましに加え、ワークシートに個人内の伸びを記述して児童に返すことで、本時の学びが児童の中に累積されていくものと思われる。本時においても、以前の道徳科の授業での学びと関連付けた発言や感想を児童から引き出すことができた。道徳科の授業が連続した学びになり、道徳性を養う基盤となるよう、今後も2つの評価の視点を意識した授業を継続していききたい。

田島小学校第5学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月11日（月） 第3校時

授業者：南会津町立田島小学校 教諭 蒲倉 賢

授業テーマ	情報について様々な立場から考え議論する場を設定したり、保護者の協力を得ながら学習を進めたりすることで、情報の発信者としての判断力を育てることができる授業
-------	--

1 主題名 人の思いを大切に A-（1）善悪の判断、自律、自由と責任

2 教材名 おもしろければいいの （出典：みんなの道徳5年 学研）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じるところから主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することに関するものである。第5学年及び第6学年の段階では、自由で自主的な行動がさらに自己を高めていくことができる。一方、自由と自分勝手に捉え違えることで、周囲に迷惑をかけたり、思わぬトラブルに巻き込まれたりすることもある。自分の行動により、誰かを傷つけないか、自分や身近な人、社会への影響はどうかかなど、物事を多面的・多角的に考えた上で判断し、実行することが大切である。自主的な取り組みをさらに発展させ、児童に主体的、自律的な態度を身に付けさせるためにも、自分自身の行動が正しいかどうか、振り返って考えてから実行に移すように指導することが必要である。

（2）児童の実態について（子ども観）

5年生になり宿泊体験や委員会活動等の学習を通して、自主的に考え、行動しようとする傾向が高まってきている。しかし、些細なことで他人を傷つけるなど、自由の捉え違いから相手や周りのことを考えずに自分勝手な行動をしてしまう様子が見られる。また、自律的で責任のある行動をする意味やよさを理解せず、学校生活全般に消極的になっている児童もいる。自分の携帯電話を持っている児童は5人おり、主に保護者との連絡用として活用しているが、3名はネットゲームや、SNS、動画サイトなどのアプリを使っている。1学期に実施した家庭教育学級では、福島県生徒指導アドバイザーを講師に招き、情報モラルについて学習した。情報社会の倫理について学ぶことができたが、その後の生活の中で配慮に欠けた言動があるなど道徳的实践に十分つながっていない。

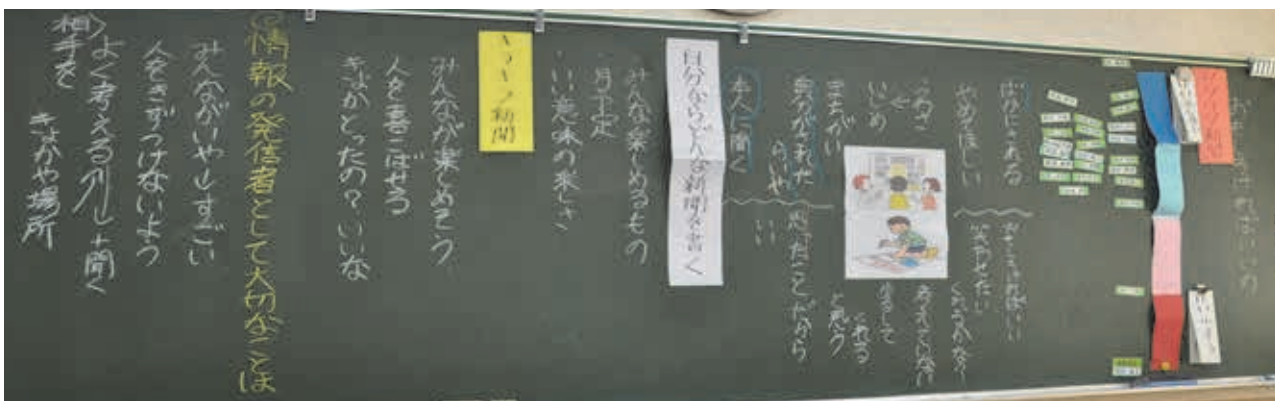
（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、情報モラルと関連させながら、正しい判断をすることについて考えさせることを通して、ねらいに迫るものである。2組のクラスメイトへの配慮を欠いた初めの新聞と、クラスメイトへの思いが込められた書き換えた新聞を提示する。この2つの新聞を比較して考えさせることで、自分の興味だけではなく、様々な人の思いなどを多面的・多角的に捉えて考え、行動することの大切について考えを深めることができる教材である。本教材は、自分たちの係活動など、身近な問題を想起しながら、児童が正しい判断と情報モラルの両面から考えていくことで、効果的な活用ができるものである。本時では、グループ毎に発信者・受信者など様々な役割演技に取り組ませることで意見を対立させ、新聞の内容について多面的・多角的に議論し、情報発信者としての正しい判断力を育てたい。終末には、PTA 広報委員長から新聞を作るときに心がけていることを伺いながら学習を振り返り、正しい情報発信者としての実践意欲を高め、自己を見つめることができるようにする。

4 本時のねらい

情報の発信者として、さまざまな人の思いについて話し合う活動を通して、立場を配慮しながら正しい選択をして実践するための道徳的判断力を育てる。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・ 予想される児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1 普段どんな情報を受け取ったり発信したりしているか話し合い、問題意識をもつ。 ・テレビやインターネットで情報を得ている。 ・役に立つ情報やおもしろい情報がほしい。 ・文字や電話などを使って情報を伝えている。 ・学級新聞を使って、伝えたいことを表現している。 ・悪口を言われて嫌だった。 ・お兄ちゃんが SNS で悪者扱いにされた。 2 学習課題を知る。 おもしろければいいの	3	○アンケート結果を活用し、身近な情報について児童自身が感じている問題を話し合わせることで、問題意識をもたせる。 ○家庭教育学級の学習を想起させ、情報モラルとの関連を図る。
展開	3 教材「おもしろければいいの」の学級新聞を読んで考え、話し合う。 (1) はじめに書いた新聞について考える。 【書いた人の気持ち】 ・みんなおもしろくて笑うはずだ。 ・これは個性だから大丈夫。 ・ネタがない。嘘は書いていないから別にいい。 ・意地悪したいわけではない。 【読んだ人の気持ち】 ・自分の姿が載っていて恥ずかしい。 ・他人だったら見て笑ってしまうかも。 ・人を傷つける内容で見たくない。 ・転んだ人に許可はとっているのか。 ・この学級はいじめがあるのでは。心配だ。 (2) 自分だったらどんな新聞を書くか考える。 ・流行のギャグならみんなおもしろいかな。それなら傷つく人はいない。 ・何かに一生懸命取り組んでいる友達を書こう。見る人も勇気がわいてくると思う。 ・みんなにとって役立つものがいいのではないかな。 (3) 書きかえた新聞について考える。 ・みんなのがんばったことが書いてある。 ・書かれている人も楽しい。 ・書いている人も気分がよいと思う。 ・おもしろくはないけど、みんなが明るい気持ちになる。 ◎情報の発信者として大切なことは何だろう。 ・間違いのない確かな情報を発信する。 ・傷つく人はいないか考えてから伝える。 ・みんなが楽しくなることを発信する。 ・発信する情報に責任をもっていねいに表現する。	35	○一人一人に自分の考えをもたせる。 ○グループ毎に発信者・受信者など、様々な役割演技に取り組みさせる。役割を交代して、意見を対立させる。 ○「事実を書いているからいいのではないか」「他人のことならおもしろいのではないか」など発問し、新聞の内容について多面的・多角的に考え、議論させる。 ○自分ならどんな新聞を作るか話し合う活動を通して、道徳的価値を自分との関わりで考えさせる。 ○なぜそのような新聞を書いたのか理由も考えさせ、議論を深めさせる。 ○自分たちが書きたい新聞と比較させ、正しい判断に基づいた情報になっていることに気付かせる。 ○学習課題についてもう一度問うことで、自己を見つめ直すことができるようにする。 ※情報の発信者として正しい判断をすることについて、自己を見つめて考えているか。(記述・発表)
終末	4 学習のまとめをする。 (1) 学習を通して考えたことやこれからの思いを書く。 (2) PTA 広報委員長の話を聞く。	7	○本時の学習を振り返らせることで道徳的価値の内面化を図り、道徳的価値を実現するよさを確認することができるようにする。 ○学校広報誌を作るときに心がけていることを伺い、正しい情報発信者としての実践意欲を高める。

3

多様な指導方法に基づいた授業実践

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1) 「お互いによさを認め合い、相手の立場に立って相手を理解することができる子どもの育成」について
- ネームプレートを活用することで一人一人がどんな考えなのか明確になり、おもしろい・おもしろくない理由を活発に話し合わせることができた。
 - グループ毎に発信者・受信者の役割演技に取り組ませた。新聞を書いた人の気持ちに共感しにくいため、役割演技を通して人間の弱さに気付かせることができた。また、役割を交代して意見を対立させることで、書かれた人が傷ついてしまうなど、新聞の内容について様々な立場に立った考えを引き出し、議論させることができた。
 - 振り返りの場面では時間が足りなくなり、それぞれの考えのよさを十分認め合うまでに至らなかった。指導内容の精選や交流の場を工夫する必要がある。
- (2) 「課題を自分事と捉え、自分の考えをもつことができる子どもの育成」について
- 実際に作っている5年1組学級新聞を提示したり、情報モラルについて学んだ家庭教育学級の学習を振り返ったりすることで、普段の生活から問題意識を生み出し、主題に対する児童の興味関心を高めることができた。
 - 授業前半に「自分ならワクワク新聞をおもしろいと思うか」、授業後半に「自分ならワクワク新聞を貼り出すか」について情報発信者・受信者の立場で考えさせた。しかし、子供達の思考の流れを踏まえると、立場を変えることは自分事として考えにくかった。同じ立場で考え、その変容を授業の中で取り上げた方が効果的だったと考える。
- (3) 「地域のよさを知り、相手を思いやることができる子どもの育成」について
- 終末に PTA 広報委員長をゲストティーチャーとして招き、学校広報誌を作るときに心がけていることについて聞く時間を設けた。自校には創意工夫のある広報誌があることに気付くとともに、正しい情報発信者としての実践意欲を高めることができた。
 - 広報委員長と事前に授業について打合せを行ったが、話していただいた内容と本時のねらいとの関わりが薄く、もう少し丁寧な打合せが必要であった。話す内容について、より具体的に依頼する等、保護者・地域との連携の在り方について改善が必要である。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- (1) 「児童がより多面的・多角的な見方に発展しているか」の評価について
- 新聞を書いた人・新聞を読んだ人の気持ちを話し合う場面では、机間指導をしながらそれぞれの立場の気持ちについて認める働きかけを行ったことで、一人一人の児童の姿を把握することができた。
 - 授業で使用したワークシートを持ち帰り、保護者のコメントを記入してもらった。それをもとにもう一度道徳的価値について話し合う場を設けることで事後指導の充実を図った。教師のコメントの他に保護者の考えにも触れることで、様々な見方へ発展させるとともに、児童に自己の変容や成長の状況を実感させることができた。
 - ネームプレートを使って自分の考えを表現させた際に、「ワクワク新聞はおもしろい」「ワクワク新聞はせっかく作ったから掲示する」と述べた児童への個別支援が必要であった。今後は児童の学習状況や道徳性に係わる成長の様子を把握し評価の仕方を工夫していく必要がある。
 - 物事を多面的・多角的に考える学習が進みにくい児童の学習状況を的確に捉え、支援し、どのように評価していくかについては課題が残った。
- (2) 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか」の評価について
- 終末には、「今日の学習で考えたこと」、「これからの思い」という視点で振り返りをさせた。4月から振り返りについて励ましの言葉かけを継続してきたことで、自分の変容やこれからの実践意欲など多様な視点で書けるようになった。本時では、「これからは情報をよく考えてから伝える」など、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深める児童の姿が多く見られた。

原町第三小学校第1学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月13日（水）第5校時
授業者：南相馬市立原町第三小学校 教諭 齋藤 雅美

授業テーマ	ペープサートを使って役割演技をすることを通して、友達と仲良く過ごそうとする心情を育てることができる授業
-------	---

1 主題名 友達を思う心 B－（9）友情、信頼

2 教材名 「二わのことり」（出典：あたらしいどうとく 東京書籍）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本教材では、友達と仲良くし、思いやりをもって助け合っていこうとする心情を育てることをねらいとしている。人間の性格や行動の仕方は人それぞれに違っているが、相手の立場に立って考えることから、相手との信頼や友情が育ってくる。人間関係づくりがまだ未熟な1年生ではあるが、相手を思いやり、友達を大切にしようとする心情を育てる学習を積み重ねていくことは大切であると考え。

（2）児童の実態について（子ども観）

男子11名、女子12名、計23名の学級である。児童には入学時から、道徳科の授業を大切にしてほしいという担任の考えを伝え、授業を積み重ねてきた。児童の実態としては、全体的に落ち着いているものの、まだ自己中心的な考えが強かったり、話の本筋を捉えることを苦手としていたりするために、道徳的価値に向き合うことが難しい児童も見られる。また、道徳科の授業において、これまでも「友情、信頼」について学習してきたが、実際の生活において、友達との関わりの中で自分の考えを押し通したり、乱暴な言動を取ったりして、トラブルになってしまうこともある。学校生活にも慣れ、学級内の人間関係を深めていくべき時期でもあるので、本時の学習を通して、改めて友達の大切さについて考えさせたい。

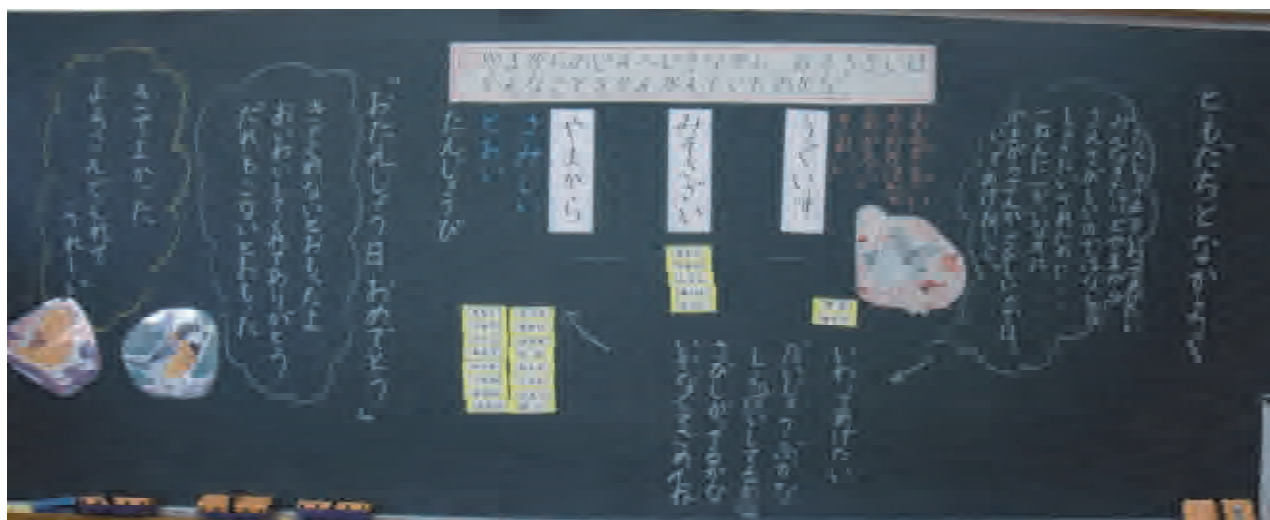
（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

みそさざいは、やまがらから誕生日の招待を受けながら、迷いつつも友達に誘われるままにうぐいすの家に来てしまう。しかし、寂しく待っているであろうやまがらを思い、途中からそっと抜け出し、やまがらの家に行くという内容である。指導に当たっては、みそさざいの立場に立って自分ならどちらに行くかを考え、友達と対話することを通して、価値について多面的・多角的に考えるとともに、みそさざいの心の葛藤に共感して、友達を思う心を育てたい。また、みそさざいの言動や心の推移を捉えることができるよう、ペープサートを効果的に活用していく。学習を通して、人を思いやる行動をすることで友達の喜びが自分の喜びになることにも触れるようにしたい。

4 本時のねらい

みそさざいの立場に立って役割演技をすることを通して、友達と仲良くしていこうとする心情を育む。

5 実際の板書



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 評価
導入	1 毎日の生活で、友達と仲良くできたことやできなかったことを発表する。 ・一緒に遊んで楽しかった。 ・けんかになって悲しかった。	5	○ 日頃の友達との関わり方について振り返るとともに、道徳的価値への方向付けを図る。
展開	2 「二わのことり」を読んで話し合う。 (1) 自分ならどちらの家に行くかを考え、それぞれの立場からわけを話し合う。 ○ 自分なら、やまがらとうぐいすのどちらの家に行きますか。 ・うぐいすの家は楽しそうだから。 ・音楽会の練習は大事だから。 ・誕生日なのにかわいそうだから。 ・なかまはずれはだめだから悩む。 (2) みそさざいの気持ちを考える。 ○ うぐいすの家に行ったみそさざいは、どんなことを思っていたでしょう。 ・わるいことをしたな。 ・やまがらさんはさみしいかな。 (3) ワークシートに記入する。 ◎ みそさざいはやまがらの家に行きながらどんなことを思っていたでしょう。 ・遅れたけど、喜んでくれるかな。 ・友達だから、早く行ってあげよう。 (4) ペープサートを持って役割演技を行い、友達を思う気持ちを考える。 ・行ってよかった。 ・喜んでくれてうれしいな。	25	○ 教材への理解を深めるために、場面や状況を押さえてから聞かせる。 ○ 自分がみそさざいの立場だったらどういう行動をするかをネームプレートで示し、自分の立場や考えを可視化して明らかにした上で話し合う。 ○ 友達に誘われるまま、近くて明るい場所にあるうぐいすの家に行ってしまったみそさざいの葛藤をつかむようにする。 ○ ペープサートでの発表に安心して取り組めるよう、ワークシートにみそさざいの心情を記入した上で、役割演技を行う。 ○ みそさざいとやまがらのペープサートを用いた役割演技をすることを通して、本時の価値に迫ることができるようにする。 ○ 友達の喜びが自分の喜びになっていることにも気付かせる。
閉	3 自分の生活を振り返り、付箋に記入する。 ○ 今日の学習を通して、友達とずっと仲良く過ごすためにどんなことが大切だと思いますか。 ・けんかしたらすぐ謝る。 ・友達に喜んでもらえるようにする。 ・友達の気持ちを考える。 ・思いやりの気持ちが大切だ。	10	○ 友達と仲よく過ごすために大切なことを、掲示用「どうとくのき」に貼る付箋に書く。 ○ 数名の児童に発表させることで、互いに考えを深めることができるようにする。 ○ 「どうとくのき」に付箋を貼り、木が華やかになった様子を見ることで、充実感・達成感を味わうことができるようにする。 友達と仲よくするためには、どんなことが大切なのかを考えることができたか。(発表、ワークシート、付箋)
終末	4 教師の説話を聞く。	5	○ これからも友達と仲よくしていこうという気持ちを持ち、ねらいとする道徳的価値をより身近に感じられるようにする。

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

(1)「導入の工夫」について

- 授業の前に「ともだちや」という、友達を題材にした絵本の読み聞かせを行ったことで、児童が友達について考えるという意識を違和感なく高めることができた。
- 導入で「友達と仲良くできたこと、仲良くできなかったこと」を児童に問いかけたことで、日常の友達との関わり方について考えるとともに、道徳的価値への方向付けができた。また、導入で深入りしすぎず、かける時間や指名する人数等も適切だった。

(2)「ネームプレートの活用」について

- 「自分だったらどうするか」という問いに、自分の立場をネームプレートで明示することで、グループで多面的・多角的な話し合いをすることができた。
- 友達と意見を交換した後、立場が変わった児童が、ネームプレートを動かす時間があってもよかった。

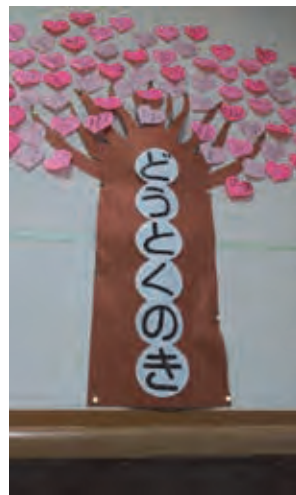
(3)「ペープサートを使った役割演技」について

- 事前にワークシートに考えを書いたことで話すことが苦手な児童も自分の考えをまとめ、安心してペープサートを使った役割演技に取り組むことができた。
- みそさざいだけでなくやまがらも児童に演じさせ、気持ちを話させたことで、喜ぶ友達の姿は、自分の喜びにもつながることに児童が気付くことができた。
- ペープサートは、低学年の児童が登場人物になりきって考えることができ、効果的であった。
- 時間が気になり、発表の人数が十分ではなかった。ワークシートには、みそさざいに自分の思いを重ねて意欲的に書いていた児童が多かったので、もっと多くの児童に役割演技を体験させ、多様な考えがあることに気付かせたり、考えを深めさせたりできればよかった。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 児童が書くことに慣れた2学期から「どうとくのき」への掲示を行ってきた。授業の終末に取り組むことで、発表が苦手な児童についても、どれくらい道徳的価値に迫ることができたかを把握することができ、評価に役立てることができた。
- 「どうとくのき」にハート型の付箋が増え、木が華やかさを増すことで、児童も充実感・達成感を味わうことができ、道徳科の授業にますます積極的に取り組むようになった。また、日常の指導においても、「どうとくのき」に掲示されていることを振り返ることで、トラブルの解消や自分を見つめ直すことにつなげることができた。
- 「どうとくのき」は継続し、意識付けを図ることで児童により効果が現れている。今後も続けていきたい。
- コの字型の机の配置は、児童がお互いの顔を見て発言でき、グループでの話し合いもしやすい。授業のねらいや活動の目的に応じて活用していきたい。
- よりよい掲示の方法として、花の房のように、授業ごとにまとめて掲示していくことで、児童も振り返りやすく、評価にも活用しやすいのではないかと助言をいただいたので、取り入れていきたい。
- 特別な支援を要する児童が何名かいるが、教師からの言葉がけに限られた時間の中で全員に行うことの難しさを感じた。今後、座席の配置も含め、考えていきたい。



天栄中学校第1学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月15日（金） 第5校時
授業者：天栄村立天栄中学校 教諭 柳橋 綾子

授業テーマ	主人公の心情を自分に投影し、共感的な対話を通して「自分事」としての考えが深まる授業～多面的・多角的な考えを視覚化する思考ツールの活用～
-------	---

- 1 主題名 いのちを考える（2） D－（19）生命の尊さ
（関連価値：B－（6）思いやり、感謝 B－（8）友情、信頼 C－（14）家族愛、家庭生活の充実）
- 2 教材名 決断！骨髄バンク移植第一号 （出典：東京書籍「新しい道徳1」）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

自他の「いのち」を尊ぶためには、まず、自己の生命の尊厳に気付き、命あるものは互いに支え合って生き、また生かされていることに感謝の念をもつよう指導することが必要である。自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、他の生命も尊重する態度を身に付けることが大切である。生命のつながりに思いを寄せ、あらゆる生命を尊ぶ心を育てることは、生徒の生きる力を育てることだと言える。

（2）生徒の実態について（生徒観）

一般的に中学生の時期は、比較的健康な毎日を送っており、「生命の尊さ」について改めて考える機会も少ないことが実情であると思われる。また、生活様式の変化などにより、人間の生命の有限性やかけがえのなさに心を揺り動かされたりする機会も少ないのではないかと思われる。そのようなことが、若者の生命軽視や軽はずみな行動を引き起こしている一因であるとの指摘も見られる。本校の生徒も同じような状況にあると言えるが、豊かな自然、穏やかな地域環境に恵まれ、道徳的な心情や判断力、実践意欲、態度などが自然に形成され、発達段階に応じた社会性も身に付いている。生徒は、これまでの学習を通して、「生命の尊さ」について考え合う素地が培われている状態にあり、本時によって自らの考えをさらに深めるものと考ええる。

（3）教材及び指導について（教材観・指導観）

日本においては、骨髄移植の大切さが理解されているとはいえ、骨髄バンクへの登録者は未だに多くはない。その骨髄バンクに関わり、行動した人びとの記録は、「生命の尊さ」を考える契機を与えてくれる。

主人公の骨髄移植に対する使命感と不安の間で揺れる心は、人間としての本音の部分であり、不安を乗り越え、骨髄提供を決断する勇気もまた人間のもつ力である。本教材は、一人の人間の実体験が苦悩も喜びも自然に綴られており、そのことが、読む人の心に「いのち」と向き合う心の在り様を強く問いかけてくる。そのため、本教材は本校の生徒に「生命の尊さ」を広く、深く、考えさせるための教材として適切であり、本時の指導教材として取り上げた。

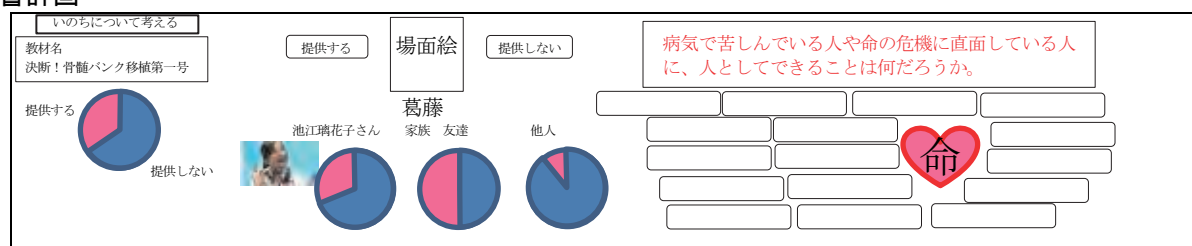
骨髄移植にいたるまでの主人公の心の動きや、主人公を取り巻く人々の心を、その経緯とともに見つけさせ、生徒の心に生まれる考えや疑問や感情を丁寧に拾いあげ、その感情の表出に共感することが大切である。「命は尊いもの」と簡単に結論を出して終わるのではなく、人々が体験として語る言葉を味わいながら、ジワリと心に沁み込み広がるような時間となることを目指したい。

「自分ならどうする」という問いかけを急がず、大人の考えを押し付けず、結論を急ぎすぎないように留意したい。生徒の抱く疑問や感情を生かしながら、分析・判断へと向かうよう指導したい。

4 本時のねらい

悩みながらも自分の骨髄を提供した田中さんの姿から、他の「いのち」と一緒に生きていくことの意義について考える活動を通して、自他の「いのち」を尊重する心情や意欲を養う。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される生徒の反応)	時間 形態	○指導上の留意点 ●評価 【研究との関連】
導入	1 価値を意識化する。 (1) 骨髄提供を待つ人について知り、骨髄バンクに登録するかどうか、意思表示する。 いのちについて考える 2 教材を提示する。 (1) 「決断！骨髄バンク移植第一号」のあらすじを振り返る。	5分 一斉	○ 「いのち」についての事前アンケートに対する学級の結果を知らせる。 ○ 事前に教材を範読しておき、授業では簡単にあらすじを押さえる程度とする。また、骨髄移植や骨髄バンク等の基本的な知識も前時までに確認しておく。
展開前段	3 田中さんが骨髄移植に至るまでの心の葛藤について考える。 ○ なぜ、田中さんは電話ボックスの前で悩んでいたのですか。 【骨髄提供を断りたい気持ち】 ・怖い、痛い、リスクがあるから。 ・他人のためにそこまでする必要はないと思っているから。 ・人の生命を救ってあげたいと思う気持ちはあるが、移植手術が現実の問題になると、乗り越えなければならぬことがあることに気付いたから。 ・断るなら今しかないから。 【骨髄を提供しようとする気持ち】 ・人の役に立ちたいから。 ・子ども達にも宣言したから。 ・知らない人の命であっても、大切だから。 ・絶対に命を救いたいから。	10分 小集団・一斉	○ 田中さんが、電話ボックスの前で悩む気持ちを考えさせ、「提供を断りたい気持ち」、「提供しようとする気持ち」との間で葛藤していることに気付かせる。 ○ 「もし自分だったら見ず知らずの人に痛い思いをしてまで提供するか。」などの投げかけを行うことにより、恐怖心や迷い等に気付かせる。 ○ 自分が他人の運命を握っているという事実をもとに考えさせるようにする。 ● 級友の意見などを通して、主人公の心の中にある生命を尊重する気持ちや奉仕の心と、迷いや戸惑いとの葛藤に気づき、多面的に考えられているか。(観察) ○ グループ以外の級友と意見を交流させることで、自分とは違う視点に気付いたり、同じ考えに共感したりしながら、考えを深められるようにする。
展開後段	4 ジャンプ発問を把握する。 (1) 池江璃花子選手を取り巻く、現在の社会の流れを知り、その上で、骨髄移植について自分ならどう考え、どう行動するか考える。 ○ あなたは、池江璃花子さんに、骨髄を提供しますか？ ○ 家族や友達だったら、骨髄を提供しますか？ ○ 全く知らない人に、骨髄を提供しますか？ ・助けられるなら、骨髄を提供したい。 ・提供する相手によって気持ちや考えが揺らいでしまう。 ・他人の命を救うために行動しようとしている人がある。 ・骨髄移植以外にも人を助ける方法はある。 ◎病気で苦しんでいる人や命の危機に直面している人に、人としてできることは何ですか？ (2) グループで話し合う。 (3) 全体で共有する。 ○ 「家族」、「友達」、「他人」の場合を考える。 ・移植・看病 ・心を支える ・お見舞い ・募金 ・献血 ・万が一の時に助けられるよう学ぶ ・ボランティア・励ましの手紙・SNSでの励まし ・署名を集める ・将来助けられる人になる(看護師等)	20分 小集団	【手だて① 学び合い活動】 ○ 世間の風潮に流されて、自分の事として重く捉えることなくドナー登録することは、果たしてどうなのかを問いかけ、自分がその場に立ったとき、どのような思いがこみ上げてくるかを話し合わせるようにする。 ○ 心情円を活用することにより、自分の素直な思いを表出させながら話し合うことができるようにする。 ○ 「自分にはできない」と考える生徒の考えも認めた上で話し合わせるようにする。 【手だて② ジャンプの課題】 ○ それぞれの考えを班で交流し、お互いの考えを共感的に受け止めさせるようにする。 ○ すべての班の考えを提示することで、考えの違いに気付いたり、多様な考えに触れたりすることができるようにする。 ● 自分や級友の中にも、実際の行動に移せないまでも、人の生命を救いたいという気持ちがあることに気づき、自他の生命の尊重に努めようと考えているか。 (観察・心情円・ワークシート)
終末	5 交流と振り返りを行う。 (1) 今日の授業を振り返って感想を記入する。 ○ 今日の授業を通して、「いのち」について考えたことを書きましよう。	15分 一斉	○ 授業の感想だけでなく、自分のいのちや他の人の生命を大切にするために必要なことは何かを考えさせるようにする。 ● 自他の生命の尊重に努めようとしているか。 (観察・ワークシート)

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

(1) 「『学び合い活動』に厚みをもたせた学習過程の工夫による『考え、議論する道徳』」について

- 骨髄を提供する気持ちを、「池江璃花子選手」「家族」「友人」「他人」になら提供しますか、という投げかけによって自分の中に生まれる迷いや不安に気付かせ、課題を多面的・多角的に捉える足がかりとした。これにより、「主人公の決断は素晴らしい」とか「命を目の前にしたときには勇気をもつことが大切」など、結論を安易に語らせるのではなく、自分の中にも、複雑な迷いや不安が渦巻くことを実感としてもたせることができた。
- 展開前段での、対話による言語活動を中心とした「グループでの対話」、「全体での対話」が一人一人の考えを深める場になり、展開後段での書く活動を充実させることができた。心情円を思考ツールとして利用することで「いのち」と向き合う心の在り様は人それぞれで、自分の価値観だけでは図れないということにも気付かせることができた。
- 展開後段においても、考えを共有するための工夫として、思考ツールを利用した。このことにより、他者の意見に触れることができた。その結果、授業の振り返りとなる最後の感想に、生徒一人一人の考えや意識の深まりを感じる内容が見られた。
- 自分の中に生じる心の揺れに気付くことができたため、さらに話題を掘り下げたり、発展させたり、様々な意見を交流させる場面を設定することもできた。「本時のねらい」と照らし合わせたときに、授業構想をさらに検討する必要がある。



【心情円を用いた話し合い】



【思考ツールによる可視化】

(2) 「インタラクションの充実を図る『ジャンプの発問』の設定」について

- 教材の「骨髄移植に対する使命感と不安、勇気」という人間としての課題から「他の『いのち』と一緒に生きていくこと」を感じ、自分自身の課題へと引き寄せるためのジャンプの発問を設定したことで、教材から離れ、一人一人の生徒が自分事として課題を捉えることができた。
- ジャンプ発問で、視野を広げるための教師の投げかけやイメージを広げるために提示した画像が効果的であった反面、骨髄移植から難民キャンプへの話の転換は、生徒の思考を無理に広げ過ぎたと思われる。
- ジャンプ発問にもう少し時間をかけることで、他の展開、広がり期待できた。例えば、骨髄移植を提供する気持ちが「家族」や「友人」など提供する相手との「関係性の深さ」によって違う判断となるのはなぜかを問えば、さらに多面的・多角的な考えの交流を深められたと思う。

(3) 「リフレクションの時間的な確保とその内容の充実」について

- 振り返りの時間を十分に確保するとともに、その前の話し合い・学び合いを充実させたことで、自分の思いや考えをしっかりと書くことができていた。
- 展開前段で主人公は葛藤の末、なぜ骨髄提供に踏み切れたのかという部分にさらに踏み込み、生徒の考えをしっかりと拾い上げれば、生命の尊さや他者の生命の大切さに関する思いを深めることができたと考えられる。そうすれば、振り返りで生命の大切さやありがたさについて深く考え、自他の生命の尊重に努めようとする心情が文章表現としてさらに表れたのではないと思われる。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 生徒のワークシートには、授業に対する自己評価項目を入れ、毎時間の授業を振り返る活動を継続して行った。また、生徒がワークシートに書いた心情等に対して、朱書きでコメントし、生徒の心の変容や考えの深まりを認め、評価につなげるようにした。
- 個々の生徒のよさや可能性を認め合えるよう、生徒の考えを可視化する活動を継続して行ってきた。授業後には、道徳科に関する掲示場所で紹介することで、生徒一人一人が他の生徒の考えを共有し級友の考えを認め合う姿や、意見交換する姿が見られた。
- 音声言語による対話の場面では、生徒を見取り、的確に評価するための工夫が必要である。生徒の自己評価に加え、生徒による相互評価を改善していくことで生徒一人一人のよさにさらに気付けるようにしていきたい。



【ワークシートの掲示】



【可視化の取組】

泉崎中学校第3学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月20日（水） 第5校時
授業者：泉崎村立泉崎中学校 教諭 新井田貴之

授業テーマ	個の考えをもたせ、3人の少人数による意見の話し合い活動を通して、多面的・多角的な考えをさせる授業
-------	--

1 主題名 世界平和を考える C－（18）国際理解、国際貢献

2 教材名 「本とペンで世界を変えよう」（出典：あすを生きる 日本文教出版）

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について（価値観）

現代の中学生がやがて社会に出る際、日本人の一人として世界との関わりが求められる時がやってくる。そのため、世界情勢に関心をもち、国際人としてよりよく生きようとする心情や態度を育むことは重要であると考えられる。また、平和で豊かな国に生まれ育ったものとして、世界平和にどう貢献していくかは持続可能な社会を築く上で大切な視点である。自国に誇りをもつとともに、他国の文化やよさに気づき、理解や尊敬の念をもつ姿勢を育てたい。

(2)生徒の実態について（生徒観）

道徳科の授業では、自分の意見をしっかりもち、発表できる生徒が多い。また、学級全体として他の意見を聞き入れ、自分の意見を顧みたり、考えを深めたりする様子が見られる。今回の主題に関しては、生徒は幼い頃から互いを知っている安心感に支えられ、和やかな雰囲気で学校生活を送っている一方で、狭い人間関係、自分を取り巻く身近な社会以外の世界、とりわけ国際社会への興味は決して高いとは言えない。国際社会という大きなテーマと生徒自身を結びつけ、生徒のもつ世界観を広げていく必要がある。

(3)教材及び指導について（教材観及び指導観）

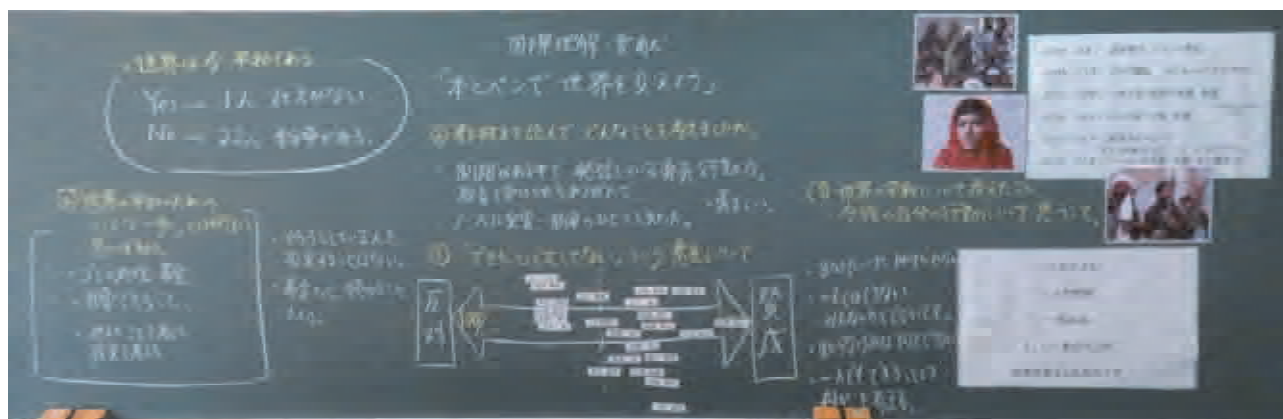
本教材は、国連でのスピーチなどの様々な活動を通し、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんを取り上げている。母国パキスタンで武装勢力に襲われ、瀕死の重傷を負いながらも教育の重要性や世界平和を訴える同年代の少女の行動から、世界平和について深く考えさせることができる教材である。

「世界平和と人類の発展に貢献する」という大きなテーマゆえに、「難しい」「無理だ」「私には関係ない」という思いも予想されるが、世界の状況を知ること、今できること、将来やってみたいことなどを考えることで、より身近なものとして捉えさせたい。また、「国際理解」は、英語科や社会科、保健体育科などとも結びつきが強いので、今ここで学ぶ意義にもふれ、「世界平和」の概念を日常生活につなげられるように進めたい。

4 本時のねらい

マララさんのスピーチや行動を知り、他と積極的に想いを交わす活動を通して、国際的な視野に立ち、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする実践意欲を育む。

5 板書計画



3
多様な指導方法に基づいた
授業実践

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 本時の課題を確認する。 ○「世界は今、平和である」という意見について賛成か、反対か。	3	○ワークシートに記入させ、終末での自分の意見と対比させる。
展開	2 教材内容を振り返る。 ○どんな内容だったか。 ・パキスタン出身、ノーベル賞受賞、15歳のとき武装集団襲撃、国連スピーチ、など ○教材文を読んでどんな感想をもったか。 ・かわいそう、こわい。 ・国連でスピーチをするのは立派。 ○世界の平和は必要だと思うか。なぜそう思うか。 ・必要。悲しむ人が多いのは良くないから。 ・いずれ自分たちも巻き込まれるかもしれないから平和は必要。 ◎「できることはたいしてない」という意見について賛成か、反対か。 ・何かしたいけれど、どうしようもない。 ・関係ないといえば関係ない。 ○世界の平和のための小さな一歩は何だと思うか。 ・外国に行く、選挙に行く、ニュースに関心をもつ、募金をする、など	3 4 (5) (3) (3) (10) (13)	○写真などを使って、効果的な板書を心がける。 ○机間指導で個の考えを見取り、様々な考えを全体で共有できるようにする。 ○視覚資料を通して、理不尽な環境に置かれている人や学校に行けず労働しながら生計を立てている子どもの映像を見ることで、様々な環境の中で生きている人があることを理解させる。 ○意見を可視化する。班で意見を共有させ、その後教師が司会役となりスモールディスカッションを行う。 ※いろいろなものの見方や考え方があることを理解しながら、自分の考えを述べているか。(発言) ○班で話し合いをさせ、多面的・多角的な考えに触れさせる。 ○実現可能な行動か問い返しをし、考えを深めさせる。
終末	3 教師の説論を聞き、本時を振り返る。 ○世界平和について思ったこと、今後の自分の行動について考えをまとめよう。	1 3	○マララの国連のスピーチを見せて、マララの思いにふれた感想を書かせる。 ※国際的な視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献することの大切さに気付くことができたか。 (ワークシート)

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1) 言語活動の充実を通して、「考え議論する」活動につながる学習過程の工夫
- 発問に対して自分の立場を明らかにするために心のものさし（ネームプレート）を活用することで、生徒が自分の考えを客観的に捉えることができ、その後のディスカッションで意図的指名をする際、有効だった。
 - 三人一組の「トリオ学習」は、短い時間での意見の交流に対して効果があった。意見を深めるためには、発問にさらなる工夫が必要であると感じた。
 - 「国際理解、国際貢献」という内容項目に対して生活体験が少ない生徒たちにとって自分事として捉えられない部分もあった。グローバルな視点が求められる内容項目を扱う場合、生徒の実態に応じて発問を精選したり、生徒同士の対話を増やしたりすることで自分事として捉えられるように工夫したい。
 - 授業では、机の配置を「コの字型」で行った。映像資料の提示やトリオ学習時など、場面や目的に応じて机の配置を変化させていく必要があると感じた。



- (2) 「自己を見つめ、多面的・多角的に考える力」につなげるための見取りと個に応じた支援の工夫について
- 教材内のマララさんの経験したことからだけではなく、日本人による国際貢献の視点を与えることで「多面的・多角的な考え」につなげることができた。
 - 「世界平和のために、できることは本当はないか」など、問い返しや揺さぶりをかけ、自己を見つめる機会を設けた。それぞれの生き方や考え方を比較して考えることで多面的・多角的に考えることができた。
 - 終末部分で、生徒の意見を集約し、教師の意図するところに誘導する形になってしまった。教師主導ではなく、一人一人の考えを大切にしたい授業を展開できるように心がけたい。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

授業での発言やワークシートのコメントにより、生徒の考えに変容が見られた。生徒は、普段は意識しない自分を取り巻く環境の外の世界に触れ、マララさんの経験や行動、世界中にある諸問題について学びを新たにした。さらに、その問題解決の困難さや自国の豊かさを再認識した上で、これから何を考え、何をすべきかという思いを深めた生徒が多かった。

【ワークシートより】

- ・ 私は日本が平和なので、苦しんでいる人たちがいることを忘れていました。今日学んだことを忘れず、世界平和につながることをしていきたい。
- ・ 当たり前のように毎日授業を受けているけれど、それはとてもすごく幸せでありがたいことだと感じました。私がすべきことを今日から改めて深く考えてみようと思いました。
- ・ 世界平和は実現不可能だ。平和のために動けるのは自分を犠牲にできる人間だ。俺は見ず知らずの他人を助けるよりも、身近な大切な人を選ぶ。
- ・ 「私は学校に行きたくない」や「勉強をやりたくない」などと軽率な発言をしていたなと思いました。少しでも世界の人々が助かるなら、何か行動を起こしたいと思いました。

授業の中で全員が一度は発言できるように配慮したり、発言に対して称賛したりしながら共有するようにした。また、授業者だけでなく、生徒同士で他の意見を否定せずに聞き合うことで、発言することに対する抵抗は少なくなってきた。

さらに、授業の終わりに道徳ノートやワークシートに自分の考えを書くことで評価の一助とした。授業後、生徒全員の授業の感想等を取りまとめ、配付して共有することで「自己肯定感の育成」や「多様性の理解」につなげることができた。

湯本第二中学校第3学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月11日（月） 第5校時

授業者：いわき市立湯本第二中学校 講師 菊池こずえ

授業テーマ	自分らしい生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成 ～人間としての生き方について、多面的・多角的に考えるための指導方法の工夫～
-------	--

1 主題名 勤労を通して社会に奉仕する C－(13) 勤労

2 資料名 「ふきのとう」（出典：とびだそう未来へ 中学道徳3 教育出版）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

勤労とは、自分の務めとして心身を労して働くことである。勤労には、自らの目的や生活・幸福追求の面とともに、社会的分業によって社会を大きく支えているという面もある。社会に奉仕したり、人々のために働いたりすることを通して、社会に貢献することができる自己を実感し、充実した生き方を追求し実現していこうとする心情を育てていくことは、無就労をなくす上からも重要である。

(2) 生徒の実態について（生徒観）

生徒は2年生の時に行われた職場体験で、働くことの意義や仕事をする喜び・楽しさ・辛さを直接事業所の方から聞き、体験を通して自分なりに学んできた。しかし職場体験では、中学生ができる範囲での仕事を体験しただけなので、生徒にとっての就労の経験はないと考える。また、本校は本年度、「いわき・わくわくしごと塾」で各界の事業所の方をお招きし、仕事についての話を聞かせることでキャリア教育を推進している。しかし、仕事に対する苦労や辛さについてはそれほど取り上げられてはいないため、社会人として生きていくための望ましい勤労観を育てていく必要がある。

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

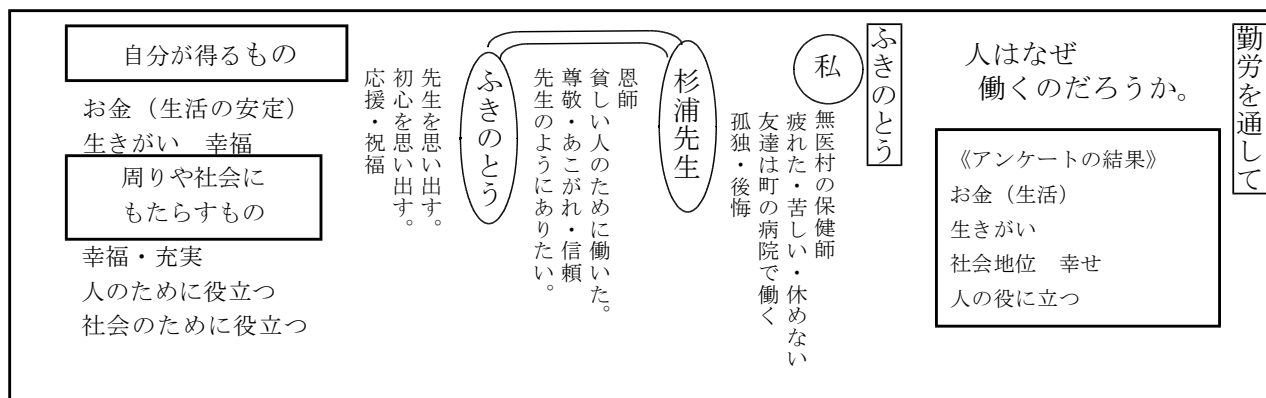
本時の授業で使用する教材は、「青春を谷間に埋めて―無医村保健婦の記録―」（岩間秋江著：講談社 1963 年）の中から引用編集された読み物教材である。教科書では、主人公の保健師としての過酷な環境や苦悩、主人公が尊敬する杉浦先生のこと、主人公が道ばたのふきのとうを見て自分の務めに再度向き合おうとするところまで書かれ、現代風にアレンジしながら中心となる部分を詳細に記述している。勤労の尊さや勤労を通して社会に奉仕する心情の大切さに気づかせることのできる教材と考える。

本時では、生徒の事前アンケートをもとに「働くことの意義」の意識づけを行う。教材より、主人公の置かれている状況と心の変化、そして変化の理由を考えさせたい。また、「働くことで周りや社会に与えるものは何か」をトリオ学習によって意見交換させることで、自分とは違う考え方を理解させたい。また、将来自分は仕事とどう向き合っていくのかを一人一人に考えさせるようにしたい。

4 本時のねらい

勤労の尊さを理解し、自らの生きがいのある人生を探究することを通して、勤労によって社会に奉仕する気持ちや進んで社会の発展向上に努めようとする意欲を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※評価
導入	1 仕事に関するアンケートの結果について振り返る。 「人はなぜ働くのだろうか。」 ・お金のため（生活するため） ・生きがいのため ・社会的な地位のため ・社会に役立つため	5	○アンケートの結果を通して、本時のねらいとする価値への方向付けをする。
展開	2 教材の前半の内容について振り返り、話し合う。 ・過酷な労働状況 ・主人公の苦悩 ・主人公の心の変化 ○もし自分が主人公だったらどうするか。 ・仕事を続ける。 ・仕事を辞める。 ・どちらとも言えない。 3 教材の後半部分の範読を聞き、主人公の心の変化をつかむ。 ◎「私」はなぜ、立ち直ることができたのだろうか。 ・ふきのとうを見て、恩師の杉浦先生のことを思い出した。 ・先生の患者さんに対する公平な態度。 ・人のために尽くす姿。 ・自分の先生への尊敬や憧れの気持ち。 ・自分の仕事に対する志や使命感。 ・弱音を吐く自分が情けない気持ち。 ○働くことで自分が得るもののほかに、周りや社会に与えるものは何だろう。 ・自分→お金・生きがい ・周りや社会→幸福・充実・人のために役立つこと	10 25	○教材の前半は、あらかじめ読ませておく。 ○主人公のおかれている状況と心の変化を、カードを使って掲示して、簡単に振り返らせる。 ○主人公の立場で考えることにより、主人公の苦悩に共感させる。 ○生徒の発言に対し、理由を問い返し、ゆさぶりをかけることにより主人公に自我関与させる。 ○杉浦先生の人物像に注意しながら範読を聞くようにさせる。 ○トリオ学習で進める。 ○なぜ主人公は立ち直ることができたのか、じっくり生徒に考えさせる。 ○杉浦先生の生き方から主人公が何を学んだのかについて、多面的・多角的に考えさせる。 ○自分と周りや社会についてしっかりと考えさせる。 ※働くことについて、自分とは違う様々な考え方を理解できたか。（発表・観察）
終末	4 今の自分から、未来の自分へのメッセージを書く。 ○将来の挫折しそうになってしまった自分に、今の自分からメッセージを書こう。 ○振り返りシートを記入しよう。	10	○将来の自分へ、働くことの意味を伝えるメッセージを書くようにさせる。 ※働くことは自分の利益のためだけではなく、社会貢献に伴う喜びもあることに気づいたか。（振り返りシート）

3

多様な指導方法に基づいた授業実践

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1) 「異なる視点や立場に立って考えさせるための中心発問の工夫」について
- 「働くことの意義」の意識づけを行うため、事前にアンケート調査をして結果を提示した。その後、資料についての話し合い活動を通して、自分以外の人の意識や意見にふれあうことで、再び「働くことの意義」に立ち戻ることができた。
 - 教材の中のどの場面に中心発問を設定するかも含めて、中心発問の意図を明確にしておき、補助発問を工夫しながら使っていくことで、価値に迫ることができた。
 - 時代背景が今と違い、生徒に状況を理解させるには難しい教材である。教材の内容の説明や読み取りで時間が過ぎてしまわないよう、教師側の教材分析はもちろん、生徒への提示の仕方や読み取らせ方にも工夫が必要である。
- (2) 「自分の考えを整理し、自己を見つめるための書く活動の工夫」について
- 自分の考えを整理してまとめるためにワークシートを毎時間活用したが、教材の感想の記入だけで終わらないように、ワークシートの形式を工夫することができた。
 - 毎時間最後に振り返りシートを記入させることで、教材を通して学んだことを考えさせ、自己を見つめるための時間を確保することができた。
 - 教材によっては、話し合い活動に重点をおくため、発問毎に自分の考えを書く時間がとれない。今回のような場合、授業の途中はメモ程度の記録とし、最後の振り返りで文章に表し、しっかり自己を見つめるようにさせることができた。
- (3) 「多面的・多角的に考えさせるための話し合いの工夫」について
- トリオ学習を取り入れ、相互指名することで発言しやすい雰囲気を作ることができた。また、班の仲間以外の意見を聞くことで多面的・多角的に考えさせることができた。
 - 恩師杉浦先生の働き方や生き方をとらえていく中で、主人公の心の変化について考えを深めることができた。
 - 生徒の考えを深めさせるため、話し合いの中で気持ちを揺さぶる発問を投げかけ、迷いや葛藤を引き出すことにつなげる工夫が必要だと感じた。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

事後研究会では、「自我関与の場面で出された意見の理由を、生徒にもう一步踏み込んで聞くことで考えに深まりが出たのではないか」という意見が出された。しかし、教材の主人公や恩師杉浦先生の生き方を通して、勤労の尊さや社会に奉仕する心情を考えることができたと思う。最後に働くことが周りや社会に与えるものについて考えさせたが、中には考えることが難しい生徒もいた。評価の際には、考えられたかどうかだけで評価するのではなく、考える姿勢についても評価するなど、実態に応じた評価を積み重ねていくことが大切だと思われる。また、発表の際に上手に話すことができない生徒も見られるが、その都度励ますよう心がけている。今後も実態に応じた評価と継続的な励ましを心がけたい。

安達高等学校第3学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：令和元年 11 月 8 日（金）第3校時

授業者：福島県立安達高等学校 教諭 千葉 崇

授業テーマ	資料の読み取りや友達との話し合いを通して、過去の振り返りと自分自身のこれからを考える授業
-------	--

- 1 主題名 未来のために自分ができること（よりよく生きる喜び）
- 2 教材名 ふくしまの復興の歩みとこれから【自作資料：生徒の手記、新聞記事】
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について（価値観）

人間は忘れる生き物であるということを前提にしてみると、あることを思い出す、振り返る時間をもつということが大切である。それは、自分がよりよく生きるために、その時々で深く考えさせられたことや大切だと感じたことを見つめ直すことに繋がるからである。2011年3月11日の東日本大震災と、それに伴う津波、東京電力福島原子力発電所の事故により、私たちのふるさとふくしまは大きく変わってしまった。多くの命が失われ、多くの人が避難を余儀なくされ、深い悲しみと困難に直面した。その中で、福島県民は、命の尊さ、ふるさととのよさ、人の温かさを、その時のそれぞれの立場で深く胸に刻んだことだろう。しかし、それから約10年が過ぎようとしている現在、震災のことを意識して考える機会は少なくなっているのではないかな。ましてや生徒たちは猶更のことである。

そこで、震災のことを客観的に振り返ったり、今の自分の考えと比べて考えたりすることで、生徒たちにこれから起こりうるであろう困難や災害などに対して、どのように対峙していけばよいのかを考える機会をもたせたい。そして自分は何を大切に生きていくのか、今できることは何なのかを考えさせる。それにより未来をよりよく生きていくことに繋げられればと思う。

(2) 生徒の実態について（子ども観）

現在高校3年生である生徒たちは、2011年3月11日は小学校3年生（8～9歳）であった。その年齢で経験した震災の記憶は曖昧で断片的であり、福島の復興や原発関連諸問題、その他ニュースに関してもおそらく関心は薄いものと考えられる。しかし、本校はユネスコスクールとしてESD（持続可能な開発のための教育）を通して、様々な課題に対して調査、発表を行ってきた。特に、福島における放射線の状況、世界の中の日本や福島について探究する学習を通して、身の回りの出来事を自分事としてとらえてきている。このようなESDを通して学んできたことを生かし、自分たちの未来を意識して考えて欲しい。高校3年生という、それぞれの道を歩もうとしている今だからこそ、そのことを考える価値は大きいと考える。

(3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）

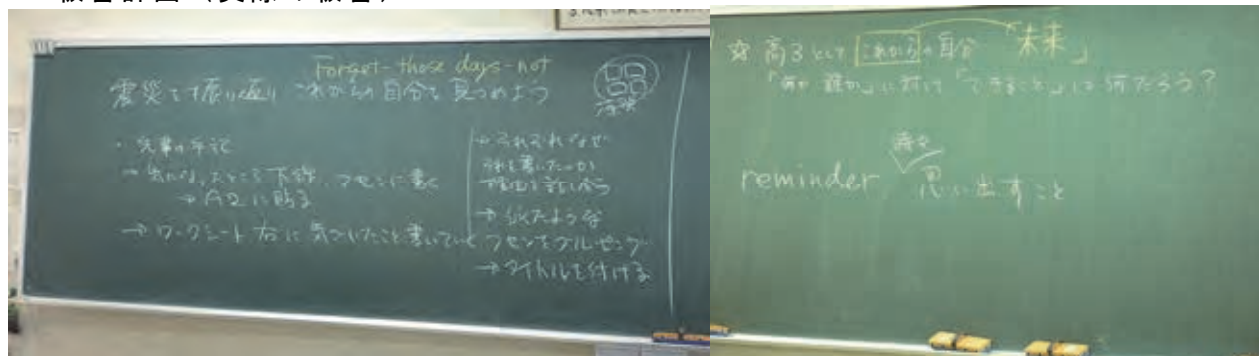
以下の資料を用いてグループでの言語活動の場を提供し、他者の考えを共有することで多角的・多面的な見方・考え方に気付かせながら、自分の考えをもたせたい。自己を見つめ直し、未来をよりよく生きようとする意識・価値観を育成したい。

- ・ 自主作成プリント（出来事の振り返りシート、これからできることを考える）
- ・ 先輩の手記（経験年齢による視点の違いを認識する）
- ・ 朝日新聞 2012.2.29 震災関連記事（震災について思い出す reminder）

4 本時のねらい

震災を振り返り、現在の自分自身の見つめ直しや未来の自分の在り方を考察する活動、それらを共有する活動を通して、他者と共感し、尊重する態度を育みながら、自己肯定感や自己有用感を育成する。

5 板書計画（実際の板書）



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 東日本大震災のことを想起する。 (ワークシートに記入) ・震災の事を思い出した。 ・家族は何をしていたか思い出した。 ・原発は今どうなっているのか。 ・よく覚えていない。	5	○ 震災時には多くのことを考えたはずだが、現在では震災や復興について意識していないことを確認する。思い出す、振り返ることが大切だということに気付かせる。 ○ 事前に、震災で大きな被害を受けたり避難したりした生徒などがいないかを把握し、いる場合には提示する資料や教師が使う言葉について、十分に配慮する。
展開	2 先輩たちの手記を読み、先輩たちが震災を当時どうとらえていたかを読み取る。 ・自分たちが読み取ったことをワークシートに書く。 ・班内で各自が何を読み取ったのか付箋に書いて貼る。共有し、グルーピングする。 ・班を移動し、それぞれの班の読み取り方やグルーピングを見て回る。	30	(先輩の手記を配付) ○ 今の自分たちと同じ年代の人が当時をどのように感じていたかを意識させる。 ○ 複数で話し合うことを通して、資料からも、様々な考えや思いがあることをとらえ、自分の大切にしたい考え方や生き方に気付くことができるようにする。 ※ 自分の経験を想起して、その時の考えや思いを様々な角度から見つめている。
開	3 ◎震災の経験、ESD活動を通して、自分が何かに対してできることを考えよう。 ・家族に対して笑顔で接したい。 ・命を守る大切さを伝えたい。 ・今は勉強することが大切だ。	10	○ キーワードで考えさせることで、その言葉の根拠を見つめさせたり、同じ言葉で考えた友達の考えに関心をもたせたりする。 ※ これからの自分の生き方を思い描きながらできることを考えたり、伝えたりしている。
終末	4 教師の説話を聞く。	5	○ 今日の授業を通しての、教師自身の気づきや学び、人生観などを生徒に話して聞かせる。(新聞記事)

7 考察

質の高い多様な指導方法の視点から

- (1) 「生徒自身が興味・関心をもち、主体的に考えるような課題を見つける」について
- 「思い出す」ことの重要性に焦点を当てて、前日の生活の様子や、直近の台風 19 号災害について問いかけ、身近な生活や経験から本時の題材につなげる手立てとなった。
 - 本時は東日本大震災についての教材であった。東日本大震災は、生徒にとっても大きな出来事であったため、自分の経験に基づいて、どの生徒も主体的に考察することができた。
 - 教材として、本校の先輩が書いた手記を用いたことで、今の自分たちと同じ年代の当時の先輩の経験がどのようなものだったのかを知り、自らの経験と先輩の経験を比較しながら考えることができていた。
- 
- (2) 「グループ活動を通して、様々な意見や考えを聞き、多角的な見方や考え方を培うようにする」について
- 先輩の手記を読み、どの手記に注目したかについて、それぞれの生徒が、自分の意見を発表し、思いや考えを共有することができた。
 - KJ 法により意見を出し合い、まとめることにより、震災当時の多種多様な経験を自分事として想起することができた。多様な視点・意見を整理しながら、自分とのかかわりについて考えていた。
 - 他グループの活動を見て回る時間を取ったので、より広い視点から活動を振り返ることができた。
 - グループの活動を全体で発表・共有したり、板書してまとめたりする時間が取れなかった。効果的な資料の活用について工夫したい。
- (3) 「他者の考えとの比較を行い、課題に対するより最適な解について、検討することにより考えを深める」について
- 先輩の手記に関して、気付いたことをワークシートに書き出し、グループで話し合っ

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- グループワーク中に、生徒の意見について共感したり、問いかけをしたりした。教師の働きかけの後には、議論が活発になる様子が見られた。
- 生徒の感想には、「震災当時の私の視野は“私”しかなかった。震災をきっかけに先輩達が変わっていったように、私も変わっていきたい」というものがあり、よりよく生きようとする考えが見て取れた。

長瀬小学校第3学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年12月 6日（金）第2校時

授業者：猪苗代町立長瀬小学校 教諭 五十嵐彩

授業テーマ	ゲストティーチャーや役割演技の活用を通して、自分達の生活がたくさんの人々に支えられていることに気付き、お世話になった人々に尊敬し感謝する心情を育てることができる授業
-------	--

1 主題名 尊敬し感謝する心 B—（8）感謝

2 教材名 がんばらやんばい （出典：ふくしま道徳教育資料集第Ⅱ集）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、自分の日々の生活は多くの人々の支えがあることを考え、広く人々に尊敬と感謝の念を持つことに関するものである。よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であり、その根底には、相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。

第3・4学年の段階では、自分を取り巻く環境への理解が深まるとともに感謝する対象が家族など日頃世話になっている身近な人々に加え、日常の生活を支えている地域の人々や、現在の生活の礎を築いた高齢者などの先達へと広げるようにすることが求められる。そのため、自分の生活を支えてくれる人の思いを考え、尊敬と感謝の思いをもって接することができるようにすることが大切である。

（2）児童の実態について（子ども観）

本学級は、男子5名、女子4名、計9名の学級である。3年生になり、低学年の児童のよい手本となるような行動を心がけたり、委員会活動で他学年の教師や上学年の児童に教わりながら新しい活動に取り組んだりするなど、学校における生活の仕方に変化が見られる。自分のできることが増えているものの、心の面では、まだ自己中心的に物事を考える傾向にあり、「やってもらって当たり前。」と甘えの気持ちがまだ多く見られ、周りの人への尊敬や感謝の思いが十分に育っていない。

（3）教材について（教材観及び指導観）

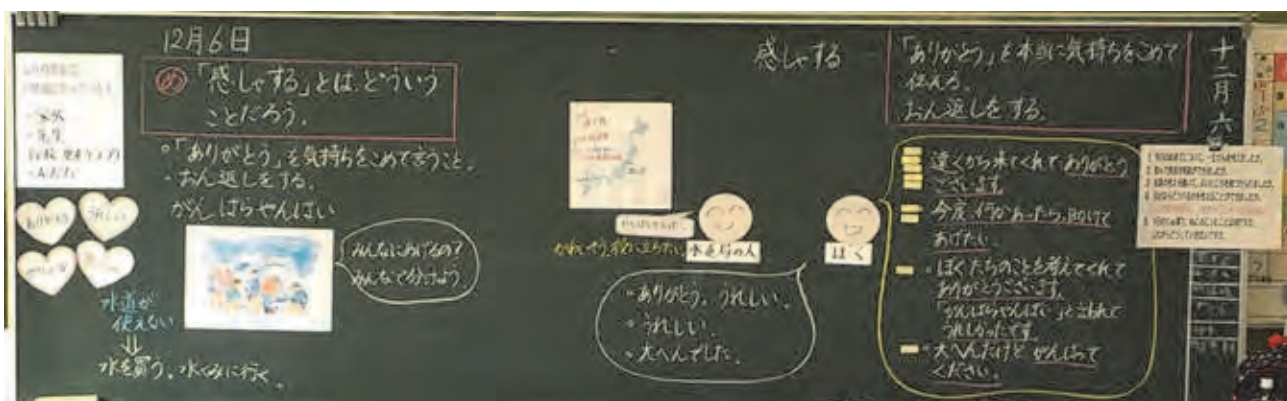
本資料の主人公は、東日本大震災により、生活用水の確保のために給水所に並んだ。給水所では、福岡県久留米市の水道職員が給水の世話をしていた。主人公は、遠く離れた地域からかけつけてくれた人々の支えがあって、水を確保できることに気付く。

そこで本時では、ゲストティーチャーや役割演技の活用を通して、たくさんの人々に支えられていることに気付かせ、人間社会の温かさを感じさせるとともに、感謝の思いを、身近な人々から多くの人々に広げさせたい。そして、自分達の生活を支えている人々やお世話になった人々を尊敬し感謝する心情を育てたい。

4 本時のねらい

自分達の生活を支えている人々やお世話になった人々を尊敬し感謝する心情を育てる。

5 実際の板書



4

ふくしま道徳教育資料集を
活用した授業実践

6 学習過程

	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 ねらいとする道徳的価値の方向付けをし、学習課題を設定する。 (1) 毎日の生活の中でお世話になっている人々について想起し、話し合う。 ・家族 ・先生 ・友達 (2) 本時の学習課題を設定する。 ○「感謝する」とは、どういうことでしょうか。 ㊦「感しやする」とは、どういうことだろう。 ・相手に、「ありがとう」と言うこと。	5	○ 事前に、毎日の生活の中でお世話になっている人々についてのアンケートをとっておき、結果を提示する。 ○ この時点での感謝についての捉え方をノートに書かせておく。
展開	2 「がんばらやんばい」を読んで考え、話し合う。 (1) 「がんばらやんばい」の範読を聞き、ゲストティーチャーの校長先生から東日本大震災時の郡山市の様子を聞く。 (2) 「ぼく」の気持ちについて考える。 ○お父さんとお兄ちゃんが地域の人達に水を分けているのを見て、ぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・せっかくくんだ水なのに・・・。 ・みんなで協力してくんだ方がいい。 ○水道局の人が、福岡県から来ていたことを知って、ぼくはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・遠い所から来てくれてうれしい。 ・協力してくれてうれしい。 ◎「ぼく」は、水道局の人に何を伝えたいのでしょうか。 ・助けてくれて、ありがとうございます。 ・ぼくも、自分ができることをみんなにやっていきたいです。	22	○ 郡山市在住の校長先生から、東日本大震災時の郡山市の様子を聞くことにより、水道が使えないことの大変さを自分のことと関連させながら理解させる。 ○ 水が入ったペットボトルを持つ体験をさせ、水の重さを体感させる。 ○ 水くみをしている場面絵を提示し、お父さんやお兄さん、地域の人達の表情に注目させる。 ○ 郡山市と久留米市の場所が示された日本地図を提示し、水道局の人が1400km離れた所から15時間かけて来てくれたことを理解させる。その上で、水道局の人の思いや「ぼく」の気持ちを考えさせる。 ○ 書く活動を取り入れ、「ぼく」が水道局の人へ伝えたいことを考えさせる。 ○ 「ぼく」の役割演技を取り入れて話し合うことを通して、水道局の人への感謝の思いに気づかせる。 ※ 自分達の生活がたくさんの人々に支えられていることに気づき、感謝の思いについて多面的に考えることができたか。 (発言・記述)
開	3 学習課題について考える。 (1) 「感謝する」とはどういうことかについて考える。 ・感謝の言葉を、心をこめて伝える。 ・恩返しをする。	8	○ 書く活動を取り入れ、導入における捉え方と比較させる。 ※ お世話になった人々を尊敬し感謝することの意義について考えを深めることができたか。 (発言・記述)
終末	4 学習の振り返りをする。 ○今日の学習を振り返りましょう。心に残ったこと、これからどうしていきたいかをノートに書きましょう。	10	○ 書く活動を取り入れ、児童一人一人が自分を見つめ、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。

7 考察

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1)「教材提示の工夫」について

- 東日本大震災時に0歳であった児童にとって、当時の記憶はほとんどないと言える。そこで、資料の範読の後に、郡山市在住の校長先生をゲストティーチャーとして、当時の郡山市の様子を伝えた。児童は、真剣に話を聞く姿が見られ、水道が使えないことの大変さを自分のことと関連させながら理解することができた。
- 水が入ったペットボトルを持つ体験をさせたことにより、水の重さを体感させ、資料を自分のこととして捉えさせることができた。



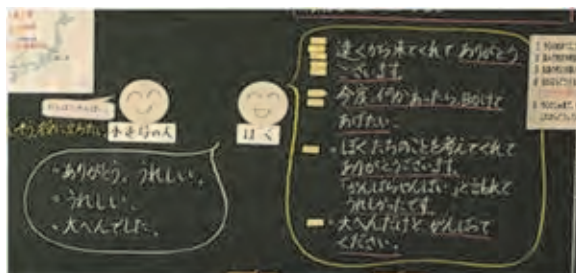
(2)「発問とコーディネート」について

- 中心発問を、「『ぼく』は、水道局の人に何を伝えたいのでしょうか。」として、「ぼく」の役割演技を取り入れて、伝えたいことを発表させた。全体で話し合うことを通して、水道局の人への感謝の思いに気づかせることができた。
- 水道局の人に伝えたいことについて多様な意見を出させて、話し合いをコーディネートすることにより、感謝の思いについて多面的に考えさせることができた。
- 役割演技を見ていた観者からの感想をより多く引き出し、多面的・多角的な見方ができるよう、話し合いのコーディネートをさらに工夫していきたい。



(3)「板書構造やノート」の工夫について

- 心情図や登場人物の表情、吹き出しや児童の名前磁石などを活用して、児童の考えを可視化した構造的板書を工夫したことにより、自他の考えの広がりや深まりを実感させることができた。
- 授業の導入と展開後半において、本時の価値内容である感謝についての児童の捉え方をノートに書かせることにより、学びの深まりを実感させることができた。また、板書の写真をノートに添付させることにより、学びの継続性をもたせることができた。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 評価の視点を、「多面的・多角的な見方に発展しているか」、「自分自身との関わりでの価値理解ができているか」の2点に絞り、手立てを講じて授業を展開したことにより、1時間での児童の変容を捉えることができた。
- 授業の終末に、以下の4観点（①～④）について4段階で自己評価をさせ、授業の感想（⑤）を自由記述させることにより、評価の累積を図った。

- ① 今日のめあてについて、一生懸命考えましたか。
- ② 進んで発言や発表ができましたか。
- ③ 友達の考えを聞いて、よいところを見つけられましたか。
- ④ 自分ならどうするかを考えることができましたか。
- ⑤ 今日の授業で、心に残ったことは何ですか。これから、どうしていきたいですか。

児童の感想に教師からの認め励ますコメントを入れ、児童一人一人の変容を捉えることができた。

- 授業のどの場面で、どのような手立てを講じて評価するのかを構想し、子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価を目指していきたい。

田島小学校第3学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年12月16日（月） 第4校時
授業者：南会津町立田島小学校 教諭 鈴木 芳崇

授業テーマ	「友達のよさ」と自分の行動を振り返りながら、これからの生活で友達と助け合っていくことの大切さに気付き、具体的な方法を話し合うことができる授業
-------	--

1 主題名 友達の大切さ B—（10）友情・信頼

2 教材名 舞台の上で（出典：福島県教育委員会「ふくしま道徳教育資料集〔補訂版〕第Ⅱ集」）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

友達は、互いに分かり合うことで心が通じ、確かな友情が生まれる。相手を信頼し、友情を育んでいくことは、豊かな人生を送る上で極めて重要である。竹馬の友と言われるように、小学生段階での友達関係の大切さを踏まえ、友達を信頼すること、裏切らないことなどをきちんとおさえて指導することが必要である。

小学校中学年の時期は、集団での活動がこれまでになく盛んになる時期であり、望ましい人間関係を形成していくことが大切である。本資料では、震災後、避難してきた転校生を受け入れる側の児童と、新しい環境になかなか馴染めずにいる転校生が、伝統芸能である「子ども歌舞伎」を通して、徐々に仲間となっていく姿から友達の大切さを再認識させたい。

（2）児童の実態について（子ども観）

中学年になり、活動範囲が広がり、仲間意識の発達がめざましい。そのため、友達を大切にし、交友を深めようとする気持ちが強い。しかし、その反面、自分本位の考えで行動することも多く、友達同士のトラブルも多い時期である。日常生活でも、友達からされた嫌なことには過剰に反応するが、同じことを自分がやっても嫌なことをしているという意識がなく、トラブルになることがある。相手の気持ちを考えた行動をさせることで、友達と互いに助け合い、高め合うことができるよさに気付かせたい。中学年で行った、2回の道徳アンケートの結果を見ると、「反省する心」「ありがとうの心」のポイントが上がっている。トラブルを繰り返す中で、自己中心的な考えから、友達を思いやる考えへと変わってきていると考える。

（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

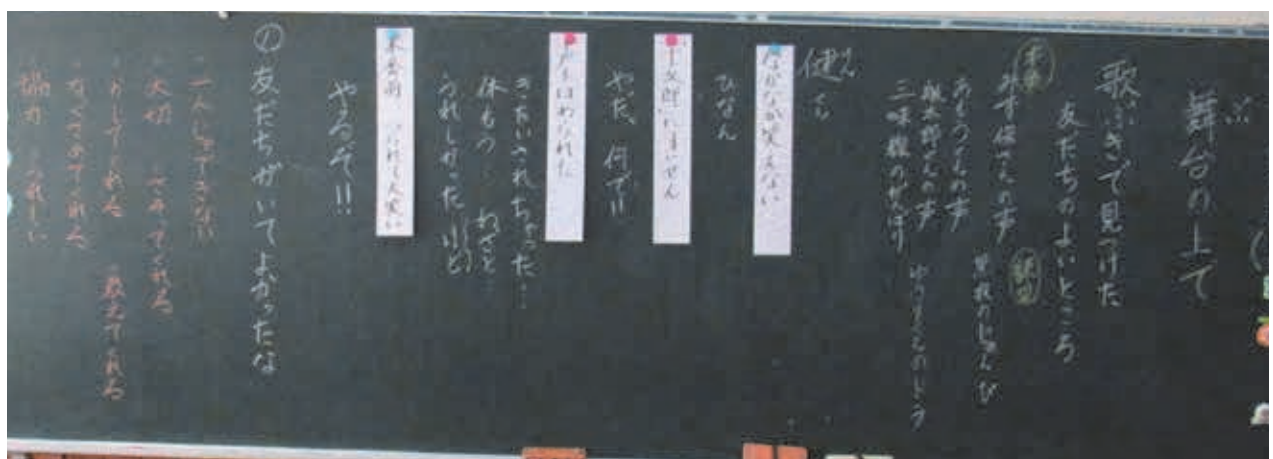
資料は、震災のショックで笑うことを忘れた転校生が、何とか元気を取り戻してほしいと願う受け入れ側の友達と一緒に「子ども歌舞伎」を練習することで、少しずつ笑顔を取り戻していく。やがて、友達の一生懸命さや友情に触れ、自分も負けてはいられないと奮起していく。

震災以降、それまでとは全く違う環境で、日常生活や学校生活を送った児童がたくさんいる。しかし、どんなときでも支えてくれる友達がいるから乗り越えていけるということを再認識する機会にもなった。今いる友達のよさやがんばりに気付き、集団の一員として協力して仲良くしていこうとする心情を高めたい。

4 本時のねらい

友達のよさについて考える活動を通して、互いに理解し合い信頼し助け合おうとする心情を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1 歌舞伎公演を振り返り、友達のよさを発表する。 ・セリフの声が大きかった。 ・たくさん練習していた。 ・間違えたところを、すぐに台本で確認していた。	5	○これまでの歌舞伎練習や本公演から気付いた「友達のよいところ」を発表させることで、友達について考える授業であることを意識させる。 ○一人ではできなかった舞台であったことを意図的に取り上げる。
展開	2 「舞台の上で」を読んで話し合う。 (1) なかなか笑うことができなかった健の気持ちを考える。 ・不安 ・ひとりぼっち ※震災による避難 (2) 歌舞伎の練習を始めてからの健の気持ちの変化を考える。 【「十次郎」に推薦されたとき】 ・やりたくないのに役までついて… 【声を褒められたとき】 ・照れくさい 【役者以外のがんばる姿を見たとき】 ・負けていられない (3) 本番前に、「つられて大笑いした」時の健の気持ちを考える。 ・友達と分かり合えた ・一つになれた	15	○教材を範読し話の筋をつかませる。 ○学級活動で学習した震災の状況と合わせ、主人公の思いを考えさせる。 ○健の気持ちの変化を自分の言葉で友達に伝えさせることで、その心情を実感させる。
開	3 「友達がいてよかったな」と思った経験を振り返り、話し合う。 ・付箋に記入し、シートに貼りつける。 ◎ 「友達がいてよかったな」という経験はありませんか。	10	○友達の発表を聞いて、どんな思いかを考え話し合い、友達の大切さを感じさせる。 ※友達のよさについて、どんな気持ちかを考えることができたか。 (ワークシート・発表)
開	4 友達の大切さを標語にして発表する。	10	○標語にすることで、思いを端的に表現させ、大切にしようという思いを高める。
終末	5 友達の大切さを感じて助け合っていくことを確かめる。	5	○歌舞伎公演を全員で成功させたことから、今後も助け合う仲間であることを考えさせる。 ○何でも助けてあげることが友情ではないことに触れながら、助け合う学級にすることを伝える。

7 考察

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

- (1) 「お互いによさを認め合い、相手の立場に立って相手を理解することができる子どもの育成」について
- 小グループでの話し合いをすることで、友達の意見を聞いたり、自分の意見との比較をしたりしやすくし、友達をより身近な存在と感じられるようになった。また、全体での発表が苦手な児童にとっては、考えを表現し交流を図る場として有効であった。
 - 標語に表すことで、授業の中で考えた自分たちの思いを目に見える形で残すことができた。授業後、教室に掲示することで、今後の生活の中で振り返りの場として活用できた。
 - 標語を作る活動に意欲的に取り組んだが、予想以上に時間がかかってしまい、作ることに重点が置かれてしまった。キーワードとなる言葉を色分けするなどの板書の工夫が必要であった。
- 
- (2) 「課題を自分事と捉え、自分の考えをもつことができる子どもの育成」について
- ワークシートを活用することで、自分の考えを視覚的に整理することができた。また、付箋を活用することで、整理した自分の考えを順番に貼りながら発表することにより、児童が自分の考えを明確に伝えることができた。
 - 書いた付箋を貼ってしまうことで、手元に自分の考えが残らなくなってしまった。また、発表しながら付箋を貼ったが、みんなの意見が一つの紙に集まっただけとなった。ワークシートの工夫により自分の考えが手元に残るようにしたり、書かれた内容により付箋を分類することを指導したりする必要があった。
- (3) 「地域のよさを知り、相手を思いやることができる子どもの育成」について
- 4月から総合的な学習の時間に取り組んできた歌舞伎を題材とした教材であり、歌舞伎の公演後に授業を設定したため、場面の様子を想像しやすくする効果が生まれ、教材文を範読するだけで内容を十分に理解させることができた。
 - 主人公の気持ちの移り変わりについて、十分に捉えきれなかった児童がいた。子ども達にとって身近な歌舞伎を題材にしたことにより、第三者としてではなく、自分の経験を先行させて捉えてしまった。ワークシートを工夫するなどして、主人公の心情をしっかりと捉えさせるための手立てが必要であった。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

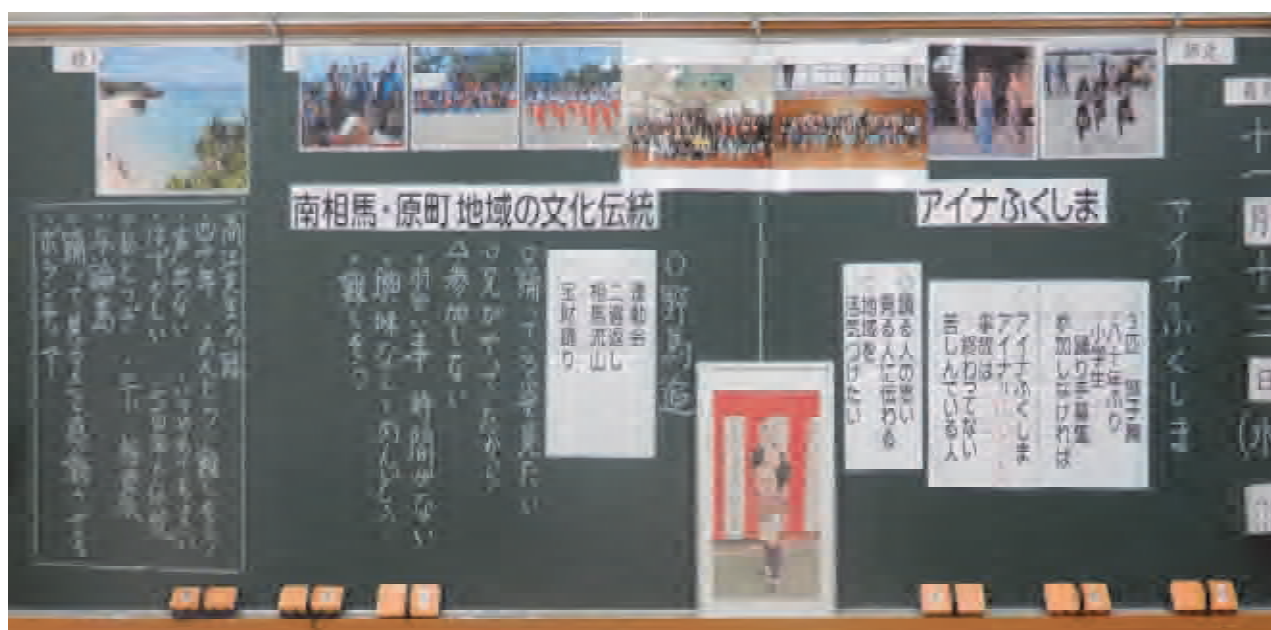
- (1) 「児童がより多面的・多角的な見方に発展しているか」の評価について
- 導入の「歌舞伎公演を振り返り、友達のよさを発表する。」の場面では歌舞伎公演で担った役割の異なる児童を意図的に指名することにより、多様な考えを引き出すことができた。
 - 学年で取り組んできた歌舞伎を題材とした資料だったため、児童は、自分の体験と重ね合わせながら資料を読むことができた。その上で、自分たちとは異なる体験をしている主人公についてより深く考えることにつながった。
 - 「友達がいてよかった」経験を話し合う時間を十分に確保し、学級全体で多様な意見の交流を図りたかった。「標語を作る」活動を削るなど内容の精選が必要であった。
- (2) 「道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか」の評価について
- 資料についての学習の後、主発問を各児童の「友達がいてよかった」という経験を問うものに設定した。それにより、資料についての学習を踏まえて自分自身のことを振り返ることができた児童が多かった。
 - 「友達がいてよかった」という経験だけでなく、「友達とのトラブルで困った」などの経験についても話し合い、道徳的価値を実現することの難しさについても考えを深めさせる必要がある。

原町第三小学校第6学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月13日（水）第5校時
授業者：南相馬市立原町第三小学校 教諭 鈴木 岳
ゲストティーチャー 1名

授業テーマ	ゲストティーチャーの活用を通して、これまでの自分を見つめ直し、郷土の文化や伝統について深く考える授業
-------	--

- 1 主題名 伝統や文化を受けついで C-（17）伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
- 2 教材名 「アイナふくしま」（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集）
- 3 主題設定の理由
 - (1) ねらいとする道徳的価値（価値観）
自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送る上で心のよりどころとなるなど大きな役割を果たすものである。自分の郷土のよさを見つけて、郷土を愛することは、日本を愛することにもつながる。
我が国や郷土の伝統を継承することは、長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術などを大切にし、それらを次代に引き継いでいくということである。「アイナふくしま」の資料から、身近な南相馬市、原町の伝統文化へと目を向けさせていくことは、児童に郷土愛を育む上で有効であると考えた。
 - (2) 児童の実態について（子ども観）
本学級は、男子11名、女子16名、計27名の学級である。郷土のよさを大切にすること、しなければならないことは全員が理解している。しかし、郷土の文化や伝統とは何か、先人にはどんな人がいてどんなことをしたのかなど、郷土のよさについては、まだ知らないことや実感していないことが多い。
「宝財踊り」「二遍返し」「相馬流山」などは、運動会で地域の方の指導を受け、真剣に練習に取り組んだ経験がある。事前のアンケートでは、「なぜ、参加したか」という問いに対して、「地域の伝統」などと答えた児童はごく少数であった。「参加しなかった理由」については、「興味がない」、「習い事で時間がない」という答えが多かった。しかし、全員で踊った「相馬流山」や「二遍返し」では、「みんなで踊って楽しかった」という感想も見られた。
 - (3) 教材及び指導について（教材観及び指導観）
我が国の国土や産業、歴史などの学習を通して、それらの様子や我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産に目が向けられるようになることから、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、更に発展させていこうとする態度を育てることが大切である。
指導に当たっては、機会を捉えて我が国の伝統や文化などを話題にしたり、直接的に触れたりする機会を増やすことを通してそのよさについて理解を深めることが求められる。本時は、ゲストティーチャーに参加いただくことで、伝統や文化を育んできた郷土を受け継ぎ発展させようという心情を育てたい。
- 4 本時のねらい
郷土の文化や伝統を育てた先人の努力や気持ちを考える活動を通して、郷土のよさを大切に、郷土を愛する心情を育てる。
- 5 実際の板書



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される児童の反応)	時間	○ 指導上の留意点 評価
導入	1 「アイナふくしま」の内容を確認する。 ・三匹獅子舞の復活 ・地域を活気づけ、震災を乗り越えたいという思い ・週2回、1時間半の練習 ・大変。参加しなければよかった	5	○ 事前に資料を読ませておき、全体では内容の確認を行うことを中心にする。 ○ 「アイナふくしま」の映像を見せ、本時の内容への興味を高める。 ○ 気持ちが変わったきっかけになったことを確認し、本時の課題につなげる。
展開	2 自分たちの地域である南相馬・原町に昔から伝統的に伝わっているものを出し合う。 ・野馬追 ・宝財踊り ・二遍返し 3 学校で取り組んだ「宝財踊り」「相馬流山」「二遍返し」について話し合う。 (1) 自分が参加した理由、しなかった理由を発表する。 ○ 参加した人、しなかった人はそれぞれどんな理由からですか。 ・地域の伝統だから参加した。 ・習い事があって参加できなかった。 ・みんなで踊って楽しかったから。 ・あまり興味がなかったから。 (2) ゲストティーチャーの話を聞き、伝統を受け継ぐ難しさについて考える。 ◎ 地域の人たちは、どんな思いで伝統的な歌や踊りを伝えているでしょう。 ・地域の方々の思いを引き継いでいる。 ・苦労をしながら練習している。 ・自分の時間を犠牲にしてみんなのためにがんばっている。 (3) グループで話し合い、発表する。 ○ 自分の思いとゲストティーチャーの思いを比べ、どのように思いましたか。友達とも話し合ってみよう。 ・踊りやお囃子への思いが強い。 ・今度は参加してみたい。 ・大人になったら受け継いでいきたい。	8 20	○ 総合的な学習の時間との関連から、調べたことを発表できるようにする。 ○ 予想されるものの写真や絵を提示し、ねらいとする価値について想起しやすいようにする。 ○ 事前アンケートにより児童の思いを把握しておき、意図的指名に生かす。 ○ それぞれの立場、理由を認め合い、安心して語り合ったり、思いをつなげたりすることができるように傾聴する。 ○ 児童が自己の体験等と重ねて捉えることができるよう、ゲストティーチャーにはインタビュー形式で回答いただくように配慮する。 ○ 児童が自分との共通点や相違点などに気付くことができるよう、児童のつぶやきや反応を見取る。 ○ 3～4名のグループで意見を交流させることで、考えを深めることができるようにする。
終末	4 授業を通して、感じたことや考えたことを、「ゲストティーチャーへのメッセージ」として書く。 5 教師の説話を聞く。	10 2	○ 書き出し部分が指定してあるワークシートを用いて書かせるようにする。 ○ 意図的指名をし、2～3名の児童に発表させる。 郷土に対する思いを深めたり、広げたりすることができたか。 (ワークシート) ○ 教師の郷土に対する思いを語り、郷土の伝統について考えていこうとする心情を高めるようにする。

7 考察

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1)「道徳的価値への方向付け、問題意識をもたせるための課題提示の工夫」について

- 「アイナふくしま」の資料を事前に読ませておくことで、ゲストティーチャーや地域のことに
ついて考える時間を増やした。
- 事前にアンケートをとり、児童の考えを把握しておくことにより、意図的指名につなげること
ができた。
- 運動会で地域の伝統芸能に取り組んだ際の児童の写真を活用することで、資料の内容を身近に
感じたり、体験をもとにした学習活動につなげることができた。
- 本時では、資料にあまり時間をかけず、地域の伝統芸能について重点を置いて授業を行ったが、
「アイナふくしま」が「郷土愛」という明確な目的があつての教材であるため、もう少し大切に
扱ってほしい、という意見があつた。

(2)「登場人物への自我関与や道徳的な問題を多面的・多角的に考えるための発問、板書の工夫」に ついて

- 登場人物の心の変化のきっかけとなる事象からゲストティーチャーの実際の話につなげること
により、資料と自分の地域である原町を対比しながら考えることができた。
- 3～4人の小グループでの話し合いを行うことにより、友達同士で考えの交流が活発となり、異
なる考え方、感じ方に接しながら、考えを深めることができた。
- 板書を左右に分け、右を資料中心、左を地域中心にまとめた。ゲストティーチャーについては、
授業の展開から、黒板の左端と上部にまとめて記述するなど、
話し合いにつなげるための意図を明確にした板書ができた。
- 中心発問がふさわしかったかや、発問構成等がやや誘導的に
なりやすいので、引き続き課題として研究を続けていきたい。

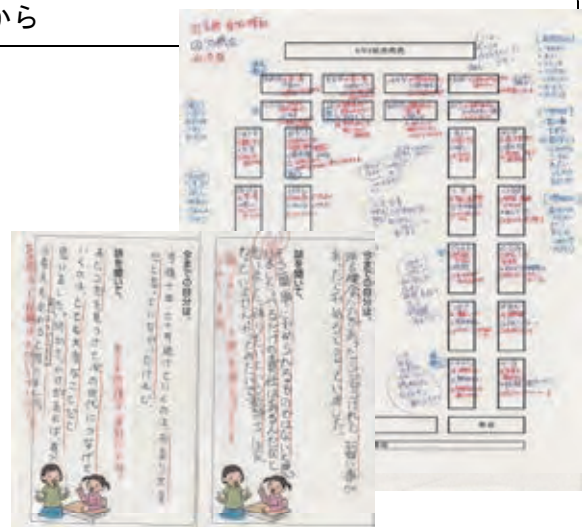


(3)「問題場面の把握や登場人物の心情をとらえるための体験活動 の工夫」について

- ゲストティーチャーを活用することにより、児童は集中して
話を聞くことができた。実際に活動している方の話は説得力が
あり、児童が考えを深めたり、広げたりすることに寄与した。
- ゲストティーチャーと打合せをするために、事前に学校に來
ていただいた。その際に、別の学級で事前授業を行ったこと
により、授業の内容や進め方について改善を図ることができた。
- ゲストティーチャーの話を聞き、「個人」で感じたことや自
己の変容に向き合う時間と場を、十分に確保できればなおよか
った。
- グループでの話し合いの論点が、「伝統を受け継ぐ方法」にな
ってしまっていたため、「心情」に迫るための補助発問が必要
であった。

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 事前アンケートを、授業や発問の組立てに役立
てることができた。
- 少数意見側が言いにくい傾向があるが、「正直で
よい」と教師が児童の素直な思いを受容すること
により、意見を言いやすい雰囲気を作ることがで
きた。
- 振り返りを通して、地域の伝統芸能に対する思
いの変化を児童自身が自覚することができていた。
- ゲストティーチャーへの手紙には、伝統文化に
対する児童のいろいろな思いが書いてあつたが、
児童の学びの様子や記述等をどのように評価に生
かしていくのか、評価の視点の明確化が必要であ
る。
- 少人数のグループでの話し合いの内容を丁寧に関
き取ったため、発表に時間がかかってしまい、終
末にじっくりと時間をかけられなかった。



天栄中学校第2学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月15日（金）5校時

授業者：天栄村立天栄中学校 T1 武田奈緒子

T2 橋本高尚 T3 林和茂 T4 佐々木渚

授業テーマ	資料の人物に自分を投影し、その人物の感情や判断を理解しながら話し合い、多面的・多角的に考えを深める学年道徳の授業 ～道徳的価値を多面的・多角的に考察できる「ジャンプ発問」を通して～
-------	---

- 1 主 題 名 感謝の思いに応える B－（6）思いやり、感謝
（関連価値：A－（1）自主、自立、自由と責任 C－（12）社会参画、公共の精神）

- 2 教材名 塩むすび（出典：「ふくしま道徳教育資料集 第一集」）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

中学生は、他人との関わりの中で思いやりや感謝の気持ちを言葉や行動で表現できるようになる時期である。しかし、一方では、自己中心的な判断に陥りやすく、他者を省みない言動をとることもある。自分だけでなく周囲の人もかけがえのない存在であることを認識した上で、多くの人々の善意や支えによって日々の生活や今の自分があることに感謝し、それに応えようとする態度を育てたり、温かい人間愛の精神を深めたりすることは大切なことであると考えられる。

（2）生徒の実態について（生徒観）

2年生は次期3年生を見据えた立場と自覚を求められる時期である。失敗も反省として生かしながら成功体験を味わってきた自分と、なぜ高めることができたのかということ振り返らせ、ともすれば大きな壁に突き当たりがちなこの時期に、思いやりのある他者との関わりへの感謝と、それに応えようとする態度を育むことは、非常に有意義と考える。

本授業の計画にあたり、本時や価値項目に関するアンケートを実施したところ、①人からの支えに感謝の心を伝えたことがあるか（はい・86%）に対し、逆に感謝された自覚は（67%）と低く、また、②相手はかけがえのない人だ（はい・86%）に対し、③自分も相手にとってかけがえのない人間だ（60%）という結果であった。対人的な不安を抱く年齢を十分考慮しながら、相手の思いに素直に応え、信じ合える間柄を築いていこうとする態度を育てていく必要がある。

（3）教材及び指導について（教材観・指導観）

本教材は、避難生活を強いられる中で出会った、自らも被災者でありながら、他者の健康のために心を砕く「おばさんたち」との関わりを題材にした東日本大震災の経験を基にした生徒作文である。思いやりのもたらす心地よい人間関係や、そのなかで気付いた自分をとりまく環境への感謝を覚え、自分も何かしなくてはという高い価値観を得た生徒の姿が描かれている。

本授業では、役割演技を通して登場人物の心情を想像させ、心の変容を生み出した理由に迫りたい。また、教材を分割して提示することにより、道徳的価値についての考えを深めさせたい。その上で振り返りの時間を十分に設定して、一人一人に自分なりの考えをもたせるとともに、考えの交流・共有・発展をねらいたい。

4 本時のねらい

支援される側から支援する側になったことで、周囲の人々の努力や気遣いに気付いていく主人公の心の成長について考えることを通して、多くの人々の善意や支えにより日々の生活や自分があることに感謝し、それに応えようとする態度を養う。

5 板書計画

避難所での役割 ・〇〇先生や〇〇君たちに残ったご飯を食べてもらう ・〇〇先生や〇〇君、〇〇君たちがみんなを笑わせる ・〇〇君、〇〇さんにお年寄りの話し相手をしてもらう ・〇〇先生や〇〇君に子守をしてもらう ・〇〇君に朝のゴミ捨てをしてもらう ・〇〇君に放し出しをしてもらう ・〇〇さんに避難所の人たちとお話をしてもらう	私の気持ち ・早起して良かった ・作ったかいがあった ・塩むすびのように温かくなった ・とても嬉しかった ・心もからだも温かくなった ・そう言ってもらえて嬉しい ・明日はもう少し早起きしようと思った	避難所での役割を提案しよう。誰にまかせたいか。 あつあつ塩むすびがどんな自分を生み出しただろう。 アンケートから塩むすび
---	---	---

【スクリーンでの掲示1】
【スクリーンでの提示2】
【ホワイトボードによる提示】

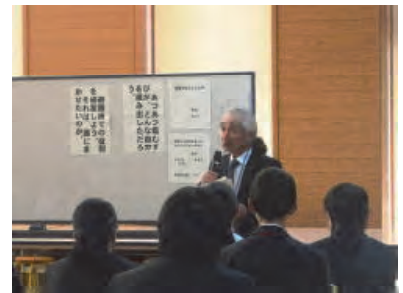
6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される生徒の反応)	時間 形態	○指導上の留意点 ●評価 【研究との関連】
導入	1 価値を意識化する。 (1) 学年のアンケート結果を見る。 あつあつの塩むすびがどんな自分を生み出しただろう。	5 一斉	○ 事前に行ったアンケートの結果を提示し、自分事として捉えさせる。 ○ 教材を朝学習で読ませておくようにする。 ○ 避難所生活をしたことのある生徒に配慮しながら進めるようにする。
展開	2 主人公が塩むすびを提供する場面についてロールプレイングを行う。 (1) 役割を確かめる。 (2) 教師の範読から役割演技につなげて、どんな気持ちになったかを付箋に書く。 ・ うれしくて、照れくさい。 ・ 反対しなくてよかった。 ・ おいしいことは一番。 ・ びっくりした。	5 小集団	○ 7人の役をカードで明示し、交代制で三回程度繰り返し、感じたことを付箋に書き込ませるようにする。 ○ T1～T3はそれぞれのグループに付き、活動が活発に進むよう支援したりつぶやきを拾ったりする。
開前段	3 ロールプレイングを振り返る。 ○ みんなから出された感想を見て、「私」はどうしてそう思ったのか班で交流しよう。 ・ 熱かったが喜ばれて嬉しかった。 ・ いつもしてもらっていたことをする側になったら、やりがいを感じたから。 ・ 元気のない人が笑ってくれた。	5 小集団	【手だて① 学び合い活動】 ○ 小グループで話し合わせるにより、多様な意見を引き出せるようにする。 ○ T1～T3はそれぞれのグループに付き、T2とT3は話合いの中で出された生徒の意見をT1に伝え、意図的指名につなげるようにする。 ○ 多くの人の善意や支えを感じたという意見を取り上げ、意識化する。
	4 主人公の変容について考える。 ○ 食事係のおばさんの言動から自分も何かしなくてはと考えるようになったことに気付く。 ・ 人の力になると気持ちがいい。 ・ 勇気を出せば大変ではない。 ・ 思いやりのある仲は感謝し合える仲。	10 一斉	○ 生徒の発言に対して問い返しを行い、道徳的価値についてより深く考えることができるようにする。 ● 話合いを通して、友達の考えをもとに多面的・多角的に考えているか。(観察・発言)
展開後段	5 ジャンプ発問について考える。 ◎避難所での役割を提案しましょう。それは誰に任せたいでしょうか。また自分なら何をしたいでしょうか。 (1) ワークシートに提案内容と理由を書く。 ○ 普段の学校生活の様子や職場体験での働きぶりを基に考えましょう。 ○ どうして、その仕事を任せたいのか、理由も考えましょう。 ・ Aさんはいつもお掃除をがんばっているから掃除係を任せたい。 ・ Bさんはいつも私に優しくしてくれるから、お話相手になればきっとお年寄りに喜ばれる。	10 一斉	【手だて② ジャンプの課題】 ○ 付箋に提案内容を書かせたものを、スクリーン掲示することにより、多くの考えを可視化できるようにする。 ○ T1～T3は机間指導を行い、生徒の考えを見取るようにする。 ○ 役割を任せたいと思う理由について考えさせることにより、普段は伝えられていない友人のよさや感謝の思いを表出させるようにする。 ● 避難所での役割について、自分の生活を想起しながら友人のよさを踏まえて考えているか。(観察・ワークシート)
終末	6 交流と振り返りを行う。 (1) それぞれの考えを共有する。 ○ 提案の理由を教えてください。 ○ 誰の考えに共感しましたか。それはなぜですか。	10 一斉	○ 友人や自分のよさを生かしている生徒の考えをいくつか発表させ、その提案が感謝に基づいていることを実感できるようにする。 ○ T1～T3は生徒のつぶやきを拾い、意図的指名につなげるようにする。 ● 自分を取り巻く環境や周囲の人々への感謝の念に気付く、それに応えようとしているか。(観察・ワークシート)
	7 ゲストティーチャーの話を聞く。	5	○ 人権擁護委員の方の話を聞くことで、感謝することの大切さなどを違った視点で感じ取れるようにする。

7 考察

「ふくしま道徳教育資料集」の活用の視点から

- (1) 『学び合い活動』に厚みをもたせるための学習過程の工夫について
- 展開場面を「前段」と「後段」に分けた学習過程の工夫により、生徒の意見や思いが数多く表出される充実した学び合い活動を行うことができた。
 - ロールプレイングをしたことにより、展開後段の話合い活動がスムーズになり、避難所の新たな役割について、自ら考え、自分事として話し合うことができた。
 - ロールプレイングの場面では、もう少し細かい演技を取り入れることができれば、さらに自分事として捉えることができたのではないかと。あと一歩、ロールプレイングの手法を工夫する必要があった。
- (2) 「インタラクションの充実を図る『ジャンプの発問』の設定」について
- 台風による水害が発生し、福島県内でも避難所生活を余儀なくされている人がいる時期と重なっていたので、ふくしま道徳資料集の資料「塩むすび」の活用は大変効果的であった。
 - 「塩むすび」の資料から離れて、現実の避難所を想起し、他人のために役立とうとする実践意欲と態度を育むことにつながった。
 - 学年合同で授業を行い、複数の教員で生徒の考えやつぶやきを拾うようにしたことにより、発問に対する多様な考えが表出し、一人一人のよさや可能性を見いだすことにつながった。
 - 身近な人の行為を想起させることによって、生徒が意見を出しやすくなった。そして、「なぜその人にその役割を任せたいか」を考えることにより、周囲の人のよい所や感謝の気持ちを再確認することができた。
 - 「自分なら何ができるか。」「自分は何をするのか。」について掘り下げるような発問をし、より自分事として考える視点をもたせた方がよかった。
- (3) 「リフレクションの時間的な確保とその内容の充実」について
- スクリーン掲示の工夫によって、その場で情報が共有され、多面的・多角的な考察に導くことができた。
 - 総合学習・愛村職場体験での経験を覚えている時期に、ジャンプ発問に関連付けたことで、日頃の感謝と敬意のこもった間柄を反映した意見が数多く表出した。
 - ゲストティーチャー（天栄村人権擁護委員）の話を聞く時間を設定したことで、生徒がこの授業で考え、話し合ったことを違った視点で捉え直すことができた。
 - 自己の考えと他者の考えを比べ、関係付けるため、スクリーンに掲示した内容を印刷して生徒に配付する方法もあった。



ゲストティーチャーによる挿話

子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- (1) 学習状況から
- 心に感じたものを自分の言葉で発言したり、自分の考えとの類似点や相違点を話し合ったりしながら、道徳的価値への理解を深めることができていた。
 - 「ジャンプ発問」により、学級を超えて生き生きと取り組んだ。職場体験などを通して気付いた友人のよさについて、日頃の感謝を込めながら素直に生かした提案が数多く出されるなど、友人の思いやりのある行動に感謝の思いをもつことができていた。
 - 学年という大きな集団で行ったため、細かい部分で個に応じた評価が行き届かなかった部分がある。生徒相互による評価を取り入れ、教師がより一人一人の考えのよさや変容を見取り、評価できるように工夫したい。
- (2) 道徳性に係る成長の様子から
- ロールプレイングによる体験的な学習に真剣に取り組んだことで、その立場に立って考え、自分を振り返り、「思いやり・感謝」の関係と大切さに気付いていた。
 - 友人の考えとその理由をスクリーン掲示や交流を通して可視化することで、自分の考えとの違いや自分の今ある環境が「思いやり」に包まれていることなどについて書き留めていた。
 - スクリーン掲示によって、生徒の考えがリアルタイムに表示されていく工夫はよかったが、生徒の心情の変容や変容した理由なども表示し、考える視点として与えればさらによかった。

泉崎中学校第2学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年11月20日（水） 第5校時

授業者：泉崎村立泉崎中学校 教諭 三浦 淳子

授業テーマ	思考ツールを活用して互いの考えを話し合うことで多面的・多角的な考えを引き出す授業の工夫
-------	---

- 1 主題名 人の思いやりと感謝 B－（6）思いやり、感謝
- 2 教材名 500人の大家族（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅱ集）

3 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について（価値観）

本指導内容は、思いやりの心をもって人と接すると共に、家族などの支えや多くの人々の善意により、日々の生活や現在の自分があることに感謝することである。中学生の時期は、思いやりや感謝は大切だと理解はできるが、支えられることをありがたいと思いつつも疎ましく感じたり、感謝の気持ちを素直に伝える難しさを感じたりする時期でもある。だからこそ、相手の立場や気持ちに対する配慮や感謝の対象の広がりについて考えを深めていく必要がある。特に、思いやりや感謝の気持ちを素直に伝えようとする心を育てることで、日常生活だけでなく、東日本大震災のような非常時にも思いやりや感謝が広がると考えられる。

(2)生徒の実態について（生徒観）

本学級は、積極性がある生徒は少ないが、穏やかに他を受け入れ、学習意欲も高い。積極的に発言する生徒もいるが、指名されれば自分の考えを述べるのが男女共にでき、全体としては和やかな雰囲気の中で道徳科の授業に取り組んでいる。さらに、友人を思いやる気持ちがあり、授業や係活動でも協力して行うことができる。しかし、相手の気持ちに気付かず、嫌な思いをさせてしまう場面も見られる。思いやりを感謝の気持ちで返すことを広げられるような心情や態度を育んでいきたい。

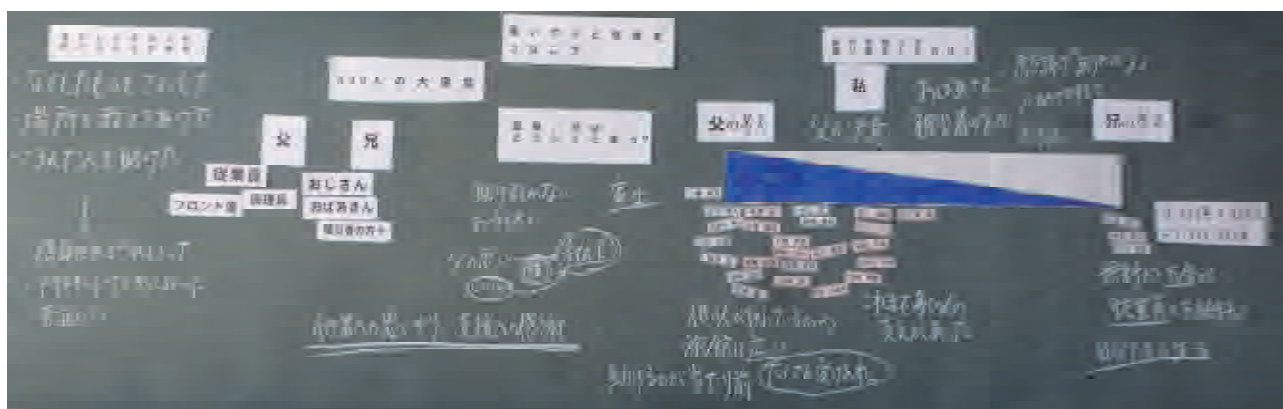
(3)教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は、被害が少なかった会津の温泉旅館が東日本大震災の翌日から、浜通りの被災者を無償で受け入れた話である。原発事故もあり、多くの被災者がやってくる中、主人公は兄と共に、父親の決断に不安をもっていた。しかし、同じ福島県に住む者が被災の大小に関わらず、思いやりながら生きていく姿を目の当たりにし、自分もまた支えられている存在であることに気がつくのである。この教材では、父の決意を受け入れる主人公や兄の心情の変化から、思いやりの心が感謝の心につながっていくことを意識させたい。

4 本時のねらい

東日本大震災時に被災者の受け入れを決断した父に対する主人公や兄の思いの変化について考えを深める活動を通して、思いやりに対して素直に感謝の気持ちを表す態度を育む。

5 板書計画



4

ふくしま道徳教育資料集を
活用した授業実践

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 見ず知らずの人を助けたことがあるかを想起し、主題への見通しをもつ。 ・落としたものを拾ってあげた。 ・電車の中で席を譲った。 思いやりと感謝をつなごう。	5	○日常生活における場面を想起させ、本時のねらいとする価値への方向付けをする。
展開	2 教材について話し合う。 (1) 登場人物を整理する。 (2) 父親の意見と兄の意見のどちらに近いか考える。 父の意見 ・浜通りの人がかわいそう ・困ったときはお互い様 兄の意見 ・旅館がつぶれたら自分たちはどうすればいいの？ ・どうしてそこまでするの？ (3) 私の気持ちを揺り動かしたのは何か考える。 ・おばあさん ・父の考え ・父と兄の会話 ◎ 翌朝兄はどうしたと思うか話し合う。	35 (5) (5) (15) (10)	○教材は、あらかじめ読ませておき、登場人物や話の流れについて確認する。 ○実際の津波による被害や避難した方々を受け入れた旅館の映像を見せ、父や兄の立場などについて考える参考にする。 ○父の意見と兄の意見のどちらに近いか黒板の数直線上にネームプレートを貼り、他の人の考えと自分の考えを比較して考えさせる。 ○じっくり考えることができるようワークシートに書かせる時間を確保する。 ○友達の考えを聞き、自分の考えとの類似や相違を認めながら自分の考えをまとめさせる。 ○最後、兄がどのようにするか、考えたことを話し合わせる。 ○意見を共有し合い、多面的、多角的な考えが持てるようにさせる。 ※自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。(観察) ○意見を尊重し合いながら、互いの考えを伝えたり聞いたりするようにさせる。
終末	3 自分たちの生活を振り返り、思いやりをつなぐにはどうしたらいいかを考える。 (1) 見ず知らずの人に親切にしてどう思ったか話を聞く。 (2) つながるとどうなるか話し合う。 4 今日の授業を振り返る。 ○ 自分自身の「思いやり」や「感謝」について考えを深める。	10	○今日の授業を振り返り、自分の考えの変化について振り返らせる。 ※今までの自分の生活を振り返りながら相手の立場や気持ちを考えたり、思いやりや感謝が大切であったりすることに気付くことができたか。(ワークシート・振り返りシート)

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1) 「言語活動の充実を通して『考え、議論する』活動につながる学習過程の工夫」について

- 震災当時幼稚園児であり、中通り地方に住んでいた生徒達にとって、大地震や津波の被害について、普段の生活の中で自分事として考えるのは容易ではないと考えた。そのため、導入時に津波の動画や避難した方々を受け入れた旅館の映像を見せ、当時の状況を理解し、登場人物の心情を把握させる一助とすることができた。
- 登場人物の中で最も考えに変容が見られた兄に注目させたいと考え、「兄の心情の変化」について中心発問を設定した。兄の心情の変化に伴う行動について、自分の考えをもたせ、その後に「トリオ学習」で話し合うことにより、中心価値に迫ることができた。
- 「トリオ学習」での話し合いを継続して行うことで、自分の考えを相手に伝えたり、聞いたりすることができるようになってきた。「何について話すのか」「どのように話し合うのか」を明確にすることで自信をもって考えを伝えることができるようになった。
- 自分の考えをもち、話を聞き合うことはできたが、相手の考えに対して自分の考えを伝え合うなど「議論する」ところまでには至らなかった。今後は、相手の考えに対する自分の考えを述べられるように、問い返しや揺さぶりなどのコーディネートを意図的に行っていきたい。

(2) 「自己を見つめ、多面的・多角的に考える力」につながるための見取りと個に応じた支援の工夫について

- 「同じ福島県民として避難した方々を助けるか」「自分達の生活が大切か」という父と兄の意見のどちらに近いのか、心のものさしにネームプレートを置いて可視化したことで、そこに置いた理由をグループや全体で共有でき、多面的・多角的に考えさせることができた。
- 自分達の生活の中の思いやりにどのようにつながっていくか、最初と最後に同じ発問をすることで個の変容を捉えやすくした。導入では「助けるのは当たり前」など表面的な意見が多かったが、終末では、「相手の立場をよく考える」や「見返りを求めない」など考えを深めて表現していた生徒が見られた。
- 事後研究会では、「兄のその後」については触れなくてもよかったのではないかという意見が出た。どうなったかを教員側から最後に伝えることで、それが正解だと捉え、自分達の考えが間違いだったのではないかと思った生徒もいたようである。人として正しいことをした父を受け入れた兄について、生徒の言葉を引き出して意見を共有しておけばよかったのではないかと、という意見もあった。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

(1) 学習状況について

「考え、議論する」活動に迫るための手立てとして、「トリオ学習」を取り入れた。話し合いを行っている際に、一人一人の考えを見取りながら認めて励ますようにした。また、全体での共有の場においても多面的・多角的な考えができるように意図的指名を行った。

(2) 道徳性に係る成長の様子について

普段は、道徳ノート（今回はワークシート）と振り返りシートを活用している。ノートや振り返りシートから生徒の考えや心の変化、意見を取り上げ、コメントを記入し認めて励ますとともに評価に活かしている。また、生徒のコメントを学級掲示することで、認めて励ますとともに、お互いの考えを共有することができるようにしている。

湯本第二中学校第2学年 道徳科学習指導の実際と考察

日 時：令和元年12月 9日（月） 第5校時
授業者：いわき市立湯本第二中学校 教諭 吉田淳子

授業テーマ	自分らしい生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒の育成 ～人間としての生き方について、多面的・多角的に考えるための指導方法の工夫～
-------	--

- 1 主題名 勤労を通して社会に貢献する C－(13) 勤労
- 2 教材名 「水道部隊の軌跡」（出典：ふくしま道徳教育資料集 第Ⅲ集）
- 3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について（価値観）

勤労には自分の幸福を追求するため収入を得て生活を維持するという面と社会の中で一定の役割を果たして社会を支えるという面がある。さらに人から必要とされ、他人から認められることにより、人は働くことに生きがいを感じ、社会とのつながりを実感することができるのではないだろうか。その尊さや意義を理解し、将来、社会に貢献することのできる職業人をめざそうとする心情を養いたい。

（2）生徒の実態について（生徒観）

2学年となり、職場体験活動に参加することにより、生徒は、将来の職業について考える機会が増えてきている。また、「いわき・わくわくしごと塾」の取り組みにより、様々な立場や職種の方から話を聞く機会が増えるにつれ、仕事を単なる生活維持のための活動から、「仕事にやりがいを感じて働きたい。」と回答する生徒も増えており、「勤労」を意欲的に捉えていると考えられる。

（3）教材及び指導について（教材観及び指導観）

本教材は東日本大震災当時、いわき市水道局の事務所長を務めていた主人公が、大規模な断水に遭遇し、復旧のために尽力する様子が描かれている。さらに追い打ちをかけるように、原子力発電所事故というこれまで経験したことのない困難な状況に遭遇する。他からの支援はもちろん、放射能汚染の恐怖、根拠のない風評被害のため、物資や応援が滞る中、仲間の職員とともに全力で水道復旧に取り組む様子を描いた記録文である。水道復旧後、市民から届く励ましや感謝のメールに自分たちの仕事へのやりがいや喜びを改めて感じるという粗筋になっている。

どんな困難な状況に直面しても自分たちの任務と責任を優先し、一つ一つの障害や課題を乗り越えることができたのはなぜか、勤労の喜びとは何かを気づかせたい。

本時では、ロールプレイングを取り入れ、震災直後の状況や混乱を理解させると共にトリオ学習によって自分とは違う様々な考え方に気づかせ、話し合わせたい。また、「いわき・わくわくしごと塾」や職場体験などの経験を基に、やりがいや誇りをもって仕事に向かう意欲を高めさせたい。

- 4 本時のねらい
勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通して社会に貢献しようとする心情を育てる。

5 板書計画

「仕事を 社会とどう つながる？ 良かった と思う時」 ・他の人 や周りの 人に感謝 された時 ・客が喜 んだ時 ・他の人 の役に立 った時	仕事を 通して ・責任感、 誇り ・仲間や家 族の支え があつた から	復旧作業 を続けた 理由は ・困っている 住民のため に ・自分の仕事 に対する	・原発事故 ・余震 ・食料不足 ・風評被害	写真 3・11 断水の被害 所長の気持 ち こころの状況 を 考えてほしい 困っているの は 誰でも同じ 力が及ばず 申し訳ない	水道部隊の軌跡 断水の被害 電話 「仕事をして 良かったと思 った時」 の結果	勤労を通して・ アンケート
---	---	--	--	--	---	--------------------------

6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○指導上の留意点 ※評価
導入	1 仕事に関する事前アンケートの結果を確認する。 仕事をやったよかったと感じた時 ・「ありがとう」と言われた時 ・「助かった」と言われた時 ・自分がやったことに対してみんなが笑顔になった時 ・やりとげた時の達成感 ・ほめられた時	5	○アンケートを予め実施し、集計しておく。身近な体験から考えを引き出すために係や委員会の仕事、当番の仕事に対しての取り組みを振り返らせる。
展開	2 「水道部隊の軌跡」の内容について話し合う。 ○苦情や問い合わせに対応する私の気持ちを考える。 ・こちらの状況を考えて欲しい ・困っているのは誰でも同じ ・力がおよばず、申し訳ない ・一生懸命やっている ○あなただったらどうするか。 ・仕事を続ける ・どちらともいえない ・仕事を辞める（休む） ◎「私」はなぜ、試練を乗り越えて復旧作業を続けたのか。 ・仕事だから ・困っている住民のために ・自分の仕事に対する責任感・誇り ・仲間や家族の支えがあったから	25	○教材は前半・後半に分けて配付する。最初に前半部分を読み、簡単にあらすじをたどりながら、主人公の現状について確認する。その際、写真等を用いて未曾有の災害であったことを実感させる。 ○トリオ学習で進める。 ○トリオの中でのロールプレイングを通して所長の気持ちと住民のそれぞれのつらさに気づかせる。
開	3 働くことと社会との関わりを考える。 ○働くことは社会とどのようにつながっているのだろうか。様々な職業の人は「やりがい」をどんな時に感じているのだろうか。 ・他の人や周りの人に感謝された時 ・客が喜んでくれた時 ・他の人の役に立った時	15	※仕事について、自分とは違う様々な考え方を理解できたか。（発表・観察） ○今年度「いわき・わくわくしごと塾」の講話や職場体験等を基に、いろいろな職業における「やりがい」が他者との関わりから得られる例を発表させ、共有する。
終末	4 本時で考えたことを振り返りシートにまとめる。 ○本時の学習を通して、これからの自分のことを書いてみよう。	5	※働くことは自分の利益のためだけでなく、社会への奉仕や社会貢献による喜びもあることについて考えられたか。（振り返りシート）

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

（１）「異なる視点や立場に立って考えさせるための中心発問の工夫」について

- 震災当時の記憶がほとんどない生徒にとって震災の教訓を風化させないために、道德科の授業において「ふくしま道德教育資料集」を活用する意義は大きい。当時の写真や体験談に基づき、震災時に人々のために働いた人の苦労や努力について知ることによって「働くこと」の意義を捉えさせることができた。また、「私」の行動を考えることで、勤労の尊さや社会に奉仕する意義を捉えることもできた。
- 「勤労」については、道德科の授業のみならず、いわき市生涯学習課主催の「いわき・わくわくしごと塾」での活動や総合的な学習の時間における職場体験学習とも関連させながら、教育活動全体を通して幅広く取り上げてきた。そのため、「働くこと」の意義を「自分の生活維持のため」だけではなく、「生きがい」「やりがい」などに重きをおいた発言が多く出された。
- 東日本大震災での状況を十分に把握していないと、「私」が試練を乗り越えていくことについて深く考えることが難しかった。

（２）「自分の考えを整理し、自己を見つめるための書く活動の工夫」について

- 自分の考えを他の生徒と共有し、発表につなげられるようにメモをさせた。話し合うための書く活動と位置づけて授業を行ってきた。トリオ学習での話し合いにつなげることができた。
- 授業の振り返りの場面では、「振り返りシート」を活用した。授業の中でどんなことが大事だったのか、どんなことを学べたのかが分かり、評価につながった。
- 話し合いに重点を置いたため、振り返る時間を十分にとることができなかった。

（３）「多面的・多角的に考えさせるための話し合いの工夫」について

- 本校では道德科の授業において話し合い活動としてトリオ学習を取り入れている。３人組で互いの意見を述べ合い、発表者がそれらの意見を参考にしながら自分の意見を述べる形で、授業中少なくとも一人１回は意見を発表することから、友達のいろいろな意見に触れることができた。
- トリオ学習の班の中では活発に話し合いができたが、学級全体で意見を深め合うことができなかった場面もあった。多面的・多角的に考えさせるために教師のコーディネート力がさらに必要である。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

「振り返りシート」の活用

道德科の授業において意見の交換や話し合い活動に時間を充てるために、導入や展開部分で必要以上にワークシートを用いず、終末部分で全学年共通の「振り返りシート」を活用した。「振り返りシート」には、次の項目について記述させた。

- １ 「大切だなあ」と思ったこと
- ２ 「大切だなあ」と思ったことを自分との関わりの中でどう考えたか
- ３ 新たに思ったことや考えたこと

毎時間、全部またはいくつかを選択して記入させることにより、心の変容や価値に迫れたかについて見取り、評価に生かしている。今回の教材では「３」に「人のために働くのは大切」「社会は人と人とが助け合って生活している」「人と自分のためにがんばる」という記述が見られた。

安達高等学校 1 学年 道徳学習指導の実際と考察

日 時：令和元年 1 1 月 8 日（金）第 3 校時

授業者：福島県立安達高等学校 教諭 平田昂大

授業テーマ	福島県や地域を代表する伝統行事について、E S D の視点とかかわらせながら自分とのかかわりで考え、地域のために貢献する姿勢を育てる授業
-------	--

1 主題名 郷土を愛する心をもつ（C-16 郷土の伝統と文化の尊重 郷土を愛する態度）

2 教材名 「野馬追いに懸ける思い」

ふくしま道徳教育資料第Ⅲ集（出典：福島県教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

グローバル化が進展し、様々な文化や価値観の中にある現代社会においては、郷土への愛着や郷土意識が希薄になっている傾向が見られる。しかし、そんな中であっても、郷土を愛する心は、自分の精神的な在り方の礎であったり、地域の発展のために貢献するための大きな原動力となったりするものであり、伝統の継承、新しい文化の創造、そして社会の形成者としてその発展に努める心にもつながる。本授業では、地域の伝統行事のよさや郷土のよさ及びそれらと自分とのかかわりに気づかせ、自分ができることを考える活動を通して、郷土を愛する心を育てる。

(2) 生徒の実態について

本校は地元の中学校から進学している生徒がほとんどであり、生徒の多くは卒業後には県内での就職、進学を希望している。ふるさとが常に身近であるためか、自分が生まれ育ち、今後の生活を築いていきたいと考えている郷土のために、将来貢献したいという気持ちにまでは至っていない様子である。

生徒は次年度、ESD 活動で SDGs に関わる探究活動を行う予定である。地域のために貢献する方法を自分事として考えることを通して、持続可能な社会の担い手を育てる視点とともに郷土愛を育んでいきたい。

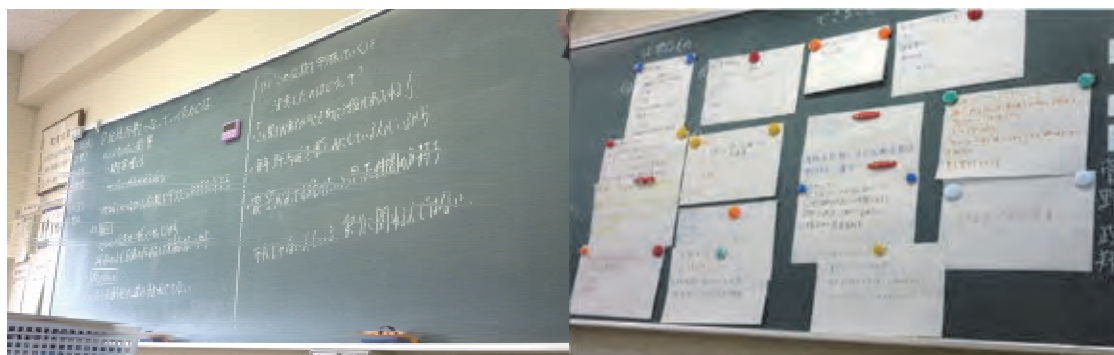
(3) 教材及び指導について

相馬野馬追は、相双地区を代表する伝統行事である。また、生徒の地元の二本松市にも日本三大提灯祭りの 1 つに数えられ提灯祭りがあり、毎年若男女問わず、地元の多くの人々が精力的に参加して執り行われている。その相馬野馬追や提灯祭りにかける地元の人々の思いを自分とのかかわりで考えることを通して、伝統行事が継承されている意味やの大切さに気づき、自分もそれらを継承できるような話し合い活動を行う。

4 本時のねらい

伝統をつなぐ具体策を考える活動を通して、伝統を尊重し、郷土を愛する心を育む。

5 板書計画



6 学習過程

段階	学習活動・内容 (◎中心発問 ・予想される生徒の反応)	時間	○ 指導上の留意点 ※ 評価
導入	1 伝統行事の意義について考える。 発問① 伝統行事が人々に与える影響はなんだと思いますか。 ・ 地域が一つになる ・ 経済効果がある 発問② 提灯祭りは100年以上の歴史がありますが、この先100年後も行われていると思いますか。またその理由も書いてください。 ・ 歴史ある行事で有名だから続く ・ 人口が減っているから続かない	10	○ 多くの屋台や人々が集まり、3日間にわたって地域全体がにぎわう提灯祭りを想起させ、伝統行事がもたらす特別な影響を認識させる。 ○ 他人事としてではなく自分事として捉えられるよう、具体的な未来を想像しながら書くよう指示する。
展開	2 教材「野馬追に懸ける思い」を読み考える。 発問③ 駆が「僕がこの町の、この伝統を守り抜いていく」と決意したのはなぜでしょうか。 ・ 地域の人や観光客が大勢集まる伝統を途切れさせたくなかったから ・ 人々の思いや期待が集まる行事を誇りに思ったから ・ 先人が築き上げた伝統を途絶えさせたくない ・ ふるさとに生きる者としての使命 3 これからの未来に伝統行事をつなぐ方法について考える。 発問④◎ 伝統行事をつなぐために必要なものと、それを受けてあなたにできることは何ですか。 必要なもの ・ 地域の人々の協力 ・ 行事に対する情熱 できること ・ 行事に参加して盛り上げる ・ 行事のよさをSNSで広める 4 グループを作り、意見を交流して自分たちの考えをまとめ、発表する。	10 10 15	○ 相馬野馬追について簡単に説明し、本時の内容を捉えやすくする。 ○ 始めは野馬追の手伝いに消極的であったのに対し、震災で野馬追が中止になった時の駆の父の様子、野馬追が再開された時の地域の人々の歓声を受けて、駆の心情が変化したことを捉えさせたい。 ○ 「駆のような思いや考えは、自分にもあるだろうか」と問いかけ、伝統行事に対する自分の考えを見つめさせる。 ※ 伝統を守り抜くことについての考えを多面的・多角的に考えているか。 ○ 中心発問により、伝統行事に多くの地域の人が協力していることに気付かせ、今の自分にできることを、自己を見つめさせながら考えさせる。 ○ ESD活動の例をあげ、高校生にできそうなことについても考えさせる。 ※ 自分と伝統行事をつなげながら、自分にできることを考えている。 ○ B4用紙に必要なものとできることをそれぞれ書き上げる。書いたものを黒板に貼り、発表する。
終末	5 本時の振り返りを行う。 ○ 本時の内容を受けて、今後伝統行事にどう向き合うか、将来地域とどうかかわるかなど感想を記述する。	5	※ 伝統行事の重要性を考えることを通して、伝統行事を守ろうとする気持ちを持ち、地域に貢献しようとすることができる。＜ワークシート＞

7 考察

「ふくしま道德教育資料集」の活用の視点から

(1)「生徒自身が興味・関心をもち、主体的に考えるような課題を見つける」について

- 学級のほとんどの生徒が参加したことのある身近な提灯祭りの賑わいを想起することで、伝統行事の意義や自分とのかかわりに気づくことができた。
- 「100年後の未来に、地元の伝統行事は残っているだろうか」という問いに対し、地域の課題として向き合い、地域の現状を再認識することができた。
- 「郷土の祭りを自分が守っていききたい」という主人公の思いに共感しつつも、そのような思いはみんなにはあるか、と生徒に問いかけたところ、「ある」と自信をもって挙手する生徒はいなかった。大切だと思っけていても、それを実現させることは難しい時があることに気付く生徒の姿が見られた。
- 生徒の実態や意識を事前に把握するなどして、さらに多様な考えを引き出すなどの工夫があればよかった。



(2)「グループ活動を通して、様々な意見や考えを聞き、多角的な見方や考え方を培うようにする」について

- グループの中で提灯祭りに行ったことのある生徒とそうでない生徒で意見交流することにより、主観的な考えと客観的な考えを引き出し、課題に対して多面的に考えることができた。
- 太鼓台に乗ったことのある生徒の話を取り上げたり、太鼓台に乗ることができない女子に意見を求めたりするなど、参加者視点のより具体的な課題を引き出せれば課題に対する理解をさらに深めることができた。

(3)「他者の考えとの比較を行い、課題に対する最適な解について、検討することにより考えを深める」について

- 伝統行事を後世につなぐ方策について、祭りを運営する側と、観光客として参加する側それぞれの視点に立って考え比較することにより、自分たちができることの可能性を見出すことができた。
- 伝統行事を引き継ぐ大人の具体例として、教員の考えを取り上げてもよかった。



子ども一人一人を受け止めて認め、励ます評価の視点から

- 地域の課題について自分と他者の意見を比較することで、自分の故郷に対する気持ちを再認識できた様子であった。またペアワークやグループワークでは、お互いの考えを認め尊重する場面も見られ、授業の感想に「自分の意見と周りの意見を比べるのが楽しかった」と書く生徒もいた。自由な意見が生きる話し合い活動を通して、自己の考えを伝えることの大切さを認識できるよう今後も継続して指導していきたい。
- 伝統行事の存続と地域住人の郷土に対する思いは密接な関係にあると考える。数十年経った未来でも、思い出のある伝統行事は残っていてほしいと願う生徒が多数いた。その思いを大いに認め、今後の生徒の行動を励ましていきたい。

【Q&A】

道徳科の教育課程 Q & A



新学習指導要領 Q & A [特別の教科 道徳] (小・中)

1 なぜ、「特別の教科」なのですか。今回の教科化で、今までと変わること、変わらないことを教えてください。

「特別の教科 道徳」(以下 道徳科とする)については、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から他教科に先駆けて先行実施される。教科化に際して、「学級担任が担当することが望ましいと考えられること」「数値による評価はなじまないと考えられること」など、各教科にない側面があるため、「特別の教科」という枠組みが設けられた。

また、今回の改訂では、「いじめの問題」等、現実の困難な問題に主体的に対処することのできる実効性ある力を育成する役割が強く求められており、改訂の要点として次の5点が挙げられる。

(1) 目標の明確化

⇒教科の特質と学習活動の明示「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、多面的・多角的に考え、自己(人間)の生き方についての考えを深める学習を通して」

(2) 体系性を高め指導の効果を上げるための内容の改善

⇒「それぞれの内容を端的に表す言葉を付記」や「内容項目についての整理」等

(3) 多様な指導方法の工夫

⇒「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の例示

(4) 魅力的な教材の開発や活用の工夫

⇒地域教材の積極的な開発と活用

(5) 評価

⇒数値による評価は引き続き行わないこととし、児童・生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を様子を継続的に把握

なお、これまでの「道徳の時間」と同様に、学校の教育活動全体で行う道徳教育の「要」としての役割を果たすことは今までと何ら変わらない。

2 道徳教育の全体計画等の作成に当たって、どんなことに配慮すべきか。

以下のポイントについて、学校としての計画(ロードマップ)を明確に描くことができるのか、円滑な実施に向けた、今後の大きなポイントとなる。

- 「重点目標」「指導の重点化」(重点とする内容項目の設定)を校長の方針の下、道徳教育推進教師が中心となり、全職員が共有しながら作成しているか。また、全体計画の項目は、総則等に照らして適切か。
- 「学校のいじめ防止基本方針」や「各種教育の目標や全体計画」等と道徳教育との関連性や整合性が図られているか。
- 別業をどのような形式でどのような計画でつくり、いかに実効性のある計画にしているか。
- 評価をいつ、どのような体制で実施していくのか、保護者等にどのタイミングで周知していくか。

3 道徳科の授業を原則的に担任が行うのはなぜか。担任が授業を行う際、配慮すべきことはあるか。

道徳科の授業を原則的に担任が行う理由としては、「学級担任が児童生徒の実態に精通していること、時間的にも触れ合う機会が多く、継続的に道徳性の成長を見ることができること」が挙げられる。しかしながら、あくまでも「原則」であり、担任一人が全てを担うことを意味する訳ではない。

例えば、校長や教頭が参加する授業を行うことはもちろん、教員同士が互いに授業を交換して見合うなど、チームとして取り組んで、子どもについて情報交換したり、評価の視点や方法等について、学年内、学校内で共通認識をもったりすることが効果的である。

つまりは、学級担任授業を行うことを原則としながら、学校、学年としての組織的に対応することが大切である。

4 教科用図書の教材と従来活用していた「副読本」の資料の違いは何か。教科用図書が導入されたことで、どのような点に留意すべきか。

学校教育法34条には、「小学校においては、文部科学大臣の検定を経た教科用図書又は文部科学省が著作の名義を有する教科用図書を使用しなければならない。」（中学校にも準用）さらに、教科書の発行に関する臨時措置法第2条には、「教科書」とは、…学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材…」とされ、「主たる教材」としての使用義務が明記されており、この点において、「教科書に準じて作られている補助的な図書」としての「副読本」と大きな違いがある。

検定教科書の導入により、年間指導計画の作成等の教育課程編成作業においては、教科書中のどの教材をどの時期に配列するか等について、各教科等の学習内容や体験活動等との関連を踏まえながら、しっかりと精査する視点がより重要となる。

5 道徳科の年間指導計画を作成するにあたり、ふくしま道徳資料集や市町村発行の資料集掲載の教材等を、教科書中の教材に代わって位置付けることは可能か。可能であるとすれば、その位置付けにあたって、どのような配慮が必要か。

「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点」には、「…道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となる。…地域教材の開発や活用にも努めることが望ましい」と記述され、地域教材を意図的・計画的・組織的に開発し、活用することが望ましいとされている。

このことにより、「ふくしま道徳教育資料集」（県教委発行）及び「市町村発行の道徳教育資料集」等を、年間指導計画に「副教材」として積極的に位置付けることは、道徳科の趣旨と内容の実現に向けて非常に有効である。

なお、地域教材の開発にあっては、教材の具備すべき条件を備えているか精査するとともに、年間指導計画への位置付けに際しては、「教科書教材」に加えて「副教材」として併記し、その対応を明らかにすることが望ましい。

加えて、自校及び学年の重点とする内容・項目に照らして、教科書中の教材数が不足している場合、「私たちの道徳WEB版（文部科学省）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文部科学省）」「ふくしま道徳教育資料集」等を主教材として位置付けることが可能である旨を付記しておく。

6 学校で決めた道徳教育の重点内容項目に対して、教科書教材が一部不足してしまうような場合、どのような対応が考えられるか。

各学校の道徳教育の重点内容・項目は、校長の指導の下、全職員が共通理解して設定した、とりわけ重要な内容の一つであることは言うまでもない。万が一、教科書教材数に合わせて、各学校の重点内容項目が設定されるということになれば、児童生徒の実態、地域や保護者、教師の願いが道徳教育に位置付けられないということになってしまう。そこで、このような場合は「ふくしま道徳教育資料集（県教委）」「小（中）学校道徳読み物資料集（文科省）」「私たちの道徳（WEB版）」等を主たる教材として位置付ける対応が考えられる。その際は、特記事項等にその旨を明記し、次年度以降の教育課程編成の参考となるように配慮してほしい。

7 自作教材は、今後活用することができなくなるのか。

自作教材の作成と活用については、授業者単独の判断であったり、その場限りの活用となったりしないことが大切である。そのためには、「小（中）学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 第2節 内容項目の指導の観点」に照らして、児童生徒の発達の段階や特性に見合っているか、さらに「同第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 第4節 道徳科の教材に求められる内容の観点」に沿っているかを踏まえて、教材の具備すべき条件を備えているか事前に精査し、その使用が適切かどうか、校長の指導の下、学年や学校で共通認識をもって確認する手続きが必要となる。

8 「考え、議論する道徳」に代わって、「問題解決的な学習」や「道徳的行為に関する体験的な学習」などの質の高い多様な指導方法を耳にするようになった。両者は、どのようにつながっているのか。これから求められる多様な指導方法について教えてほしい。

『特別の教科 道徳』の指導方法と評価について（報告）平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議においては、これから求められる質の高い多様な指導方法の例示として、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」の3つが示された。これらは「考え、議論する道徳」をより具体化したものであると考えられ、それぞれが独立した指導の「型」を示しているのではなく、それぞれの要素を組み合わせた指導も考えられるとされている。今後は、各学校において、これら3つの指導方法を目安とした指導方法の開発と研究が推進されることを期待したい。

9 複式学級における道徳科の授業をどうつくればよいか分からない。どのように計画を立案すればよいのか教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」では、「各学年の内容項目について、相当する学年において全て取り上げることとする。」とされており、該当する学年の全ての内容項目を取り扱うことが教育課程編成上必須の要件となる。

さらに、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編 第3章 道徳科の内容 第1節 内容構成の考え方（3）」には、「～特に必要な場合は、他の学年の内容項目の指導を加えることはできる」とされており、いわゆる飛び複式学級や変則複式学級の指導にお

いて、該当学年において取り扱わない内容項目を加えて指導できる旨が明記されている。
これらを踏まえると、「特別の教科 道徳」の複式学級における教育課程編成に際しては、次の3例が想定される。

- A 学年別の学習とし、それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習（「直接指導」と「間接指導」の組み合わせによる指導。通常の教科書給与による）
- B 2年間分をそれぞれ第1年次（A年度）と第2年次（B年度）別に平均に配当し、両学年が同目標内容で学習（該当する両学年の教科書の同時（一括）給与）
- C 2年間分の学習内容について、A年度は○学年の教材を主に、B年度は●学年の教材を主に配当し、両学年が同目標内容で学習（A年度は○学年の教科書給与、B年度は●学年の教科書給与）

いずれの例においても、メリットとデメリットがあり、どのような教育課程を編成するかは、自校及び児童生徒の実態をどうとらえて、学校として最も適切な教育課程を編成するかが問われるところである。

なお、いずれの例においても、今後の学級編成の推移を想定したり、教科書給与上の事務手続きを適切に行ったりするなど、学校全体として見通しをもった対応が求められる。

さらに、市町村の様々な事情により、ケースが限られる場合もあるので、各市町村教育委員会に確認願いたい。

10 複式学級の教育課程編成を行うにあたり、通常の学年通りの教科書の一括給与を行い、学年別の指導（それぞれの学年がそれぞれの目標内容で学習）を行うための道徳科の年間指導計画を作成する際、何か配慮・工夫する点はあるか。

例えば、同じ内容項目を同時期・同時間に配当することにより、学年別と学級全体の学習形態を組み合わせる弾力的な学習指導を実施することなどが考えられる。具体的には、次の例の通りである。

（例）3・4学年（複式学級）において、5月第2週の同時間に、いずれの学年も同じ内容項目（親切・思いやり）を扱い、共通のねらいを設定した年間指導計画を構想

- ☐ 導入は両学年合同の活動とし、ねらいとする内容・項目（親切・思いやり）についての方向付けを図る。
- ☐ 展開前段の活動は各学年別で行い、各学年別の教材を活用して、「親切・思いやり」を追求する。その際は、直接指導と間接指導を組み合わせる実施したり、管理職を含めた教師の協力的な指導を行ったりしながら、各学年の児童の実態に合った展開を工夫する。
- ☐ 展開後段（自己を見つめる時間）と終末は、両学年合同に戻し、展開前段で話し合った「親切・思いやり」について紹介し合ったり、「親切・思いやり」にかかわって自分の生活を見つめ直したりする。

この例は、あくまでも学校の創意工夫の一つでしかない。校長の指導の下、各学校の実態に応じたカリキュラムを全職員の共通理解の基に計画し、実践していくことが大切である。

なお、教材に描かれた特性（季節や行事等）により、同じ内容項目であってもどうしても同時期・同時間で組み合わせることのできない内容もあると考える。その場合、例えば、学校や学級で重点的に扱う内容・項目等についてのみ同時期・同時間で扱うなど、自校の共通方針に基づいて、柔軟に年間指導計画を作成することが大切である。

- 11 特別支援学校における道徳科の授業の位置付けは、教科化される前と変わるか。
また、道徳教育の全体計画や指導計画を作成する上で、どのような点に留意すべきか。
さらに、小・中学校の特別支援学級では、どのような点に留意すべきか。

特別支援学校においても、道徳科の目標、内容及び指導計画の作成と内容の取扱いは、小学校又は中学校に準ずることとなっている。準ずるということは、同一ということの意味しているため、小学校及び中学校学習指導要領に示されているとおりに取り扱わなければならない。しかし、知的障がい特別支援学校においては、各教科等の一部又は全部を合わせて指導を行える規定（学校教育法施行規則第130条第2項）があることから、この規定により各教科等を合わせた指導の中で適切に扱う場合もあるため、取扱いについては自校の教育課程によるとされている。

特別支援学校学習指導要領第5章 特別の教科 道徳には、指導計画の作成や内容の取扱いについて、3つの配慮事項が示されていることから、それらを十分に配慮する必要がある。

また、特別支援学級においても、小・中学校に設置されている学級であることから小学校及び中学校学習指導要領を踏まえる必要がある。しかし、知的障がい特別支援学級において特別支援学校の学習指導要領を参考としている場合は、上記と同様である。

- 12 「大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあるが、具体的に教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領解説「第5章 第2節 道徳科における児童（生徒）の学習状況及び成長の様子について」の「道徳科に関する評価の基本的な考え方」には、「道徳科の学習状況の評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童（生徒）の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要がある。」とされている。指導要録の記入上の大きくくりなまとまりは、一年間を指すが、児童生徒を受け止めて認め、励ます評価を、どの時期にどう実施し、児童生徒や保護者に還元していくか、各学校で設定する必要がある。保護者に還元していく方法が、通知表へ記述する、面談でお知らせするなど、どのように実施するかについては、各学校の判断に委ねられる。いずれの場合も、市町村教育委員会の指導助言の基、進めていくことが大切である。

- 13 評価にかかわって、「個々の内容項目ごとではなく」とは、どうとらえればよいのか、教えてほしい。

一つ一つの内容項目ごと（授業ごと）に、「ABC」や「数値」等による評価をしないことを意味する。「内容項目について記述してはいけない」ということではなく、各学校が設定した大きくくりなまとまりの期間で、児童生徒がいかに成長したかという点からの個人内評価として実施し、把握した学習状況や道徳性の成長に係る様子の中で特に顕著なものを評価することから、児童生徒の成長を特に表す内容項目にふれることは何ら問題はない。当然ながら、児童生徒や保護者に評価を還元することにより、児童生徒を積極的に認め励ましたり、その後の指導に生かしたりする役割があることも言うまでもない。

14 道徳性の諸様相（道徳的判断力、心情、実践意欲と態度）を評価の観点とすることはなぜ適当ではないのか。また、個人内評価であっても、何らかの観点がないと、評価ができないのではないのか。

「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」はそれぞれ独立したものではなく、相互に関係し合っており、切り分けられないものであることから、これらを資質・能力の3つの柱にそれぞれ分けて位置付けることはできないものと考えられる。

児童生徒の人格そのものに働きかけ、道徳性を養うことを目的とする道徳科の評価としては、観点別に分析的に評価する（観点ごとにABCを付ける）ことは適当ではないと考えられる。

一方で、評価を行い、指導の改善等につなげるためには、授業の中でどのような児童生徒の姿に着目するかという、視点をもつことが大切であると考えられる。小（中）学習指導要領解説編では、学習活動において児童生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事象について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか
- といった2点を重視して評価を実施することが大切である。

15 道徳科の授業で行われる評価を、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価と関連させ、よく行動できている点について積極的に評価したいと考えているが大丈夫か。道徳科の評価について教えてほしい。

学校生活で見られる姿は、これまで通り「行動の記録」の要素となる。

道徳科における評価は、道徳科の授業を行った結果として見られた「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を見るものであるため、授業の中で見られた発言や記述などを基に評価を行うことになる。

道徳科の評価を行う基本的な方向性として、次の5点を確認しておきたい。

- (1) 数値による評価ではなく、記述式とすること。
- (2) 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること。
- (3) 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価とすること。
- (4) 学習活動において、児童生徒が多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかといった点を重視すること
- (5) 調査書に記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することのないようにする必要があること。

16 道徳科の教育課程編成上、「これだけは …」というポイントがあれば、教えてほしい。

小（中）学校学習指導要領（平成29年3月）・第3章特別の教科道徳・第3指導計画の作成と内容の取扱いの1には、「…第2に示す（各学年段階の）内容項目について、相当する学年（各学年）において全て取り上げることとする」とされている。小学校低学年19項目・中学年20項目、高学年22項目、中学校22項目の内容項目を全て取り上げることは必須要件となるので、各学年の年間指導計画を必ず確認してほしい。

17 教科化に際して、教職員の研修を充実させたいと考えているが、参考になるホームページや資料等を教えてほしい。

以下の報告書や動画等について、校内研修、教育課程編成等の参考にさせていただきたい。

〔学習指導要領等〕

- 小(中)学校学習指導要領 平成29年3月31日 文部科学省(文部科学省HP)
- 小(中)学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 平成29年7月文部科学省(文部科学省HP)

〔通知等〕

- 学習指導要領の一部改正に伴う小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)(28教義第846号 平成28年8月10日付)

〔報告書・広報誌等〕

- 「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議(文部科学省HP)
- 福島県道徳教育推進報告書(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のとびら(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳のかけ橋(福島県教育庁義務教育課HP)
- 道徳の礎(福島県教育庁義務教育課HP)

〔動画等〕

- 道徳教育アーカイブ(<https://doutoku.mext.go.jp>)
- 校内研修シリーズ「道徳教育」(独立行政法人教職員支援機構HP)

令和2年3月 6日 印刷
令和2年3月13日 発行

福島県教育委員会



◆ ふくしま道徳教育資料集三部作 ◆

第Ⅰ集 生きぬく・いのち

第Ⅱ集 敬愛・つながる思い

第Ⅲ集 郷土愛・ふくしまの未来へ



ふくしまから
はじめよう。



福島県教育委員会

(この冊子は、下記のアドレスよりダウンロードできます。)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70056a>